

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re application of

Jyun-ichi INAGAKI et al.

Serial No. NEW : **Attn: APPLICATION BRANCH**

Filed March 12, 2004 : Attorney Docket No. 2004-0359A

COMPOUND HAVING A
SILSESQUIOXANE STRUCTURE
AND ITS POLYMER

CLAIM OF PRIORITY UNDER 35 USC 119

Commissioner for Patents

P.O. Box 1450
Alexandria, VA 22313-1450

THE COMMISSIONER IS AUTHORIZED
TO CHARGE ANY DEFICIENCY IN THE
FEE FOR THIS PAPER TO DEPOSIT
ACCOUNT NO. 23-0975.

Sir:

Applicants in the above-entitled application hereby claim the date of priority under the International Convention of Japanese Patent Application No. 2003-067768, filed March 13, 2003, and Japanese Patent Application No. 2003-114221, filed April 18, 2003, as acknowledged in the Declaration of this application.

Certified copies of these Japanese Patent Applications are submitted herewith.

Respectfully submitted,

Jyun-ichi INAGAKI et al.

By:


Michael R. Davis
Registration No. 25,134
Attorney for Applicants

MRD/pth
Washington, D.C. 20006-1021
Telephone (202) 721-8200
Facsimile (202) 721-8250
March 12, 2004

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日 2003年 3月13日
Date of Application:

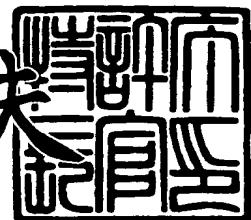
出願番号 特願2003-067768
Application Number:
[ST. 10/C] : [JP2003-067768]

出願人 チッソ株式会社
Applicant(s): チッソ石油化学株式会社

2004年 2月 4日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



【書類名】 特許願

【整理番号】 770157

【提出日】 平成15年 3月13日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 C08G 83/00

C08G 73/10

【発明者】

【住所又は居所】 千葉県市原市五井海岸5番地の1 チッソ石油化学株式会社 機能材料研究所内

【氏名】 稲垣 順一

【発明者】

【住所又は居所】 千葉県市原市五井海岸5番地の1 チッソ石油化学株式会社 機能材料研究所内

【氏名】 笹田 康幸

【発明者】

【住所又は居所】 千葉県市原市五井海岸5番地の1 チッソ石油化学株式会社 機能材料研究所内

【氏名】 加藤 孝

【特許出願人】

【識別番号】 000002071

【氏名又は名称】 チッソ株式会社

【代表者】 後藤 舜吉

【電話番号】 03-3534-9826

【特許出願人】

【識別番号】 596032100

【氏名又は名称】 チッソ石油化学株式会社

【代表者】 ▲かせ▼野 修平

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 012276

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 要約書 1

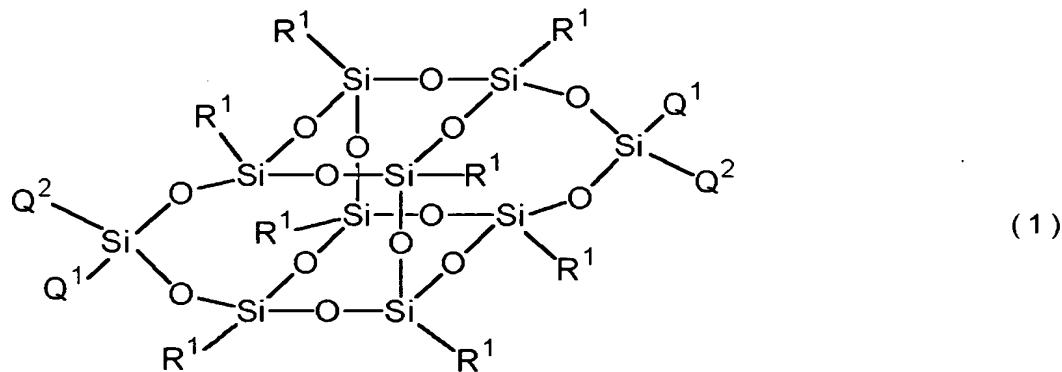
【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

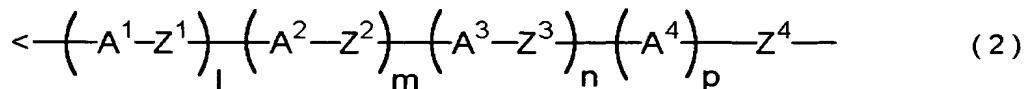
【発明の名称】 シルセスキオキサン骨格を有する重合体および化合物

【特許請求の範囲】

【請求項1】 式(1)で示される構成単位を有する重合体。

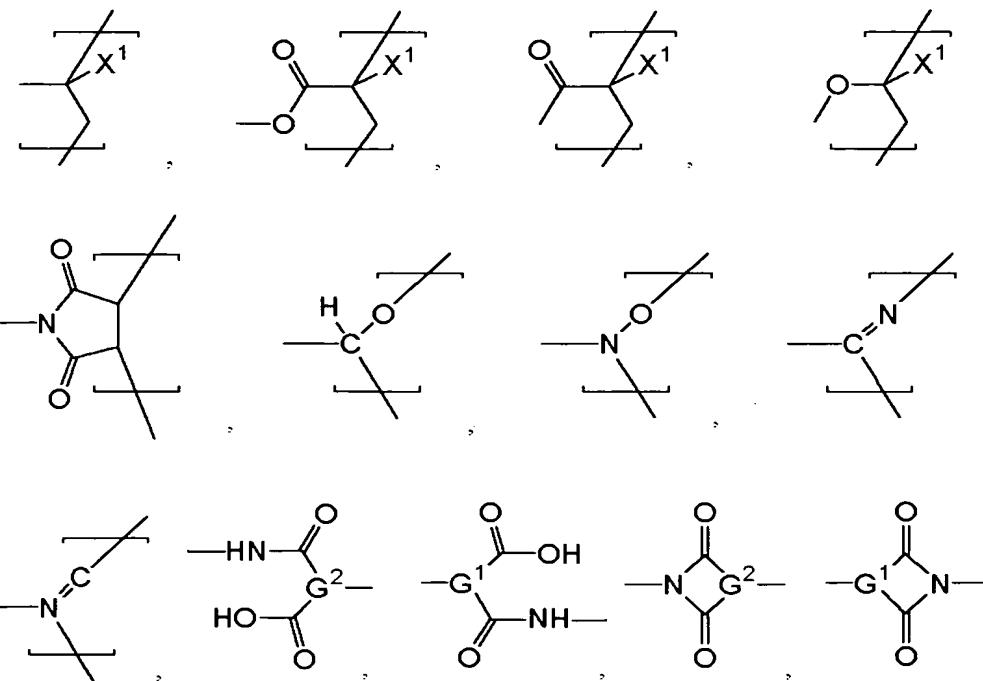


式(1)において、R¹は任意の水素がハロゲンまたは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、この炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の—CH₂—は—O—で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい；Q¹は水素、ハロゲン、炭素数1～10のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、シクロヘキセニル、または任意の水素がハロゲンもしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、炭素数1～10のアルキルおよびフェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の—CH₂—は—O—、—CH=CH—または—C≡C—で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい；そして、Q²は式(2)で表される基である。



式(2)において、<はケイ素との結合点を示す；1、m、nおよびpは独立して0、1、2または3である；A¹、A²、A³およびA⁴は独立して単結合、1,4-シクロヘキシレン、1,4-シクロヘキセニレン、炭素数6～10の縮

合環基または1, 4-フェニレンであり、これらの環において、相隣接しない任意の-CH₂-は-O-で置き換えられてもよく、任意の-CH=は-N=で置き換えられてもよい；そして、すべての環における任意の水素はハロゲン、-CN、-NO₂または炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよく、この炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の-CH₂-は-O-、-CH=CH-または-C≡C-で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい；Z¹、Z²およびZ³は独立して単結合、-CH=CH-、-C≡C-、-COO-、-OCO-、または炭素数1～10のアルキレンであり、このアルキレンにおいて、任意の-CH₂-は-O-、-S-、-NH-、-SiR₂²-、-SiR₂²O-、-OSiR₂²-、-OSiR₂²O-、-COO-、-OCO-、-CH=CH-または-C≡C-で置き換えられてもよい；R²はハロゲン、炭素数1～10のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、シクロヘキセニル、または任意の水素がハロゲンもしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、炭素数1～10のアルキルおよびフェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の-CH₂-は-O-、-CH=CH-または-C≡C-で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい；Z⁴は単結合、-CH=CH-、-C≡C-、-COO-、-OCO-、または-W¹-T¹-で示される基である；W¹は単結合または炭素数1～10のアルキレンであり、このアルキレン中の相隣接しない任意の-CH₂-は-O-、-COO-、-OCO-、-CH=CH-または-C≡C-で置き換えられてもよい；そして、T¹は-O-、-S-、-SiR₂²-、-SiR₂²O-、-OSiR₂²-、-OSiR₂²O-、-CO-、-COO-、-OCO-、-CSO-、-OCS-、-CONR³-、-NR³CO-、-CONR³O-、-ONR³CO-、-OCONR³-、-NR³CONR³-、-NR³COO-、-OCOO-、-CH(OH)CH₂-、-CH₂CH(OH)-、-CH=CH-、-CH₂CR⁴=CR⁵CH₂-、-SO₂-、-SO₂O-、-OSO₂-、-SO₂S-、-SSO₂-、-SO₂NR³-、-NR³SO₂-、または下記に示される基のいずれかである。



T 1 に関するこれらの基において、R² は前記の通りである；R³ は水素、炭素数1～10のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、シクロヘキセニル、または任意の水素がハロゲンもしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、炭素数1～10のアルキルにおいて、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよく、フェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の—CH₂—は—O—、—CH=CH—または—C≡C—で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい；R⁴、R⁵ およびX¹ は独立して水素、ハロゲン、—CN または炭素数1～10のアルキルであり、この炭素数1～10のアルキルにおいて、相隣接しない任意の—CH₂—は—O—で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい；G¹ は3価の有機基であり、G² はトリカルボン酸類の残基の一部またはテトラカルボン酸類の残基の一部である。

【請求項2】式(1)中のR¹が、任意の水素がフッ素または塩素で置き換えられてもよいフェニルである、請求項1に記載の重合体。

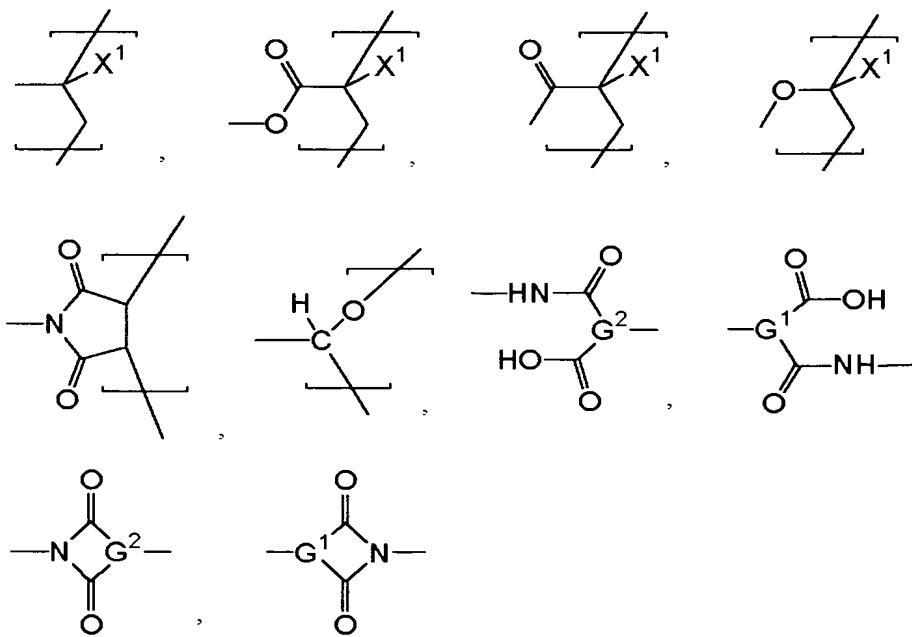
【請求項3】式(1)において、R¹が任意の水素がフッ素または塩素で置

き換えられてもよいフェニルであり、 Q^1 が任意の水素がフッ素で置き換えられてもよい炭素数 1 ~ 10 のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシルまたは任意の水素がフッ素、塩素もしくは炭素数 1 ~ 5 のアルキルで置き換えられてもよいフェニルである、請求項 1 に記載の重合体。ここに、フェニルの置換基である炭素数 1 ~ 5 のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい。

【請求項 4】式 (1) において、 R^1 が任意の水素がフッ素または塩素で置き換えられてもよいフェニルであり、 Q^1 が任意の水素がフッ素で置き換えられてもよい炭素数 1 ~ 10 のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素、塩素もしくは炭素数 1 ~ 5 のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、 Q^2 が式 (2) で示される基である、請求項 1 に記載の重合体。

ここに、フェニルの置換基である炭素数 1 ~ 5 のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい；式 (2) における A^1 、 A^2 、 A^3 および A^4 は、独立して、単結合、1, 4-シクロヘキシレン、1, 4-シクロヘキセニレン、炭素数 6 ~ 10 の縮合環基または 1, 4-フェニレンであり、これらの環において、任意の水素はフッ素、塩素または炭素数 1 ~ 5 のアルキルに置き換えられてもよい；そして、この炭素数 1 ~ 5 のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい；式 (2) における Z^1 、 Z^2 および Z^3 は、独立して、単結合、 $-CH=C$ $H-$ 、 $-C\equiv C-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ または炭素数 1 ~ 10 のアルキレンであり、この炭素数 1 ~ 10 のアルキレンにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ 、 $-NH-$ 、 $-SiR^2_2-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-CH=CH-$ または $-C\equiv C-$ で置き換えられてもよい； R^2 はハロゲン、任意の水素がフッ素で置き換えられてもよい炭素数 1 ~ 10 のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素、塩素または炭素数 1 ~ 5 のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、こ

のフェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい；式(2)における Z^4 は、単結合、 $-CH=CH-$ 、 $-C\equiv C-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、または $-W^1-T^1-$ で示される基である； W^1 は単結合または炭素数1～10のアルキレンであり、この炭素数1～10のアルキレンにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-CH=CH-$ または $-C\equiv C-$ で置き換えられてもよい；そして T^1 は、 $-O-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-CONR^3-$ 、 $-NR^3CO-$ 、 $-OCO$
 $O-$ 、 $-CH(OH)CH_2-$ 、 $-CH_2CH(OH)-$ 、 $-CH=CH-$ 、 $-CH_2CR^4=CR^5CH_2-$ 、 $-SO_2-$ 、または下記に示される基のいずれかである。



T^1 に関するこれらの基において、 R^3 は水素、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい炭素数1～5のアルキル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素、塩素または炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルである；このフェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい； R^4 、 R^5 および X^1 は、独立して、水

素、フッ素、塩素または炭素数1～5のアルキルであり、この炭素数1～5のアルキルにおいて、任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい；そして G^1 は3価の有機基であり、 G^2 はトリカルボン酸類の残基の一部またはテトラカルボン酸類の残基の一部である。

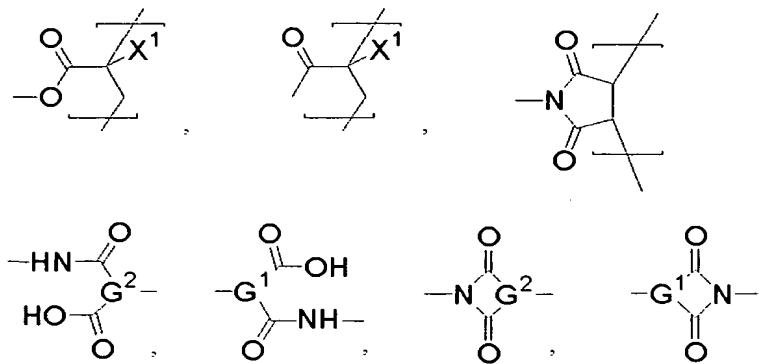
【請求項5】 R^1 がフェニルである、請求項4に記載の重合体。

【請求項6】 R^1 がフェニルであり、 Q^1 が炭素数1～5のアルキル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素または炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルである、請求項4に記載の重合体。

ここに、フェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい。

【請求項7】 R^1 がフェニルであり、 Q^1 が炭素数1～5のアルキル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素もしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、 A^1 、 A^2 、 A^3 および A^4 が独立して単結合または任意の水素がフッ素、塩素もしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよい $1,4$ -フェニレンであり、 Z^1 、 Z^2 および Z^3 が独立して単結合、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、または相隣接しない任意の $-CH_2-$ が $-O-$ 、 $-COO-$ もしくは $-OCO-$ で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキレンであり、 Z^4 が単結合、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、または $-W^1-T^1$ で表される基である、請求項4に記載の重合体。

ここに、フェニルまたは $1,4$ -フェニレンの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい； W^1 は単結合または炭素数1～10のアルキレンであり、このアルキレン中の相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ 、 $-COO-$ または $-OCO-$ で置き換えられてもよい； T^1 は、 $-O-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-CONR^3-$ 、 $-NR^3CO-$ 、または下記に示される基のいずれかである。

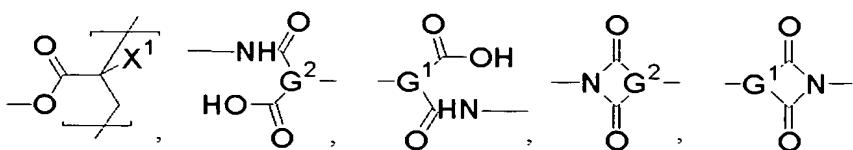


T¹に関するこれらの基において、R³は水素、炭素数1～5のアルキルまたはフェニルである；X¹は水素、フッ素、または炭素数1～5のアルキルである；そしてG¹は3価の有機基であり、G²はトリカルボン酸類の残基の一部またはテトラカルボン酸類の残基の一部である。

【請求項8】 Q¹がメチルまたはフェニルである、請求項7に記載の重合体

【請求項9】 Q¹がメチルまたはフェニルであり、A¹、A²、A³およびA⁴が独立して単結合または1,4-フェニレンであり、Z¹、Z²およびZ³が独立して単結合、-COO-、-OCO-、または相隣接しない任意の-CH₂-が-O-、-COO-または-OCO-で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキレンであり、Z⁴が単結合、-COO-、-OCO-、または-W¹-T¹-で表される基である、請求項7に記載の重合体。

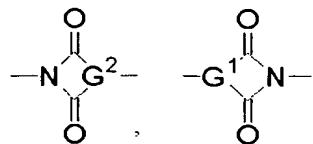
ここに、W¹は単結合または相隣接しない任意の-CH₂-が-O-、-COO-または-OCO-で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキレンである；そして、T¹は-O-、-COO-、-OCO-、-CONR³-、-NR³CO-、または下記に示される基のいずれかである。



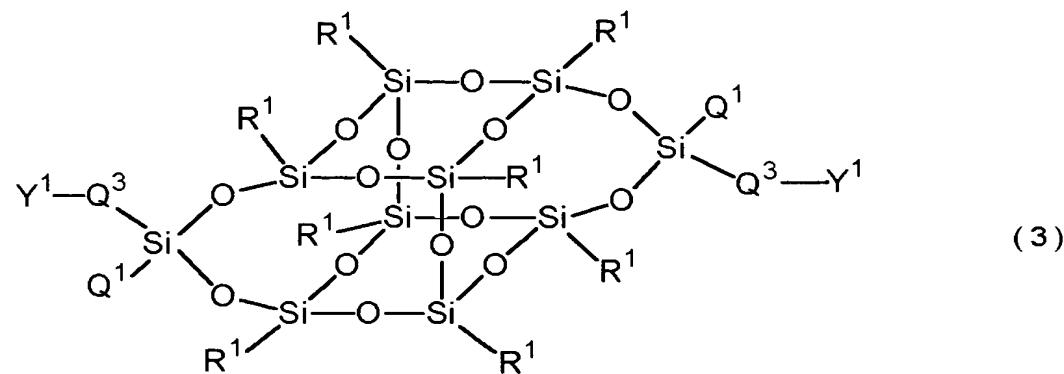
T¹に関するこれらの基において、R³は水素またはメチルである；X¹は水素またはメチルである；そしてG¹は3価の有機基であり、G²はトリカルボン酸

類の残基の一部またはテトラカルボン酸類の残基の一部である。

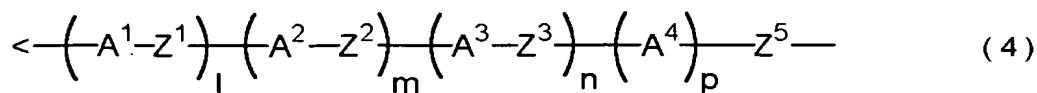
【請求項10】 T^1 が $-O-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-CONR^3-$ 、 $-NR^3CO-$ 、 または下記に示される基のいずれかである、請求項9に記載の重合体。



【請求項11】 請求項1に記載の重合体の製造に用いられる式(3)で示される化合物。

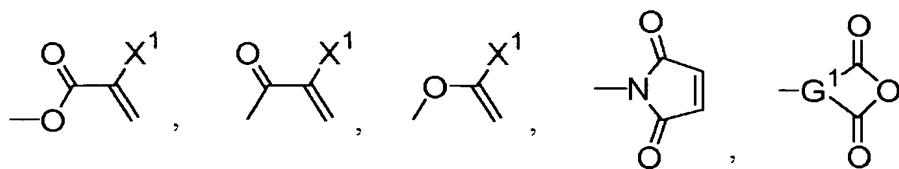


式(3)において、 R^1 は任意の水素がハロゲンまたは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、この炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい； Q^1 は水素、ハロゲン、炭素数1～10のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、シクロヘキセニル、または任意の水素がハロゲンもしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、炭素数1～10のアルキルおよびフェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ 、 $-CH=CH-$ または $-C\equiv C-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい；そして、 Q^3 は式(4)で示される基である。



式(4)において、<はケイ素との結合点を示す；1、m、nおよびpは独立して0、1、2または3である；A¹、A²、A³およびA⁴は独立して単結合、1,4-シクロヘキシレン、1,4-シクロヘキセニレン、炭素数6～10の縮合環基または1,4-フェニレンであり、これらの環において、相隣接しない任意の-CH₂-は-O-で置き換えられてもよく、任意の-CH=は-N=で置き換えられてもよい；そして、すべての環における任意の水素はハロゲン、-CN、-NO₂または炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよく、この炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の-CH₂-は-O-、-CH=CH-、-C≡C-、-COO-、-OCO-または炭素数1～10のアルキレンであり、このアルキレンにおいて、任意の-CH₂-は-O-、-S-、-NH-、-SiR₂₂-、-SiR₂₂O-、-OSiR₂₂-、-OSiR₂₂O-、-COO-、-OCO-、-CH=CH-または-C≡C-で置き換えられてもよい；R²はハロゲン、炭素数1～10のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、シクロヘキセニル、または任意の水素がハロゲンもしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、炭素数1～10のアルキルおよびフェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の-CH₂-は-O-、-CH=CH-または-C≡C-で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい；Z⁵は単結合、-CH=CH-、-C≡C-、-COO-、-OCO-または炭素数1～10のアルキレンであり、この炭素数1～10のアルキレンにおいて、相隣接しない任意の-CH₂-は-O-、-COO-、-OCO-、-CH=CH-または-C≡C-で置き換えられてもよい；そしてY¹は、ハロゲン、-OM¹、-SM¹、-CHO、-COOR⁶、-CSOR⁶、-CSSR⁶、-NHR⁷、-COX²、-CSX²、-OCOX²、-OCOOR⁶、

$-N=C=O$ 、 $-CN$ 、 $-C\equiv CH$ 、 $-CR^4=CH_2$ 、 $-CR^4=CR^5CO$
 OR^6 、 $-CH=CR^4CR^5=CH_2$ 、 $-SO_2X^2$ 、エポキシを有する基、
 または下記に示される基のいずれかである。



Y^1 に関するこれらの基において、 M^1 は水素またはアルカリ金属である； R^6 は水素、アルカリ金属または炭素数 1 ~ 10 のアルキルであり、この炭素数 1 ~ 10 のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい； R^7 は水素、炭素数 1 ~ 10 のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、シクロヘキセニル、または任意の水素がハロゲンまたは炭素数 1 ~ 5 のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、この炭素数 1 ~ 10 のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい；そして、フェニルの置換基である炭素数 1 ~ 5 のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ 、 $-CH=CH-$ または $-C\equiv C-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい； X^2 はハロゲンである； R^4 、 R^5 および X^1 は独立して水素、ハロゲン、 $-CN$ または炭素数 1 ~ 10 のアルキルであり、この炭素数 1 ~ 10 のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい； G^1 は 3 倍の有機基である。

【請求項 12】式 (3) 中の R^1 が、任意の水素がフッ素または塩素で置き換えられてもよいフェニルである、請求項 11 に記載の化合物。

【請求項 13】式 (3) において、 R^1 が任意の水素がフッ素または塩素で置き換えられてもよいフェニルであり、 Q^1 が任意の水素がフッ素で置き換えられてもよい炭素数 1 ~ 10 のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素、塩素もしくは炭素数 1

～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルである、請求項11に記載の化合物。

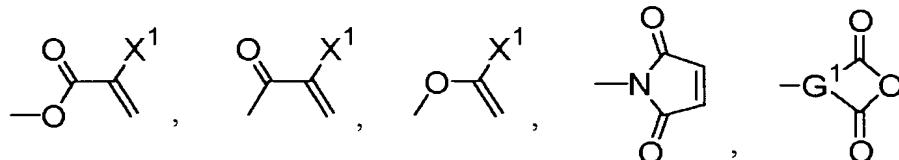
ここに、フェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい。

【請求項14】式(3)において、R¹が任意の水素がフッ素または塩素で置き換えられてもよいフェニルであり、Q¹が任意の水素がフッ素で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素、塩素もしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、Q³が式(4)で示される基である、請求項11に記載の化合物。

ここに、フェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい；式(4)におけるA¹、A²、A³およびA⁴は、独立して、単結合、1,4-シクロヘキシレン、1,4-シクロヘキセニレン、炭素数6～10の縮合環基または1,4-フェニレンであり、これらの環において、任意の水素はフッ素、塩素または炭素数1～5のアルキルに置き換えられてもよい；そして、この炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい；式(4)におけるZ¹、Z²およびZ³は、独立して、単結合、 $-CH=CH-$ 、 $-C\equiv C-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ または炭素数1～10のアルキレンであり、この炭素数1～10のアルキレンにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ 、 $-NH-$ 、 $-SiR^2_2-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-CH=CH-$ または $-C\equiv C-$ で置き換えられてもよい；R²はハロゲン、任意の水素がフッ素で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素、塩素もしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、このフェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換

えられてもよい；式（4）における Z^5 は、単結合、 $-CH=CH-$ 、 $-C\equiv C-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ または炭素数1～10のアルキレンであり、この炭素数1～10のアルキレンにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-CH=CH-$ または $-C\equiv C-$ で置き換えられてもよい。

【請求項15】式（3）において、 R^1 が任意の水素がフッ素または塩素で置き換えられてもよいフェニルであり、 Q^1 が任意の水素がフッ素で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素、塩素もしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、 Q^3 が式（4）で示される基であり、 Y^1 が塩素、臭素、 $-OM^1$ 、 $-SM^1$ 、 $-CHO$ 、 $-COOR^6$ 、 $-NHR^7$ 、 $-COX^2$ 、 $-OCOX^2$ 、 $-N=C=O$ 、 $-C\equiv N$ 、 $-C\equiv CH$ 、 $-CR^4=CH_2$ 、 $-CR^4=CR^5COOR^6$ 、 $-CH=CR^4CR^5=CH_2$ 、 $-SO_2X^2$ 、エポキシを有する基、または下記に示される基のいずれかである、請求項11に記載の化合物。



ここに、フェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい；式（4）における A^1 、 A^2 、 A^3 および A^4 は、独立して、単結合、1,4-シクロヘキシレン、1,4-シクロヘキセニレン、炭素数6～10の縮合環基または1,4-フェニレンであり、これらの環において、任意の水素はフッ素、塩素または炭素数1～5のアルキルに置き換えられてもよい。そして、この炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい；式（4）における Z^1 、 Z^2 および Z^3 は、独立して、単結合、 $-CH=CH-$ 、 $-C\equiv C-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ または炭素数1～10のアルキレン

である。この炭素数1～10のアルキレンにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ 、 $-NH-$ 、 $-SiR^2_2-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-CH=CH-$ または $-C\equiv C-$ で置き換えられてもよい； R^2 はハロゲン、任意の水素がフッ素で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素、塩素もしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、このフェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい；式(4)における Z^5 は、単結合、 $-CH=CH-$ 、 $-C\equiv C-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ または炭素数1～10のアルキレンであり、この炭素数1～10のアルキレンにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-CH=CH-$ または $-C\equiv C-$ で置き換えられてもよい； M^1 は水素またはアルカリ金属である； R^6 は水素、アルカリ金属または炭素数1～5のアルキルである； R^7 は水素、炭素数1～5のアルキル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素、塩素もしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、炭素数1～5のアルキルのどちらにおいても、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい； X^2 は塩素または臭素である； R^4 、 R^5 および X^1 は、独立して、水素、フッ素、塩素、または炭素数1～5のアルキルであり、この炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい；そして G^1 は3価の有機基である。

【請求項16】 R^1 がフェニルである、請求項15に記載の化合物。

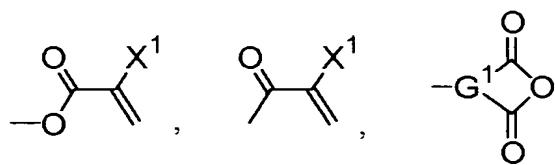
【請求項17】 R^1 がフェニルであり、 Q^1 が任意の水素がフッ素で置き換えられてもよい炭素数1～5のアルキル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素もしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルである、請求項15に記載の化合物。

ここに、フェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい。

【請求項18】 R¹がフェニルであり、Q¹が任意の水素がフッ素で置き換えられてもよい炭素数1～5のアルキル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素もしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、A¹、A²、A³およびA⁴が独立して単結合または任意の水素がフッ素、塩素もしくは炭素数1～5のアルキルに置き換えられてもよい1,4-フェニレンであり、Z¹、Z²、Z³およびZ⁵が独立して単結合、-COO-、-OCO-、または相隣接しない任意の-CH₂-が-O-、-COO-、-OCO-、-CH=CH-もしくは-C≡C-で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキレンである、請求項15に記載の化合物。

ここに、フェニルまたは1,4-フェニレンの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の-CH₂-は-O-で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい。

【請求項19】 R¹がフェニルであり、Q¹が任意の水素がフッ素で置き換えられてもよい炭素数1～5のアルキル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素もしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、A¹、A²、A³およびA⁴が独立して単結合または任意の水素がフッ素、塩素もしくは炭素数1～5のアルキルに置き換えられてもよい1,4-フェニレンであり、Z¹、Z²、Z³およびZ⁵が独立して単結合、-COO-、-OCO-、または相隣接しない任意の-CH₂-が-O-、-COO-、-OCO-、-CH=CH-もしくは-C≡C-で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキレンであり、Y¹が-OM¹、-CHO、-COOR⁶、-NHR⁷、-COX²、-OCOX²、-N=C=O、-CR⁴=CH₂、エポキシを有する基、または下記に示される基のいずれかである、請求項15に記載の化合物。



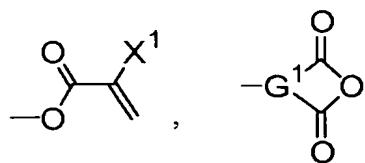
ここに、フェニルまたは1,4-フェニレンの置換基である炭素数1～5のアル

キルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい； M^1 は水素、ナトリウムまたはカリウムである； R^6 は水素、ナトリウム、カリウムまたは炭素数1～5のアルキルである； R^7 は水素、炭素数1～5のアルキルまたはフェニルである； X^2 は塩素または臭素である； R^4 および X^1 は独立して水素、フッ素、塩素または炭素数1～5のアルキルである。この炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい；そして G^1 は3価の有機基である。

【請求項20】 Q^1 が炭素数1～5のアルキルまたはフェニルである、請求項19に記載の化合物。

【請求項21】 Q^1 が炭素数1～5のアルキルまたはフェニルであり、 A^1 、 A^2 、 A^3 および A^4 が独立して単結合または任意の水素がフッ素もしくはメチルで置き換えられてもよい1,4-フェニレン基であり、 Z^1 、 Z^2 、 Z^3 および Z^5 が独立して、単結合、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ または相隣接しない任意の $-CH_2-$ が $-O-$ 、 $-COO-$ もしくは $-OCO-$ で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキレンである、請求項19に記載の化合物。

【請求項22】 Q^1 が炭素数1～5のアルキルまたはフェニルであり、 A^1 、 A^2 、 A^3 および A^4 が独立して単結合または任意の水素がフッ素もしくはメチルで置き換えられてもよい1,4-フェニレン基であり、 Z^1 、 Z^2 、 Z^3 および Z^5 が独立して単結合、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、または相隣接しない任意の $-CH_2-$ が $-O-$ 、 $-COO-$ もしくは $-OCO-$ で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキレンであり、 Y^1 が $-OM^1$ 、 $-COOR^6$ 、 $-NHR^7$ 、 $-COX^2$ 、 $-N=C=O$ 、 $-CR^4=CH_2$ 、エポキシを有する基、または下記に示される基のいずれかである、請求項19に記載の化合物。



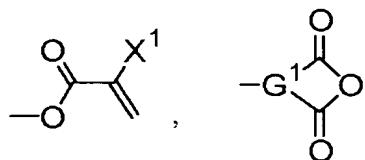
ここに、 M^1 は水素、ナトリウムまたはカリウムである； R^6 は水素、ナトリウム

ム、カリウム、メチルまたはエチルである；R⁷は水素、メチルまたはフェニルである；X²は塩素または臭素である；R⁴およびX¹は独立して水素、フッ素、または任意の水素がフッ素で置き換えられてもよい炭素数1～5のアルキルである；G¹は3価の有機基である。

【請求項23】Q¹がメチルまたはフェニルである、請求項22に記載の化合物。

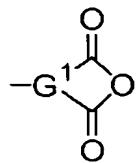
【請求項24】Q¹がメチルまたはフェニルであり、A¹、A²、A³およびA⁴が独立して単結合または1, 4-フェニレンであり、Z¹、Z²、Z³およびZ⁵が独立して単結合、-COO-、-OCO-、または相隣接しない任意の-CH₂-が-O-、-COO-もしくは-OCO-で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキレンである、請求項22に記載の化合物。

【請求項25】Q¹がメチルまたはフェニルであり、A¹、A²、A³およびA⁴が独立して単結合または1, 4-フェニレンであり、Z¹、Z²、Z³およびZ⁵が独立して単結合、-COO-、-OCO-、または相隣接しない任意の-CH₂-が-O-、-COO-もしくは-OCO-で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキレンであり、Y¹が-OM¹、-COOR⁶、-NHR⁷、-COCl¹、エポキシを有する基、または下記に示される基のいずれかである、請求項22に記載の化合物。



ここに、M¹は水素、ナトリウムまたはカリウムである；R⁶は水素、ナトリウム、カリウム、メチルまたはエチルである；R⁷は水素またはメチルである；X¹は水素、フッ素またはメチルである；G¹は3価の有機基である。

【請求項26】Y¹が-OH、-COOR⁶、-NH₂、-COCl¹、または下記に示される基である、請求項25に記載の化合物。



ここに、R⁶は水素、メチルまたはエチルである；G¹は3価の有機基である。

【請求項27】請求項11に記載の化合物のみを用いて得られる重合体。

【請求項28】請求項11に記載の化合物の1つと請求項11に記載の化合物以外の化合物の少なくとも1つとを用いて得られる重合体。

【請求項29】重合体がポリイミド、ポリアミド酸、ポリエステル、ポリアクリレートまたはポリメタクリレートである、請求項27に記載の重合体。

【請求項30】重合体がポリイミド、ポリアミド酸、ポリエステル、ポリアクリレートまたはポリメタクリレートである、請求項28に記載の重合体。

【請求項31】請求項27に記載の重合体および請求項28に記載の重合体の少なくとも1つを含有する重合体組成物。

【請求項32】請求項29に記載の重合体および請求項30に記載の重合体の少なくとも1つを含有する重合体組成物。

【請求項33】請求項27に記載の重合体および請求項28に記載の重合体の少なくとも1つ、または請求項29に記載の重合体および請求項30に記載の重合体の少なくとも1つを含有するワニス組成物。

【請求項34】請求項33に記載のワニス組成物を用いて形成される薄膜。

【請求項35】請求項33に記載のワニス組成物と他の高分子材料の少なくとも1つとを用いて形成される多層薄膜。

【請求項36】請求項27に記載の重合体および請求項28に記載の重合体の少なくとも1つ、または請求項29に記載の重合体および請求項30に記載の重合体の少なくとも1つが構成要素の一部であるかまたは全てである構造体。

【請求項37】請求項1～10のいずれか1項に記載の重合体、請求項27に記載の重合体および請求項28に記載の重合体の少なくとも1つ、または請求項29に記載の重合体および請求項30に記載の重合体の少なくとも1つを含有するコーティング材。

【請求項38】請求項1～10のいずれか1項に記載の重合体、請求項27

に記載の重合体および請求項28に記載の重合体の少なくとも1つ、または請求項29に記載の重合体および請求項30に記載の重合体の少なくとも1つを含有するプラスチック基板。

【請求項39】請求項1～10のいずれか1項に記載の重合体、請求項27に記載の重合体および請求項28に記載の重合体の少なくとも1つ、または請求項29に記載の重合体および請求項30に記載の重合体の少なくとも1つを含有する光学材料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明はシルセスキオキサン骨格を有する重合体、この重合体を製造するために用いられる化合物、およびこの重合体の用途に関する。

【0002】

【従来の技術】

ポリオルガノシロキサンは、優れた耐熱性、耐候性および表面改質機能を有するため、半導体絶縁保護膜、難燃剤、または塗料添加剤などに利用されている。例えば、ポリオルガノシロキサンを有機ポリマーに配合したコーティング剤は、撥水性などの表面改質機能を被塗物に付与することができる。この有機ポリマーの代表例はアクリル樹脂、ポリウレタン、アルキッド樹脂などであるが、これらとポリオルガノシロキサンとは一般に相溶性が乏しい。従って、ポリオルガノシロキサンを配合することが、コーティング剤を白濁し易くしたり、このコーティング剤から得られる塗膜を白化し易くしたりする問題があった。即ち、ポリオルガノシロキサンの添加量には限界があった。

【0003】

従来から、有機ポリマーの主鎖および／または側鎖にポリシロキサン構造を導入することによって、ポリマーの耐熱性、撥水性、耐候性などの特性を改善できることが知られている。例えば、特許文献1には、ポリシロキサン含有ポリマーと他の付加重合性モノマーとをラジカル共重合することにより、ポリシロキサン構造を側鎖に有するポリシロキサングラフト共重合体を製造する方法が開示され

ている。ケイ素原子 1 に対して 1. 5 の酸素原子が結合する構成のポリシリセスキオキサンは、例えば、特許文献 2 に開示されている。この文献には、重合性不飽和結合を有するポリシリセスキオキサン誘導体であって水酸基やアルコキシなどの官能基を 2 個以上有するポリマーと、他の付加重合性モノマーとを共重合させることによって、シロキサン側鎖が導入されたビニル重合体が得られることが記載されている。これらはいずれも、他の付加重合性モノマーの単独重合体に比べて耐熱性、撥水性、耐候性などに優れているとされている。

【0004】

上記のような特性改善を目的として、有機ポリマーへのポリオルガノシロキサンの含有量を高める試みが行われてきた。しかしながら、上記のポリオルガノシロキサン構造を含む有機ポリマーでは、耐熱性、撥水性、耐候性、電気絶縁性などの特性に対して期待されたほどの向上効果が得られなかった。そのため、有機ポリマーに対して耐熱性、撥水性、耐候性などの特性を更に向上させる構造のポリオルガノシロキサンが強く望まれている。

【特許文献 1】特開昭 60-231720 号公報

【特許文献 2】特開昭 62-275132 号公報

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

本発明の目的は、上記の問題点を解決するために有用なポリシリセスキオキサン誘導体を提供することであり、この誘導体を用いて得られる新規な重合体を提供することである。そして、この重合体を用いたコーティング材、プラスチック基板および光学材料を提供することである。

【0006】

【課題を解決するための手段】

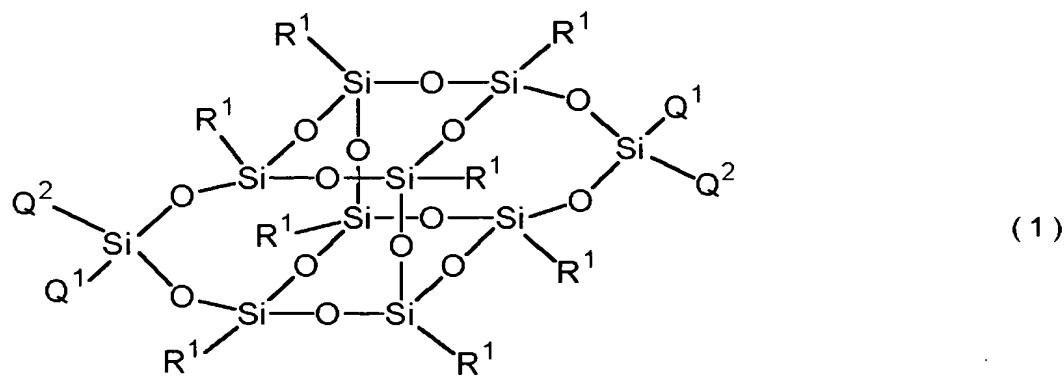
まず、本発明で用いる用語および記号について説明する。用語「任意の」は、位置だけではなく個数についても任意であることを示す。例えば、アルキルにおいて任意の $-\text{CH}_2-$ は $-\text{O}-$ または $-\text{CH}=\text{CH}-$ で置き換えられてもよいと表現するときには、複数の $-\text{CH}_2-$ がそれぞれ異なる基で置き換えられてもよい。このような場合の例は、アルキル、アルコキシ、アルコキシアルキル、アル

コキシアルケニル、アルケニルオキシアルキルなどである。アルキルおよびアルキレンは、特に断らない限り直鎖の基と分岐された基の両方を含むものとして用いられる。ハロゲンの例は、フッ素、塩素、臭素などである。

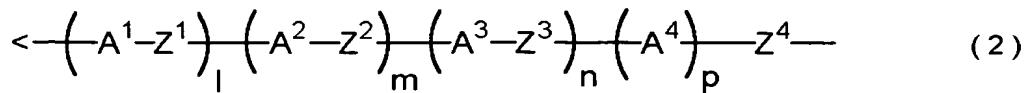
【0007】

下記の構成を有する本発明によって、上記の目的が達成される。

[1] 式（1）で示される構成単位を有する重合体。



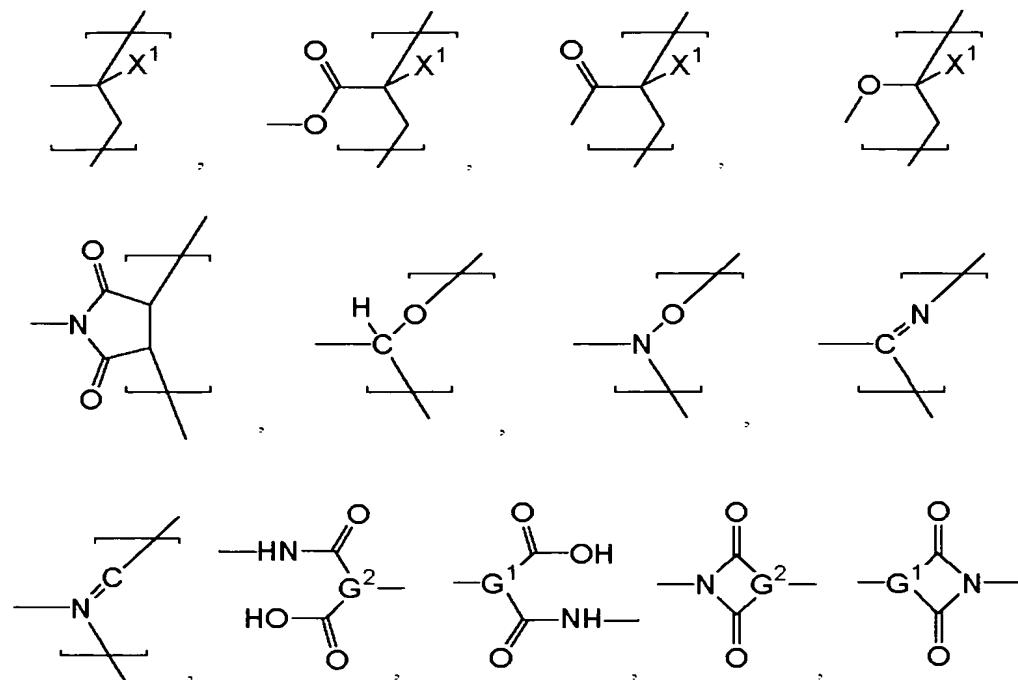
式（1）において、R¹は任意の水素がハロゲンまたは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、この炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の—CH₂—は—O—で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい；Q¹は水素、ハロゲン、炭素数1～10のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、シクロヘキセニル、または任意の水素がハロゲンもしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、炭素数1～10のアルキルおよびフェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の—CH₂—は—O—、—CH=CH—または—C≡C—で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい；そして、Q²は式（2）で表される基である。



式（2）において、<はケイ素との結合点を示す；1、m、nおよびpは独立し

て0、1、2または3である；A¹、A²、A³およびA⁴は独立して単結合、1,4-シクロヘキシレン、1,4-シクロヘキセニレン、炭素数6～10の縮合環基または1,4-フェニレンであり、これらの環において、相隣接しない任意の-CH₂-は-O-で置き換えられてもよく、任意の-CH=は-N=で置き換えられてもよい；そして、すべての環における任意の水素はハロゲン、-CN、-NO₂または炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよく、この炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の-CH₂-は-O-、-CH=CH-または-C≡C-で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい；Z¹、Z²およびZ³は独立して単結合、-CH=CH-、-C≡C-、-COO-、-OCO-、または炭素数1～10のアルキレンであり、このアルキレンにおいて、任意の-CH₂-は-O-、-S-、-NH-、-SiR²₂-、-SiR²₂O-、-OSiR²₂-、-OSiR²₂O-、-COO-、-OCO-、-CH=CH-または-C≡C-で置き換えられてもよい；R²はハロゲン、炭素数1～10のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、シクロヘキセニル、または任意の水素がハロゲンもしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、炭素数1～10のアルキルおよびフェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の-CH₂-は-O-、-CH=CH-または-C≡C-で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい；Z⁴は単結合、-CH=CH-、-C≡C-、-COO-、-OCO-、または-W¹-T¹-で示される基である。W¹は単結合または炭素数1～10のアルキレンであり、このアルキレン中の相隣接しない任意の-CH₂-は-O-、-COO-、-OCO-、-CH=CH-または-C≡C-で置き換えられてもよい；そして、T¹は-O-、-S-、-SiR²₂-、-SiR²₂O-、-OSiR²₂-、-OSiR²₂O-、-CO-、-COO-、-OCO-、-CSO-、-OCS-、-CONR³-、-NR³CO-、-CONR³O-、-ONR³CO-、-OCONR³-、-NR³CONR³-、-NR³COO-、-OCOO-、-CH(OH)CH₂-、-CH₂CH(OH)-、-CH=CH-、-CH₂CR⁴=CR⁵CH₂-、-SO₂-、-SO₂

O-、-OSO₂-、-SO₂S-、-SSO₂-、-SO₂NR³-、-NR³SO₂-、または下記に示される基のいずれかである。



T¹に関するこれらの基において、R²は前記の通りである；R³は水素、炭素数1～10のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、シクロヘキセニル、または任意の水素がハロゲンもしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、炭素数1～10のアルキルにおいて、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい；フェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の-CH₂-は-O-、-CH=CH-または-C≡C-で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい；R⁴、R⁵およびX¹は独立して水素、ハロゲン、-CNまたは炭素数1～10のアルキルであり、この炭素数1～10アルキルにおいて、相隣接しない任意の-CH₂-は-O-で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい；G¹は3価の有機基であり、G²はトリカルボン酸類の残基の一部またはテトラカルボン酸類の残基の一部である。

【0008】

[2] 式（1）中のR¹が、任意の水素がフッ素または塩素で置き換えられてもよいフェニルである、[1]項に記載の重合体。

【0009】

[3] 式（1）において、R¹が任意の水素がフッ素または塩素で置き換えられてもよいフェニルであり、Q¹が任意の水素がフッ素で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシルまたは任意の水素がフッ素、塩素もしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルである、[1]項に記載の重合体。

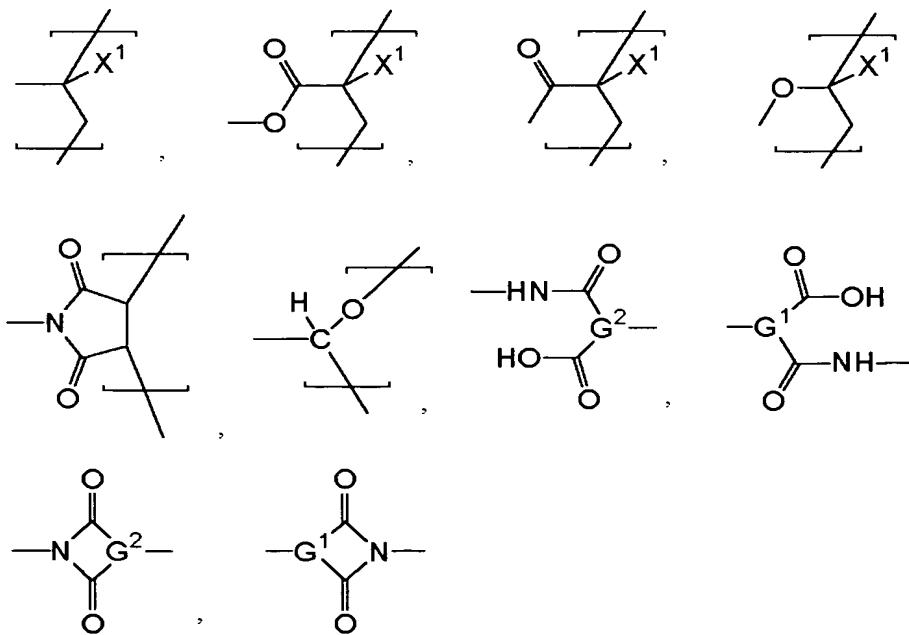
ここに、フェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の—CH₂—は—O—で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい。

【0010】

[4] 式（1）において、R¹が任意の水素がフッ素または塩素で置き換えられてもよいフェニルであり、Q¹が任意の水素がフッ素で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素、塩素もしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、Q²が式（2）で示される基である、[1]項に記載の重合体。

ここに、フェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の—CH₂—は—O—で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい；式（2）におけるA¹、A²、A³およびA⁴は、独立して、単結合、1, 4-シクロヘキシレン、1, 4-シクロヘキセニレン、炭素数6～10の縮合環基または1, 4-フェニレンであり、これらの環において、任意の水素はフッ素、塩素または炭素数1～5のアルキルに置き換えられてもよい；そして、この炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の—CH₂—は—O—で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい；式（2）におけるZ¹、Z²およびZ³は、独立して、単結合、—CH=C H—、—C≡C—、—COO—、—OCO—または炭素数1～10のアルキレンであり、この炭素数1～10のアルキレンにおいて、相隣接しない任意の—CH

$2-$ は $-O-$ 、 $-NH-$ 、 $-SiR^2_2-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-CH=$ $CH-$ または $-C\equiv C-$ で置き換えるてもよい； R^2 はハロゲン、任意の水素がフッ素で置き換えるてもよい炭素数 $1 \sim 10$ のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素、塩素または炭素数 $1 \sim 5$ のアルキルで置き換えるてもよいフェニルであり、このフェニルの置換基である炭素数 $1 \sim 5$ のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えるてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えるてもよい；式(2)における Z^4 は、単結合、 $-CH=CH-$ 、 $-C\equiv C-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、または $-W^1-T^1-$ で示される基である。 W^1 は単結合または炭素数 $1 \sim 10$ のアルキレンであり、この炭素数 $1 \sim 10$ のアルキレンにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-CH=CH-$ または $-C\equiv C-$ で置き換えるてもよい；そして T^1 は、 $-O-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-CONR^3-$ 、 $-NR^3CO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-CH(OH)CH_2-$ 、 $-CH_2CH(OH)-$ 、 $-CH=CH-$ 、 $-CH_2CR^4=CR^5CH_2-$ 、 $-SO_2-$ 、または下記に示される基のいずれかである。



T^1 に関するこれらの基において、 R^3 は水素、任意の水素はフッ素で置き換え

られてもよい炭素数1～5のアルキル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素、塩素または炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルである；このフェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の-CH₂-は-O-で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい；R⁴、R⁵およびX¹は、独立して、水素、フッ素、塩素または炭素数1～5のアルキルであり、この炭素数1～5のアルキルにおいて、任意の-CH₂-は-O-で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい；そしてG¹は3価の有機基であり、G²はトリカルボン酸類の残基の一部またはテトラカルボン酸類の残基の一部である。

【0011】

[5] R¹がフェニルである、[4]項に記載の重合体。

【0012】

[6] R¹がフェニルであり、Q¹が炭素数1～5のアルキル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素または炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルである、[4]項に記載の重合体。

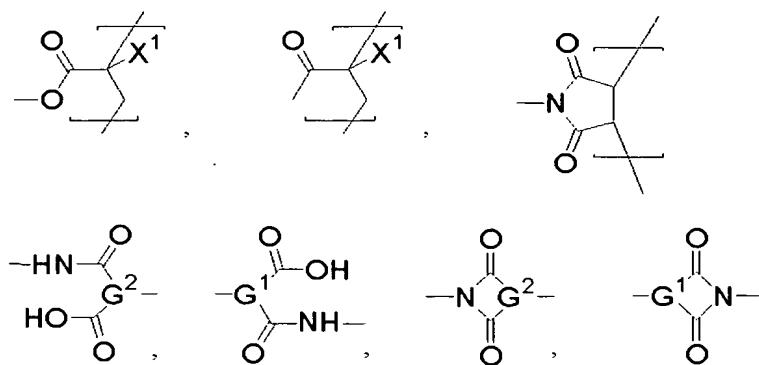
ここに、フェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の-CH₂-は-O-で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい。

【0013】

[7] R¹がフェニルであり、Q¹が炭素数1～5のアルキル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素もしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、A¹、A²、A³およびA⁴が独立して単結合または任意の水素がフッ素、塩素もしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよい1,4-フェニレンであり、Z¹、Z²およびZ³が独立して単結合、-COO-、-OCO-、または相隣接しない任意の-CH₂-が-O-、-COO-もしくは-OCO-で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキレンであり、Z⁴が単結合、-COO-、-OCO-、または-W¹-T¹-で表される基である、[4]項に記載の重合体。

ここに、フェニルまたは1,4-フェニレンの置換基である炭素数1～5のアル

キルにおいて、相隣接しない任意の $-\text{CH}_2-$ は $-\text{O}-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい； W^1 は単結合または炭素数1～10のアルキレンであり、このアルキレン中の相隣接しない任意の $-\text{CH}_2-$ は $-\text{O}-$ 、 $-\text{COO}-$ または $-\text{OCO}-$ で置き換えられてもよい； T^1 は、 $-\text{O}-$ 、 $-\text{COO}-$ 、 $-\text{OCO}-$ 、 $-\text{CONR}^3-$ 、 $-\text{NR}^3\text{CO}-$ 、または下記に示される基のいずれかである。



T^1 に関するこれらの基において、 R^3 は水素、炭素数1～5のアルキルまたはフェニルである； X^1 は水素、フッ素、または炭素数1～5のアルキルである；そして G^1 は3価の有機基であり、 G^2 はトリカルボン酸類の残基の一部またはテトラカルボン酸類の残基の一部である。

【0014】

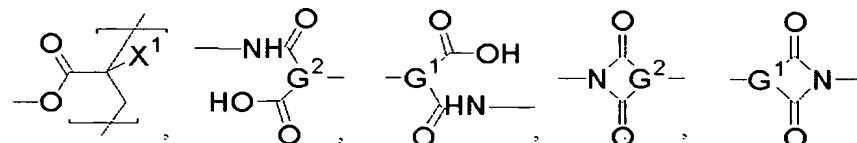
[8] Q^1 がメチルまたはフェニルである、[7]項に記載の重合体。

【0015】

[9] Q^1 がメチルまたはフェニルであり、 A^1 、 A^2 、 A^3 および A^4 が独立して単結合または1,4-フェニレンであり、 Z^1 、 Z^2 および Z^3 が独立して単結合、 $-\text{COO}-$ 、 $-\text{OCO}-$ 、または相隣接しない任意の $-\text{CH}_2-$ が $-\text{O}-$ 、 $-\text{COO}-$ または $-\text{OCO}-$ で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキレンであり、 Z^4 が単結合、 $-\text{COO}-$ 、 $-\text{OCO}-$ 、または $-W^1-T^1-$ で表される基である、[7]項に記載の重合体。

ここに、 W^1 は単結合または相隣接しない任意の $-\text{CH}_2-$ が $-\text{O}-$ 、 $-\text{COO}-$ または $-\text{OCO}-$ で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキレンである

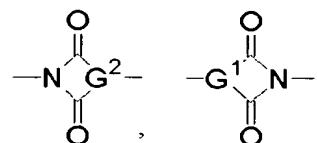
；そして、T¹は-O-、-COO-、-OCO-、-CONR³-、-NR³CO-、または下記に示される基のいずれかである。



T¹に関するこれらの基において、R³は水素またはメチルである；X¹は水素またはメチルである；そしてG¹は3価の有機基であり、G²はトリカルボン酸類の残基の一部またはテトラカルボン酸類の残基の一部である。

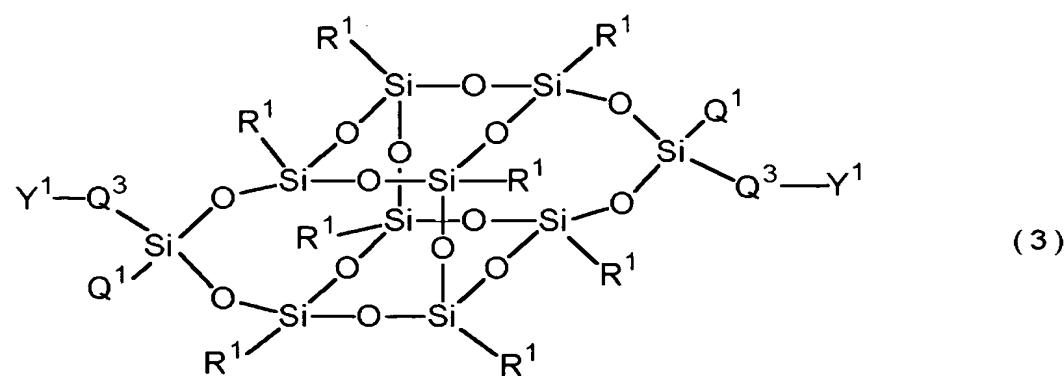
【0016】

[10] T¹が-O-、-COO-、-OCO-、-CONR³-、-NR³CO-、または下記に示される基のいずれかである、[9]項に記載の重合体。



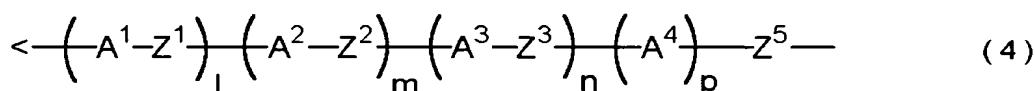
【0017】

[11] [1]項に記載の重合体の製造に用いられる式(3)で示される化合物。



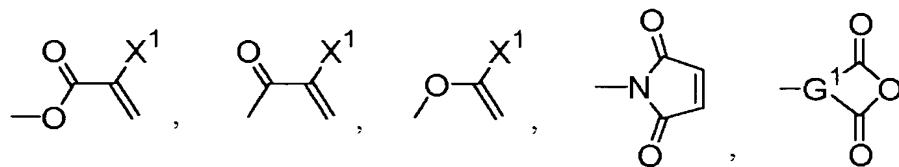
式(3)において、R¹は任意の水素がハロゲンまたは炭素数1～5のアルキル

で置き換えられてもよいフェニルであり、この炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい； Q^1 は水素、ハロゲン、炭素数1～10のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、シクロヘキセニル、または任意の水素がハロゲンもしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルである；この炭素数1～10のアルキルおよびフェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ 、 $-CH=CH-$ または $-C\equiv C-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい；そして、 Q^3 は式(4)で示される基である。



式(4)において、 $<$ はケイ素との結合点を示す； l 、 m 、 n および p は独立して0、1、2または3である； A^1 、 A^2 、 A^3 および A^4 は独立して単結合、1, 4-シクロヘキシレン、1, 4-シクロヘキセニレン、炭素数6～10の縮合環基または1, 4-フェニレンであり、これらの環において、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の $-CH=$ は $-N=$ で置き換えられてもよい；そして、すべての環における任意の水素は、ハロゲン、 $-CN$ 、 $-NO_2$ または炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよい；この炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ 、 $-CH=CH-$ または $-C\equiv C-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい； Z^1 、 Z^2 および Z^3 は独立して単結合、 $-CH=CH-$ 、 $-C\equiv C-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ または炭素数1～10のアルキレンであり、このアルキレンにおいて、任意の $-CH_2-$ は $-O-$ 、 $-S-$ 、 $-NH-$ 、 $-SiR^2_2-$ 、 $-SiR^2_2O-$ 、 $-OSiR^2_2-$ 、 $-OSiR^2_2O-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-CH=CH-$ または $-C\equiv C-$ で置き換えられてもよい； R^2 はハロゲン、炭素数1～10のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、シクロヘキセニル、または任意の水

素がハロゲンもしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、炭素数1～10のアルキルおよびフェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ 、 $-CH=CH-$ または $-C\equiv C-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい； Z^5 は単結合、 $-CH=CH-$ 、 $-C\equiv C-$ 、 $-COO-$ 、 $-OC$ 、 $O-$ または炭素数1～10のアルキレンであり、この炭素数1～10のアルキレンにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-CH=CH-$ または $-C\equiv C-$ で置き換えられてもよい；そして Y^1 は、ハロゲン、 $-OM^1$ 、 $-SM^1$ 、 $-CHO$ 、 $-COOR^6$ 、 $-CSOR^6$ 、 $-CS$ 、 SR^6 、 $-NHR^7$ 、 $-COX^2$ 、 $-CSX^2$ 、 $-OCOX^2$ 、 $-OCOOR^6$ 、 $-N=C=O$ 、 $-CN$ 、 $-C\equiv CH$ 、 $-CR^4=CH_2$ 、 $-CR^4=CR^5COOR^6$ 、 $-CH=CR^4CR^5=CH_2$ 、 $-SO_2X^2$ 、エポキシを有する基、または下記に示される基のいずれかである。



Y^1 に関するこれらの基において、 M^1 は水素、またはアルカリ金属である； R^6 は水素、アルカリ金属または炭素数1～10のアルキルであり、この炭素数1～10のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい； R^7 は水素、炭素数1～10のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、シクロヘキセニル、または任意の水素がハロゲンまたは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、この炭素数1～10のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい；そして、フェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ 、 $-CH=CH-$ または $-C\equiv C-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい； X^2 はハロゲンである； R^4 、 R^5 および X

R^1 は独立して水素、ハロゲン、 $-CN$ または炭素数 1 ~ 10 のアルキルであり、この炭素数 1 ~ 10 のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい； G^1 は 3 値の有機基である。

【0018】

[12] 式 (3) 中の R^1 が、任意の水素がフッ素または塩素で置き換えられてもよいフェニルである、[11] 項に記載の化合物。

【0019】

[13] 式 (3) において、 R^1 が任意の水素がフッ素または塩素で置き換えられてもよいフェニルであり、 Q^1 が任意の水素がフッ素で置き換えられてもよい炭素数 1 ~ 10 のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素、塩素もしくは炭素数 1 ~ 5 のアルキルで置き換えられてもよいフェニルである、[11] 項に記載の化合物。ここに、フェニルの置換基である炭素数 1 ~ 5 のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい。

【0020】

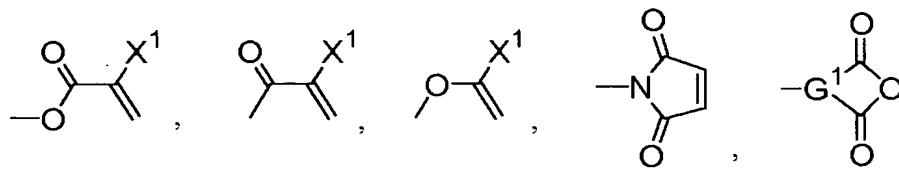
[14] 式 (3) において、 R^1 が任意の水素がフッ素または塩素で置き換えられてもよいフェニルであり、 Q^1 が任意の水素がフッ素で置き換えられてもよい炭素数 1 ~ 10 のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素、塩素もしくは炭素数 1 ~ 5 のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、 Q^3 が式 (4) で示される基である、[11] 項に記載の化合物。

ここに、フェニルの置換基である炭素数 1 ~ 5 のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい；式 (4) における A^1 、 A^2 、 A^3 および A^4 は、独立して、単結合、1, 4-シクロヘキシレン、1, 4-シクロヘキセニレン、炭素数 6 ~ 10 の縮合環基または 1, 4-フェニレンであり、これらの環において、任意の水素はフッ素、塩素または炭素数 1 ~ 5 のアルキルに置き換えられてもよい。

。そして、この炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい；式(4)における Z^1 、 Z^2 および Z^3 は、独立して、単結合、 $-CH=CH-$ 、 $-C\equiv C-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ または炭素数1～10のアルキレンであり、この炭素数1～10のアルキレンにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ 、 $-NH-$ 、 $-SiR^2_2-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-CH=CH-$ または $-C\equiv C-$ で置き換えられてもよい； R^2 はハロゲン、任意の水素がフッ素で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素、塩素もしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、このフェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい；式(4)における Z^5 は、単結合、 $-CH=CH-$ 、 $-C\equiv C-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ または炭素数1～10のアルキレンである。この炭素数1～10のアルキレンにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-CH=CH-$ または $-C\equiv C-$ で置き換えられてもよい。

【0021】

[15] 式(3)において、 R^1 が任意の水素がフッ素または塩素で置き換えられてもよいフェニルであり、 Q^1 が任意の水素がフッ素で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素、塩素もしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、 Q^3 が式(4)で示される基であり、 Y^1 が塩素、臭素、 $-OM^1$ 、 $-SM^1$ 、 $-CHO$ 、 $-COOR^6$ 、 $-NHR^7$ 、 $-COX^2$ 、 $-OCOX^2$ 、 $-N=C=O$ 、 $-C\equiv N$ 、 $-C\equiv CH$ 、 $-CR^4=CH_2$ 、 $-CR^4=CR^5COOR^6$ 、 $-CH=CR^4CR^5=CH_2$ 、 $-SO_2X^2$ 、エポキシを有する基、または下記に示される基のいずれかである、[11]項に記載の化合物。



ここに、フェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい；式(4)における A_1 、 A_2 、 A_3 および A_4 は、独立して、単結合、1, 4-シクロヘキシレン、1, 4-シクロヘキセニレン、炭素数6～10の縮合環基または1, 4-フェニレンであり、これらの環において、任意の水素はフッ素、塩素または炭素数1～5のアルキルに置き換えられてもよい。そして、この炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい；式(4)における Z_1 、 Z_2 および Z_3 は、独立して、単結合、 $-CH=CH-$ 、 $-C\equiv C-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ または炭素数1～10のアルキレンであり、この炭素数1～10のアルキレンにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ 、 $-NH-$ 、 $-SiR^2_2-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-CH=CH-$ または $-C\equiv C-$ で置き換えられてもよい； R^2 はハロゲン、任意の水素がフッ素で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素、塩素もしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、このフェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい；式(4)における Z_5 は、単結合、 $-CH=CH-$ 、 $-C\equiv C-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ または炭素数1～10のアルキレンであり、この炭素数1～10のアルキレンにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-CH=CH-$ または $-C\equiv C-$ で置き換えられてもよい； M^1 は水素またはアルカリ金属である； R^6 は水素、アルカリ金属または炭素数1～5のアルキルである； R^7 は水素、炭素数1～5のアルキル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素、塩素もしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、炭素数1～5のアルキ

ルのどちらにおいても、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい； X^2 は塩素または臭素である； R^4 、 R^5 および X^1 は、独立して、水素、フッ素、塩素、または炭素数1～5のアルキルであり、この炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい；そして G^1 は3価の有機基である。

【0022】

[16] R^1 がフェニルである、[15]項に記載の化合物。

【0023】

[17] R^1 がフェニルであり、 Q^1 が任意の水素がフッ素で置き換えられてもよい炭素数1～5のアルキル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素もしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルである、[15]項に記載の化合物。

ここに、フェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい。

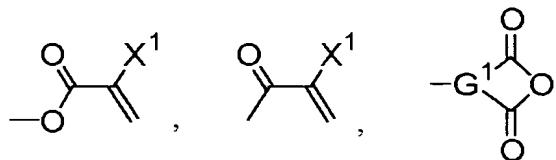
【0024】

[18] R^1 がフェニルであり、 Q^1 が任意の水素がフッ素で置き換えられてもよい炭素数1～5のアルキル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素もしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、 A^1 、 A^2 、 A^3 および A^4 が独立して単結合または任意の水素がフッ素、塩素もしくは炭素数1～5のアルキルに置き換えられてもよい1, 4-フェニレンであり、 Z^1 、 Z^2 、 Z^3 および Z^5 が独立して単結合、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、または相隣接しない任意の $-CH_2-$ が $-O-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-CH=CH-$ もしくは $-C\equiv C-$ で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキレンである、[15]項に記載の化合物。

ここに、フェニルまたは1, 4-フェニレンの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい。

【0025】

[19] R^1 がフェニルであり、 Q^1 が任意の水素がフッ素で置き換えられてもよい炭素数1～5のアルキル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がフッ素もしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルであり、 A^1 、 A^2 、 A^3 および A^4 が独立して単結合または任意の水素がフッ素、塩素もしくは炭素数1～5のアルキルに置き換えられてもよい1, 4-フェニレンであり、 Z^1 、 Z^2 、 Z^3 および Z^5 が独立して単結合、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、または相隣接しない任意の $-CH_2-$ が $-O-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-CH=CH-$ もしくは $-C\equiv C-$ で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキレンであり、 Y^1 が $-OM^1$ 、 $-CHO$ 、 $-COOR^6$ 、 $-NHR^7$ 、 $-COX^2$ 、 $-OCOX^2$ 、 $-N=C=O$ 、 $-CR^4=C_2H_2$ 、エポキシを有する基、または下記に示される基のいずれかである、[15]項に記載の化合物。



ここに、フェニルまたは1, 4-フェニレンの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい； M^1 は水素、ナトリウムまたはカリウムである； R^6 は水素、ナトリウム、カリウムまたは炭素数1～5のアルキルである； R^7 は水素、炭素数1～5のアルキルまたはフェニルである； X^2 は塩素または臭素である； R^4 および X^1 は独立して水素、フッ素、塩素または炭素数1～5のアルキルであり、この炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は $-O-$ で置き換えられてもよく、任意の水素はフッ素で置き換えられてもよい；そして G^1 は3価の有機基である。

【0026】

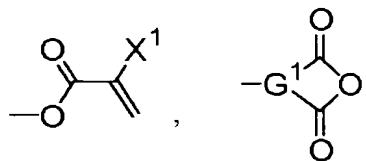
[20] Q^1 が炭素数1～5のアルキルまたはフェニルである、[19]項に記載の化合物。

【0027】

[21] Q^1 が炭素数1～5のアルキルまたはフェニルであり、 A^1 、 A^2 、 A^3 および A^4 が独立して単結合または任意の水素がフッ素もしくはメチルで置き換えられてもよい1,4-フェニレン基であり、 Z^1 、 Z^2 、 Z^3 および Z^5 が独立して、 単結合、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ または相隣接しない任意の $-CH_2-$ が $-O-$ 、 $-COO-$ もしくは $-OCO-$ で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキレンである、 [19] 項に記載の化合物。

【0028】

[22] Q^1 が炭素数1～5のアルキルまたはフェニルであり、 A^1 、 A^2 、 A^3 および A^4 が独立して単結合または任意の水素がフッ素もしくはメチルで置き換えられてもよい1,4-フェニレン基であり、 Z^1 、 Z^2 、 Z^3 および Z^5 が独立して単結合、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 または相隣接しない任意の $-CH_2-$ が $-O-$ 、 $-COO-$ もしくは $-OCO-$ で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキレンであり、 Y^1 が $-OM^1$ 、 $-COOR^6$ 、 $-NHR^7$ 、 $-COX^2$ 、 $-N=C=O$ 、 $-CR^4=CH_2$ 、 エポキシを有する基、 または下記に示される基のいずれかである、 [19] 項に記載の化合物。



ここに、 M^1 は水素、 ナトリウムまたはカリウムである； R^6 は水素、 ナトリウム、 カリウム、 メチルまたはエチルである； R^7 は水素、 メチルまたはフェニルである； X^2 は塩素または臭素である； R^4 および X^1 は独立して水素、 フッ素、 または任意の水素がフッ素で置き換えられてもよい炭素数1～5のアルキルである； G^1 は3価の有機基である。

【0029】

[23] Q^1 がメチルまたはフェニルである、 [22] 項に記載の化合物。

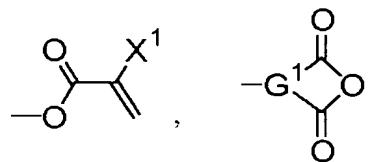
【0030】

[24] Q^1 がメチルまたはフェニルであり、 A^1 、 A^2 、 A^3 および A^4 が独立して単結合または1,4-フェニレンであり、 Z^1 、 Z^2 、 Z^3 および Z^5

5が独立して単結合、-COO-、-OCO-、または相隣接しない任意の-CH₂-が-O-、-COO-もしくは-OCO-で置き換えられてもよい炭素数1~10のアルキレンである、[22]項に記載の化合物。

【0031】

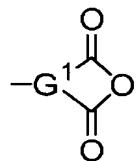
[25] Q¹がメチルまたはフェニルであり、A¹、A²、A³およびA⁴が独立して単結合または1,4-フェニレンであり、Z¹、Z²、Z³およびZ⁵が独立して単結合、-COO-、-OCO-、または相隣接しない任意の-CH₂-が-O-、-COO-もしくは-OCO-で置き換えられてもよい炭素数1~10のアルキレンであり、Y¹が-O M¹、-COOR⁶、-NHR⁷、-COC¹、エポキシを有する基、または下記に示される基のいずれかである、[22]項に記載の化合物。



ここに、M¹は水素、ナトリウムまたはカリウムである；R⁶は水素、ナトリウム、カリウム、メチルまたはエチルである；R⁷は水素またはメチルである；X¹は水素、フッ素またはメチルである；G¹は3価の有機基である。

【0032】

[26] Y¹が-OH、-COOR⁶、-NH₂、-COC¹、または下記に示される基である、[25]項に記載の化合物。



ここに、R⁶は水素、メチルまたはエチルである；G¹は3価の有機基である。

【0033】

[27] [11]項に記載の化合物のみを用いて得られる重合体。

【0034】

[28] [11]項に記載の化合物の1つと [11]項に記載の化合物以外

の化合物の少なくとも1つとを用いて得られる重合体。

【0035】

[29] 重合体がポリイミド、ポリアミド酸、ポリエステル、ポリアクリレートまたはポリメタクリレートである、[27] 項に記載の重合体。

【0036】

[30] 重合体がポリイミド、ポリアミド酸、ポリエステル、ポリアクリレートまたはポリメタクリレートである、[28] 項に記載の重合体。

【0037】

[31] [27] 項に記載の重合体および[28] 項に記載の重合体の少なくとも1つを含有する重合体組成物。

【0038】

[32] [29] 項に記載の重合体および[30] 項に記載の重合体の少なくとも1つを含有する重合体組成物。

【0039】

[33] [27] 項に記載の重合体および[28] 項に記載の重合体の少なくとも1つ、または[29] 項に記載の重合体および[30] 項に記載の重合体の少なくとも1つを含有するワニス組成物。

【0040】

[34] [33] 項に記載のワニス組成物を用いて形成される薄膜。

【0041】

[35] [33] 項に記載のワニス組成物と他の高分子材料の少なくとも1つとを用いて形成される多層薄膜。

【0042】

[36] [27] 項に記載の重合体および[28] 項に記載の重合体の少なくとも1つ、または[29] 項に記載の重合体および[30] 項に記載の重合体の少なくとも1つが構成要素の一部であるかまたは全てである構造体。

【0043】

[37] [1]～[10] のいずれか1項に記載の重合体、[27] 項に記載の重合体および[28] 項に記載の重合体の少なくとも1つ、または[29]

項に記載の重合体および [30] 項に記載の重合体の少なくとも 1 つを含有するコーティング材。

【0044】

[38] [1] ~ [10] のいずれか 1 項に記載の重合体、[27] 項に記載の重合体および [28] 項に記載の重合体の少なくとも 1 つ、または [29] 項に記載の重合体および [30] 項に記載の重合体の少なくとも 1 つを含有するプラスチック基板。

【0045】

[39] [1] ~ [10] のいずれか 1 項に記載の重合体、[27] 項に記載の重合体および [28] 項に記載の重合体の少なくとも 1 つ、または [29] 項に記載の重合体および [30] 項に記載の重合体の少なくとも 1 つを含有する光学材料。

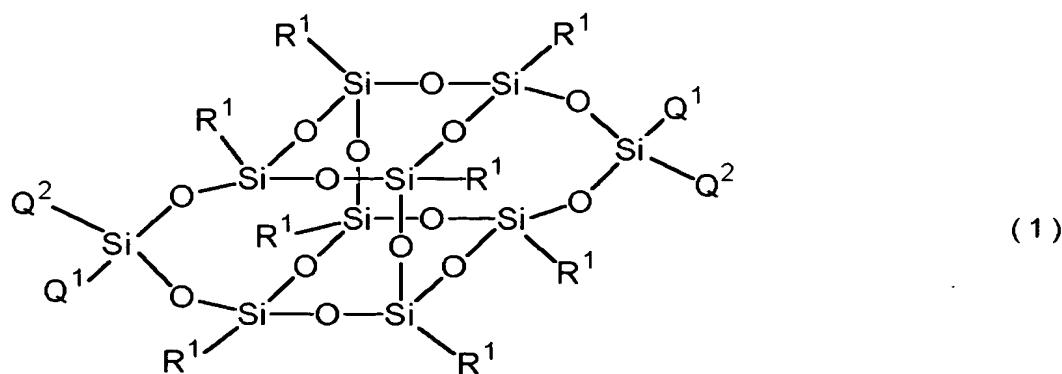
【0046】

【発明の実施の形態】

以下の説明においては、式 (1) で示される構成単位を有する重合体を重合体 (1) と表記することがある。式 (3) で示される化合物を化合物 (3) と表記することがある。他の式で表される重合体や化合物についても、同様の簡略化法により表記することがある。ポリシリセスキオキサンを記号 P S Q で表記することがある。

【0047】

本発明の重合体は式 (1) で示される構成単位を有する。



式(1)中のR¹は、任意の水素がハロゲンまたは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルである。この炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の-CH₂-は-O-で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい。

【0048】

R¹の好ましい例は、フェニルおよび少なくとも1つの水素がハロゲンまたは炭素数1～5のアルキルで置き換えられたフェニルである。R¹のより好ましい例は、フェニルおよび少なくとも1つの水素が炭素数1～5のアルキルで置き換えられたフェニルである。R¹の最も好ましい例はフェニルである。

【0049】

式(1)中のQ¹は、水素、ハロゲン、炭素数1～10のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、シクロヘキセニル、または任意の水素がハロゲンもしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルである。炭素数1～10のアルキルおよびフェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルのどちらにおいても、相隣接しない任意の-CH₂-は-O-、-CH=CH-または-C≡C-で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい。

【0050】

Q¹の好ましい例は、水素、ハロゲン、相隣接しない任意の-CH₂-が-C=CH-で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、または任意の水素がハロゲンまたは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルである。このフェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいては、相隣接しない任意の-CH₂-は-O-で置き換えられてもよい。そして、炭素数1～10のアルキルおよびフェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルのどちらにおいても、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい。

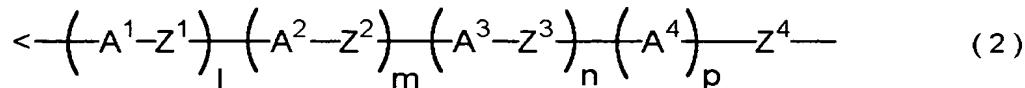
【0051】

Q¹の特に好ましい例は、水素、-F、-Cl、-CF₃、-OCF₃、メチル、エチル、プロピル、ブチル、ペンチル、ヘキシル、ヘプチル、メトキシ、エ

トキシ、プロポキシ、ブトキシ、ペンチルオキシ、ヘキシルオキシ、ヘプチルオキシ、メトキシメチル、エトキシメチル、プロポキシメチル、ブトキシメチル、メトキシエチル、エトキシエチル、プロポキシエチル、メトキシプロピル、エトキシプロピル、プロポキシプロピル、2-フルオロエチル、3-フルオロプロピル、ビニル、1-プロペニル、2-プロペニル、アリル、3-ブテニル、3-ペンテニル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、フェニルなどである。

【0052】

式(1)中のQ²は式(2)で表される基である。



式(2)で表される基において、記号「<」はケイ素との結合点を示す。式(2)中のA¹、A²、A³およびA⁴は、独立して単結合、1,4-シクロヘキシレン、1,4-シクロヘキセニレン、炭素数6～10の縮合環基または1,4-フェニレンである。これらの環において、相隣接しない任意の-CH₂-は-O-で置き換えられてもよく、任意の-CH=は-N=で置き換えられてもよい。しかしながら、隣接する2つの-CH₂-が-O-O-のように置き換えられるのは好ましくない。-CH₂-が-O-で置き換えられた1,4-シクロヘキシレンの例は、1,3-ジオキサン-2,5-ジイルおよび1,4-ジオキサン-2,5-ジイルである。-CH=が-N=で置き換えられた1,4-フェニレン基の例は、ピリジン-2,5-ジイル、ピリミジン-2,5-ジイルおよびピリダジン-3,6-ジイルである。そして、A¹～A⁴の例である上記のすべての環において、任意の水素はハロゲン、-CN、-NO₂または炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよい。そして、この炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の-CH₂-は-O-、-CH=CH-または-C≡C-で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい。

【0053】

A¹～A⁴の好ましい例は、単結合、1,4-シクロヘキシレン、1,4-シ

クロヘキセニレン、ビシクロ [3. 1. 0] シクロヘキサン-3, 6-ジイル、ビシクロ [2. 2. 2] シクロオクタン-1, 4-ジイル、1, 4-フェニレン、1, 3-ジオキサン-2, 5-ジイル、ピリジン-2, 5-ジイル、ピリミジン-2, 5-ジイル、ピリダジン-3, 6-ジイル、少なくとも1つの水素がハロゲンまたは炭素数1～5のアルキルで置き換えられた1, 4-シクロヘキシレン、少なくとも1つの水素がハロゲンまたは炭素数1～5のアルキルで置き換えられた1, 4-フェニレンなどである。

【0054】

A 1～A 4 のより好ましい例は、単結合、1, 4-シクロヘキシレン、1, 4-シクロヘキセニレン、1, 4-フェニレン、1, 3-ジオキサン-2, 5-ジイル、ピリジン-2, 5-ジイル、ピリミジン-2, 5-ジイル、ピリダジン-3, 6-ジイル、少なくとも1つの水素がフッ素またはメチルで置き換えられた1, 4-シクロヘキシレン、少なくとも1つの水素がフッ素、塩素またはメチル、エチル、プロピルで置き換えられた1, 4-フェニレンなどである。

【0055】

A 1～A 4 の最も好ましい例は、1, 4-シクロヘキシレン、1, 4-フェニレン、2-フルオロ-1, 4-フェニレン、3-フルオロ-1, 4-フェニレン、2, 3-ジフルオロ-1, 4-フェニレン、2, 5-ジフルオロ-1, 4-フェニレン、2, 6-ジフルオロ-1, 4-フェニレン、3, 5-ジフルオロ-1, 4-フェニレン、2-メチル-1, 4-フェニレン、2-エチル-1, 4-フェニレン、2-プロピル-1, 4-フェニレン、3-メチル-1, 4-フェニレン、3-エチル-1, 4-フェニレン、3-プロピル-1, 4-フェニレンなどである。

【0056】

式(2)におけるZ¹、Z²およびZ³は結合基である。これらは独立して、単結合、-CH=CH-、-C≡C-、-COO-、-OCO-または炭素数1～10のアルキレンである。このアルキレン中の相隣接しない任意の-CH₂-は-O-、-S-、-NH-、-SiR₂²-、-SiR₂²O-、-OSiR₂²-、-OSiR₂²O-、-COO-、-OCO-、-CH=CH-または

—C≡C—で置き換えられてもよい。そしてこのアルキレンは、不斉炭素を有していてもよく、光学活性であってもよい。

【0057】

前記のR²は、ハロゲン、炭素数1～10のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、シクロヘキセニル、または任意の水素がハロゲンもしくは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルである。この炭素数1～10のアルキルおよびフェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の—CH₂—は—O—、—CH=CH—または—C≡C—で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい。

【0058】

Z¹～Z³の好ましい例は、単結合、—(CH₂)_a—、—O(CH₂)_a—、—(CH₂)_aO—、—O(CH₂)_aO—、—CH=CH—、—C≡C—、—COO—および—OCO—である。aは1～8の整数であり、好ましい範囲は1～5である。Z¹～Z³のより好ましい例は、単結合、—(CH₂)₂—、—(CH₂)₃—、—(CH₂)₄—、—OCH₂—、—O(CH₂)₂—、—O(CH₂)₃—、—O(CH₂)₄—、—O(CH₂)₅—、—CH₂O—、—(CH₂)₂O—、—(CH₂)₃O—、—(CH₂)₄O—、—(CH₂)₅O—、—O(CH₂)₂O—、—O(CH₂)₃O—、—O(CH₂)₄O—、—O(CH₂)₅O—、—O(CH₂)₆O—および—CH=CH—である。

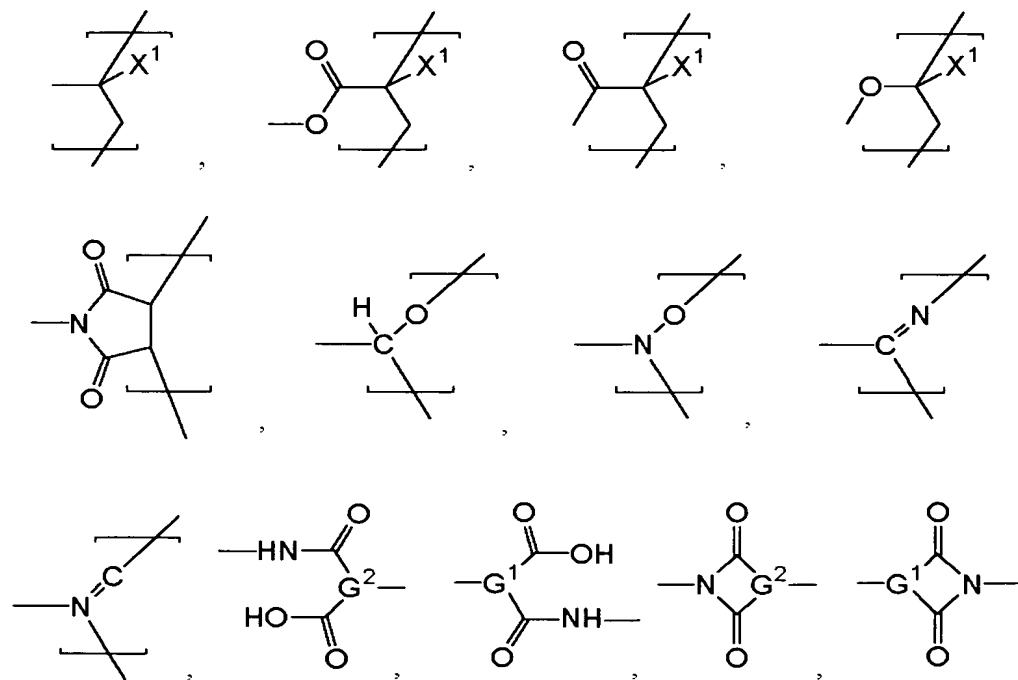
【0059】

Z⁴は単結合、—CH=CH—、—C≡C—、—COO—、—OCO—、または—W¹—T¹—で示される基である。W¹は単結合または炭素数1～10のアルキレンであり、このアルキレン中の相隣接しない任意の—CH₂—は—O—、—COO—、—OCO—、—CH=CH—または—C≡C—で置き換えられてもよい。W¹の好ましい例は、相隣接しない任意の—CH₂—が—O—、—COO—または—OCO—で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキレンである。

【0060】

T^1 は $-O-$ 、 $-S-$ 、 $-SiR^2_2-$ 、 $-SiR^2_2O-$ 、 $-OSiR^2_2$ 、 $-$ 、 $-OSiR^2_2O-$ 、 $-CO-$ 、 $-COO-$ 、 $-OCO-$ 、 $-CSO-$ 、 $-OCS-$ 、 $-CONR^3-$ 、 $-NR^3CO-$ 、 $-CONR^3O-$ 、 $-ONR^3C$ 、 $O-$ 、 $-OCONR^3-$ 、 $-NR^3CONR^3-$ 、 $-NR^3COO-$ 、 $-OCO$ 、 $O-$ 、 $-CH(OH)CH_2-$ 、 $-CH_2CH(OH)-$ 、 $-CH=CH-$ 、 $-CH_2CR^4=CR^5CH_2-$ 、 $-SO_2-$ 、 $-SO_2O-$ 、 $-OSO_2-$ 、 $-SO_2S-$ 、 $-SSO_2-$ 、 $-SO_2NR^3-$ 、 $-NR^3SO_2-$ 、 または下記に示される基のいずれかである。

【0061】



【0062】

T^1 に関するこれらの基において、 R^2 は前記の通りである。 R^3 は水素、炭素数 1 ~ 10 のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、シクロヘキセニル、または任意の水素がハロゲンもしくは炭素数 1 ~ 5 のアルキルで置き換えられてもよいフェニルである。炭素数 1 ~ 10 のアルキルにおいて、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい。フェニルの置換基である炭素数 1 ~ 5 のアルキルにおいて、相隣接しない任意の $-CH_2-$ は

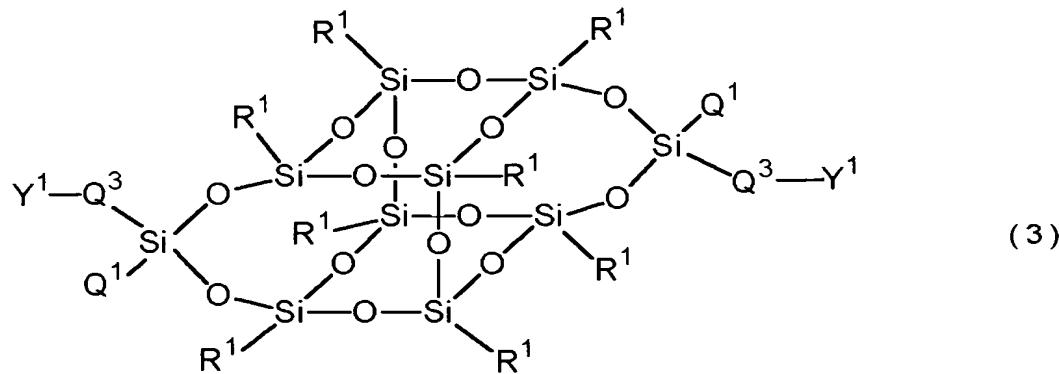
—O—、—CH=CH—または—C≡C—で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい。R³の好ましい例は、水素、メチル、エチル、プロピル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、およびフェニルである。R⁴、R⁵およびX¹は独立して水素、ハロゲン、—CNまたは炭素数1～10のアルキルである。この炭素数1～10のアルキルにおいて、相隣接しない任意の—CH₂—は—O—で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい。R⁴、R⁵およびX¹の好ましい例は、水素、メチル、—F、—CF₃およびフェニルである。

【0063】

G¹は3価の有機基である。これは、PSQ骨格を有する構成単位がPSQ骨格を有するテトラカルボン酸類から導かれるものであるときの、テトラカルボン酸残基の一部とみることもできる。そしてG²は、トリカルボン酸類の残基の一部またはテトラカルボン酸類の残基の一部である。これは、PSQ骨格を有する構成単位がPSQ骨格を有するジアミンから導かれるものであるときの、反応の相手である多価カルボン酸類の残基の一部を示すものである。T¹がG¹を含む基である構成単位は、PSQ骨格を有するテトラカルボン酸類とジアミンとの反応により導かれる。このジアミンはPSQ骨格を有するジアミンであってもよいし、PSQ骨格を持たないジアミンであってもよい。T¹がG²を含む基である構成単位は、PSQ骨格を有するジアミンと多価カルボン酸類との反応により導かれる。この多価カルボン酸類は、PSQ骨格を有するテトラカルボン酸類であってもよいし、PSQ骨格を持たないトリカルボン酸類またはテトラカルボン酸類であってもよい。なお、本発明においては、用語「テトラカルボン酸類」を、テトラカルボン酸の他、テトラカルボン酸のエステル、酸無水物および酸ハライドをも含む総称として用いる。多価カルボン酸類、トリカルボン酸類およびジカルボン酸類も同様に定義される用語である。

【0064】

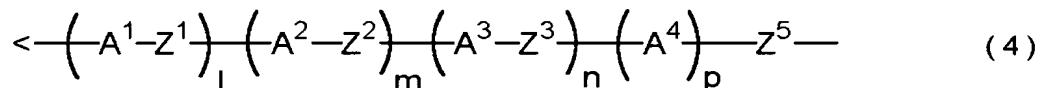
次に、重合体(1)を製造するために用いられる化合物(3)について説明する。



式(3)において、R¹およびQ¹は式(1)におけるこれらの記号と同様に定義される基であり、これらの好ましい例も式(1)における場合と同様である。

【0065】

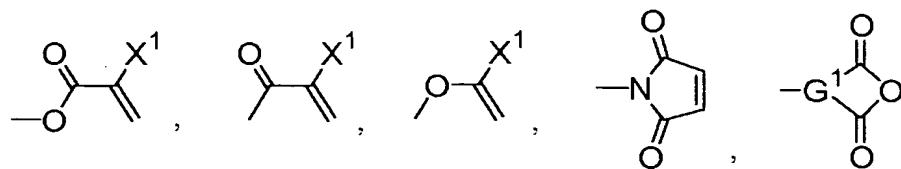
Q³は式(4)で示される基である。



この式における記号は、Z⁵を除いて、式(2)におけるこれらの記号と同様に定義される基であり、これらの好ましい例も式(2)における場合と同様である。そしてZ⁵は、単結合、-CH=CH-、-C≡C-、-COO-、-OCO-または炭素数1～10のアルキレンである。この炭素数1～10のアルキレンにおいて、相隣接しない任意の-CH₂-は-O-、-COO-、-OCO-、-CH=CH-または-C≡C-で置き換えられてもよい。Z⁵の好ましい例は、相隣接しない任意の-CH₂-が-O-、-COO-または-OCO-で置き換えられてもよい炭素数1～10のアルキレンである。

【0066】

式(3)中のY¹は、ハロゲン、-OM¹、-SM¹、-CHO、-COOR⁶、-CSOR⁶、-CSSR⁶、-NHR⁷、-COX²、-CSX²、-OCOX²、-OCOOR⁶、-N=C=O、-C≡N、-C≡CH、-CR⁴=CH₂、-CR⁴=CR⁵COOR⁶、-CH=CR⁴CR⁵=CH₂、-SO₂X²、エポキシを有する基、または下記に示される基のいずれかである。

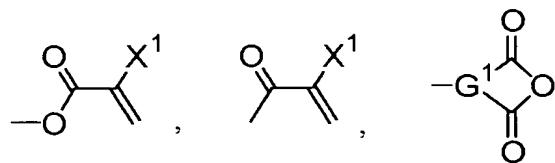


【0067】

Y¹に関するこれらの基において、M¹は水素、またはアルカリ金属である。R⁶は水素、アルカリ金属または炭素数1～10のアルキルである。この炭素数1～10のアルキルにおいて、相隣接しない任意の-CH₂-は-O-で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい。R⁷は水素、炭素数1～10のアルキル、シクロプロピル、シクロブチル、シクロペンチル、シクロヘキシル、シクロヘキセニル、または任意の水素がハロゲンまたは炭素数1～5のアルキルで置き換えられてもよいフェニルである。この炭素数1～10のアルキルにおいて、相隣接しない任意の-CH₂-は-O-で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい。そして、フェニルの置換基である炭素数1～5のアルキルにおいて、相隣接しない任意の-CH₂-は-O-、-CH=CH-または-C≡C-で置き換えられてもよく、任意の水素はハロゲンで置き換えられてもよい。X²はハロゲンであり、塩素および臭素が好ましい。エポキシを有する基の例は、オキシラニル、オキセタニル、3, 4-エポキシシクロヘキシル、および少なくとも1つの水素がハロゲンまたは炭素数1～4のアルキルで置き換えられているこれらの基である。そして、R⁴、R⁵、X¹およびG¹は、T¹に関する定義におけるこれらの記号と同じ意味を有し、好ましい例も同様である。

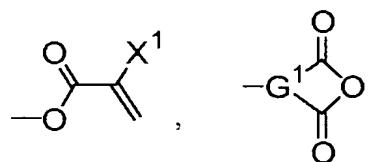
【0068】

そしてY¹の好ましい例は、-OM¹、-CHO、-COOR⁶、-NHR⁷、-COX²、-OCOX²、-N=C=O、-CR⁴=CH₂、オキシラニル、オキセタニル、3, 4-エポキシシクロヘキシル、または下記に示される基のいずれかである。



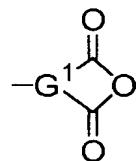
【0069】

Y^1 のより好ましい例は、 $-OM^1$ 、 $-COOR^6$ 、 $-NHR^7$ 、 $-COX^2$ 、 $-N=C=O$ 、 $-CR^4=CH_2$ 、オキシラニル、オキセタニル、または下記に示される基のいずれかである。



【0070】

Y^1 の最も好ましい例は、 $-OH$ 、 $-COOR^6$ 、 $-NH_2$ 、 $-COC_1$ 、または下記に示される基である。



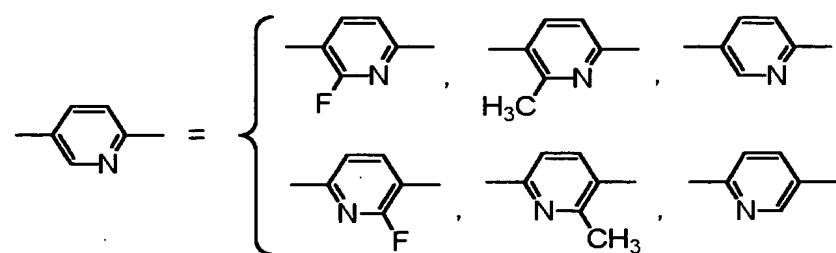
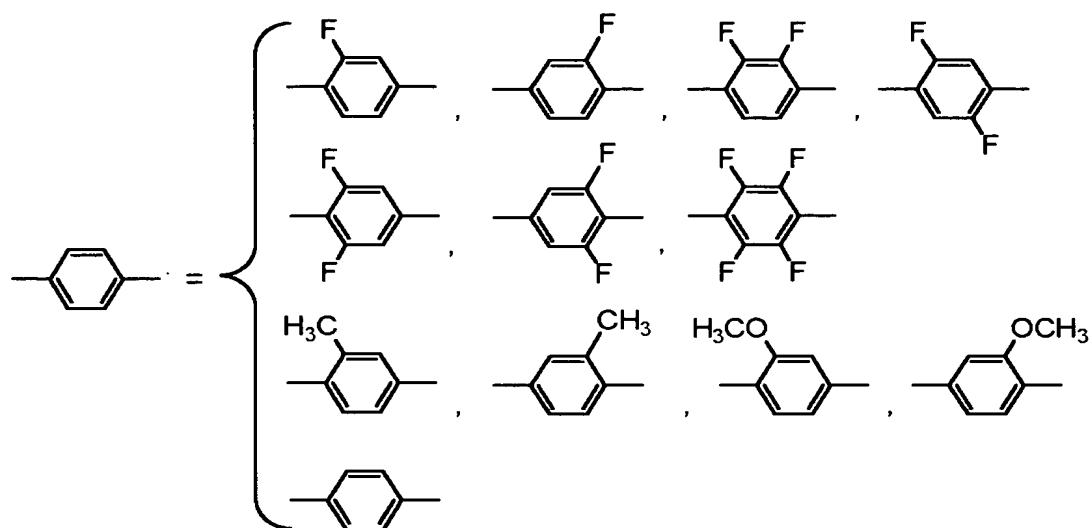
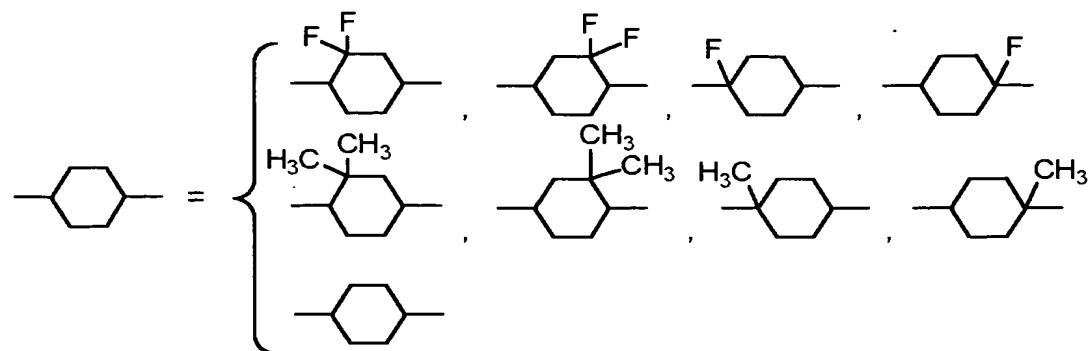
【0071】

なお、 Y^1 が付加重合性の基であるときには、式(3)における Q^1 に付加重合性の基が含まれないことが好ましい。 Q^2 を構成する環の置換基にも、付加重合性の基が含まれないことが好ましい。 Y^1 が縮重合性の基であるときには、式(3)における Q^1 が Y^1 と反応しない基であることが好ましい。 Q^2 を構成する環の置換基や環同士を結合する基にも、 Y^1 と反応する基が含まれないことが好ましい。

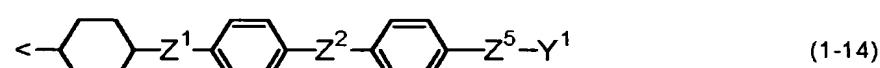
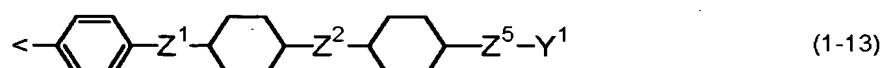
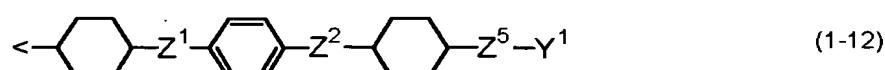
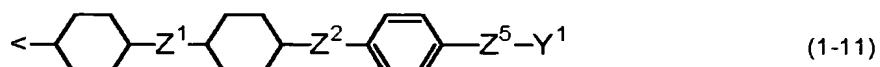
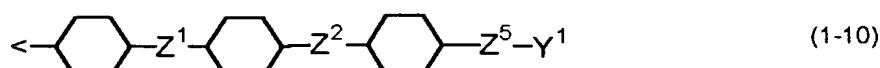
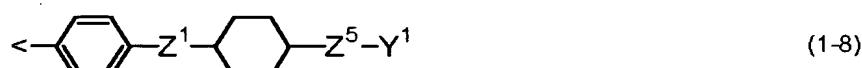
【0072】

そして式(4)は、次に示す式(1-1)～式(1-47)のような好ましい式に具体化することができる。これらの式における記号の意味は前記の通りである。1, 4-シクロヘキシレン、1, 4-フェニレンおよびピリジン-2, 5-

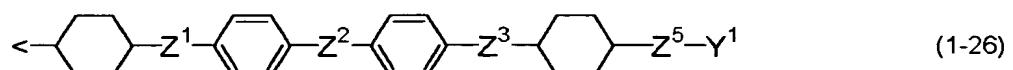
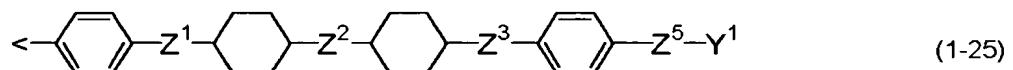
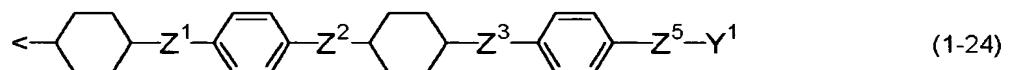
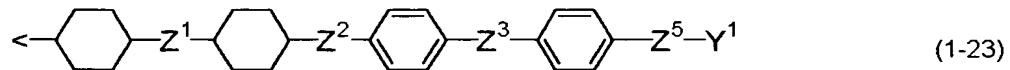
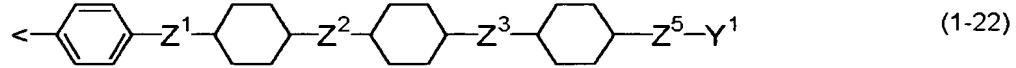
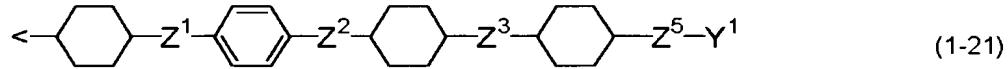
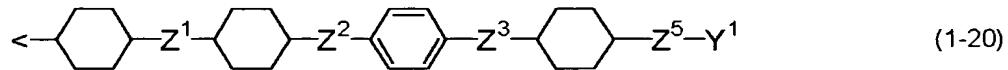
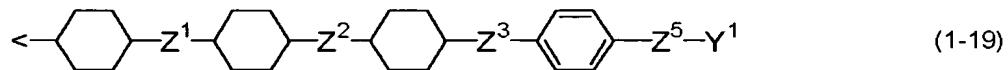
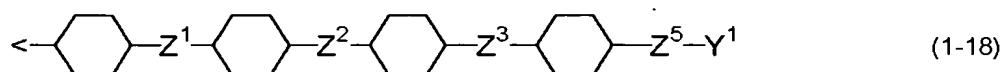
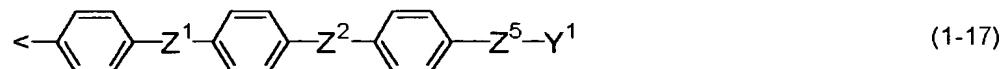
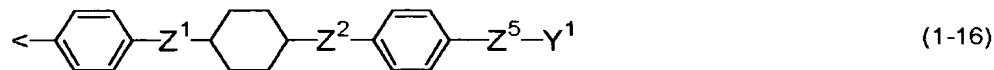
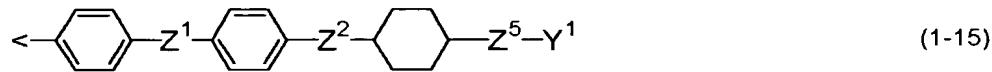
ジイルを示す基は、それぞれ下記の式で示される基を代表する。



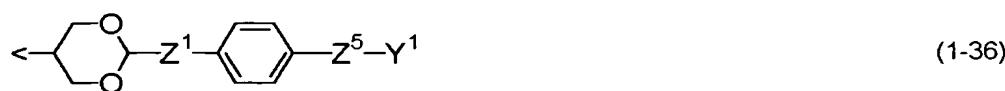
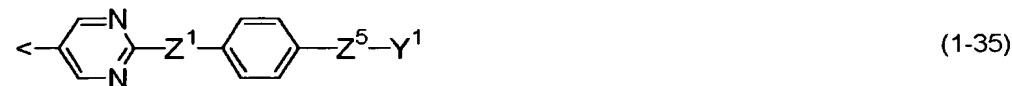
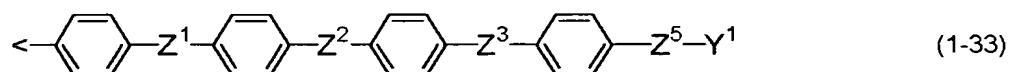
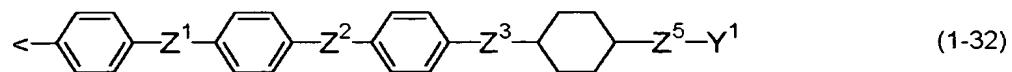
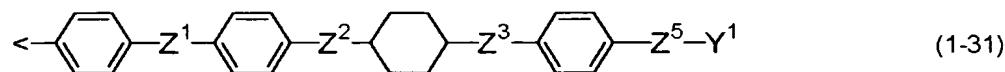
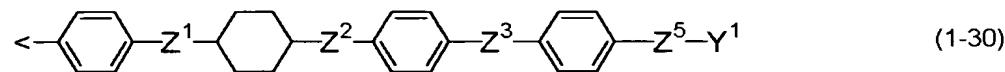
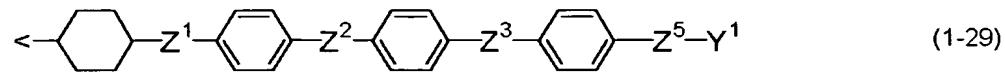
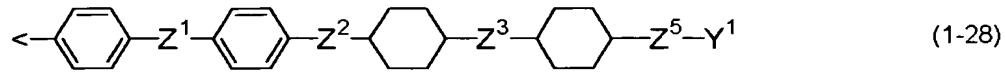
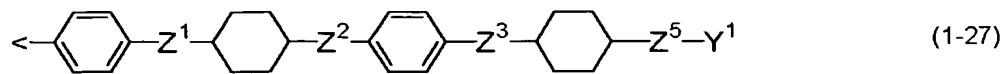
【0073】



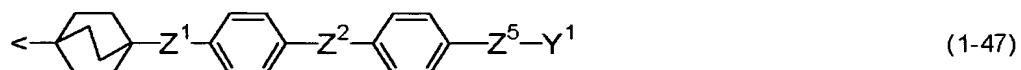
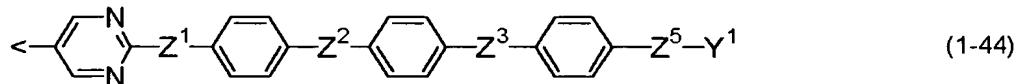
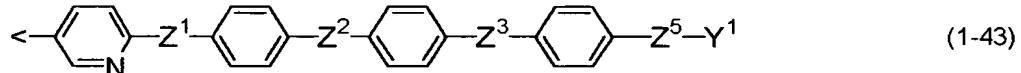
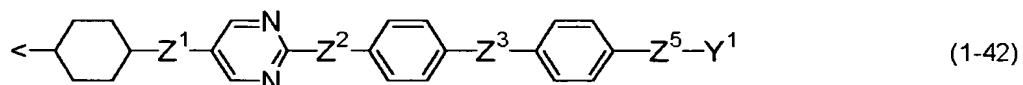
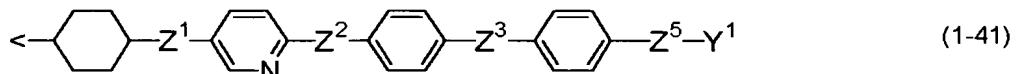
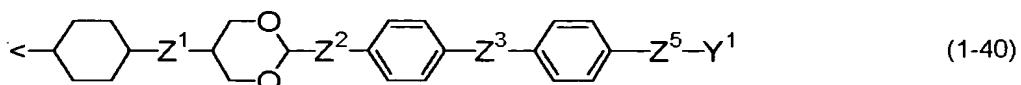
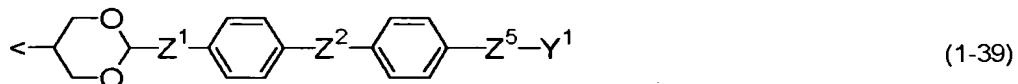
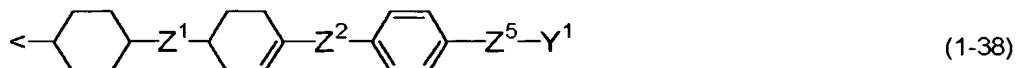
【0074】



【0075】



【0076】

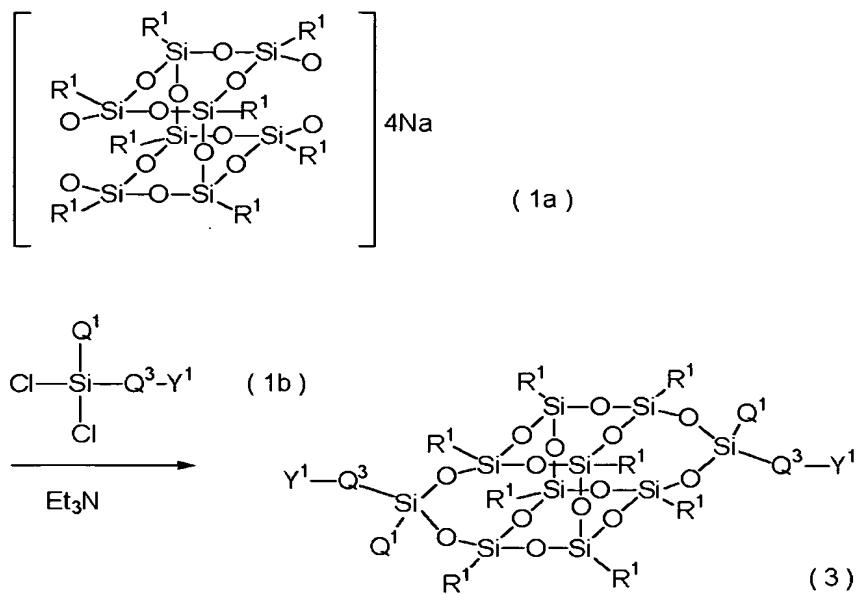


上記のうちで、式（1-1）～式（1-44）がより好ましく、式（1-1）～式（1-33）が更に好ましい。

【0077】

化合物（3）は、トリエチルアミンなどの塩基の存在下で、PSQ（1a）に

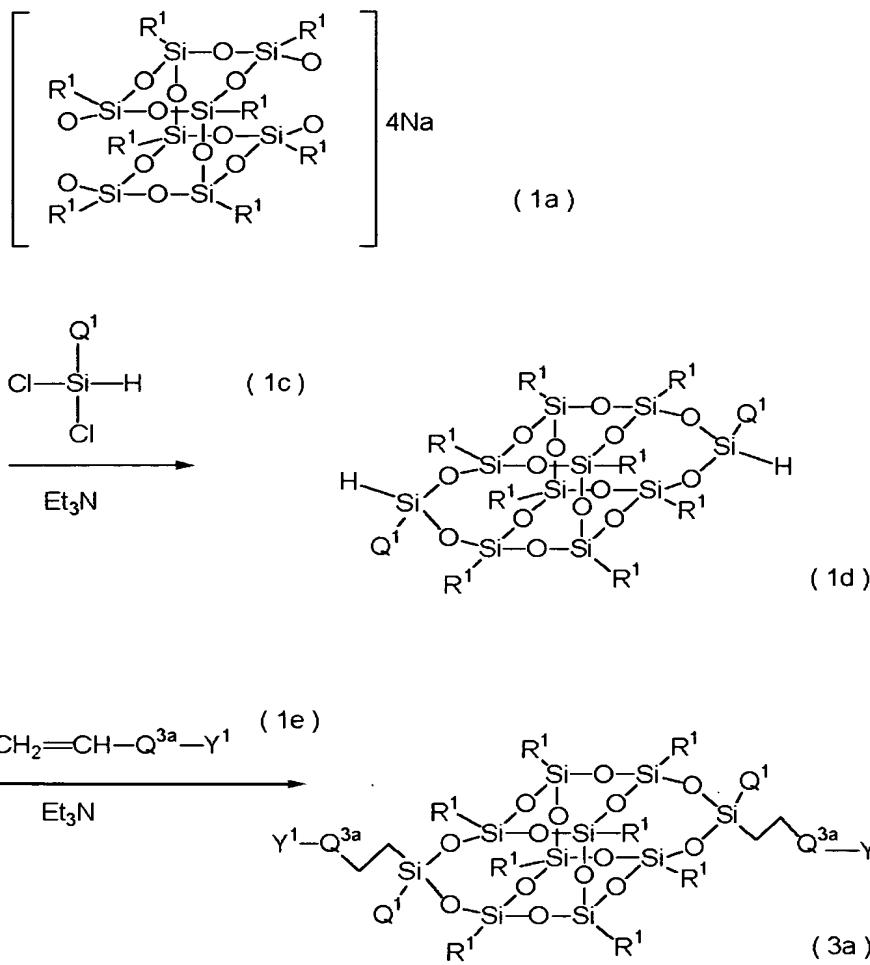
ジクロロシラン（1b）を反応させることにより製造することができる。



このスキームにおいて、Et₃Nはトリエチルアミンであり、他の記号の意味は前記の通りである。PSQ (1a)は、特願2002-257738号明細書に記載の方法に従い、3官能の加水分解性基を有するシラン化合物を1価のアルカリ金属化物および水の存在下、有機溶媒の存在下もしくは不存在下で加水分解、縮重合することにより製造することができる。

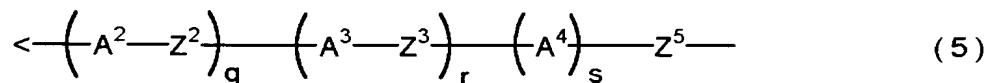
【0078】

PSQ (1a)にジクロロシラン (1c) を反応させてPSQ (1d)とした後、触媒量のラジカル反応開始剤（アゾビスイソブチロニトリル、過酸化ベンゾイル、過酸化ジ-*t*-ブチルなど）、または遷移金属化合物（Pt、Rh、Pd、Niなど）の存在下で、PSQ (1d)に化合物 (1e) を反応させてもよい。このときPSQ (3a)が得られる。



【0079】

上記のスキームにおいて、 Q^{3a} は式 (5) で示される基であり、他の記号の意味は前記の通りである。



式 (5) において、 q 、 r および s は独立して 0、1 または 2 であり、他の記号の意味は前記の通りである。

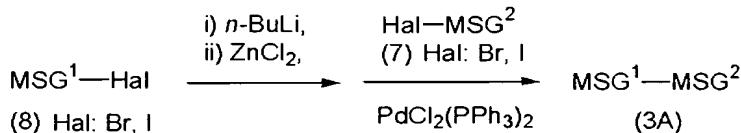
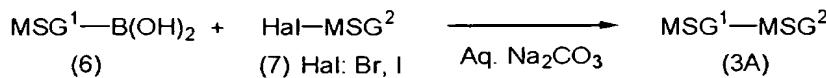
【0080】

結合基 Z^1 、 Z^2 、 Z^3 または Z^5 を生成する方法の一例を、スキームを示して説明する。以下のスキームにおける MSG¹ および MSG² は、それぞれ少なくとも 1 つの環を有する 1 値または 2 値の有機基である。スキーム中の複数の MSG¹ (または MSG²) は、同一であってもよいし、異なってもよい。化合物

(3A)～化合物(3H)は化合物(3)に相当する。

【0081】

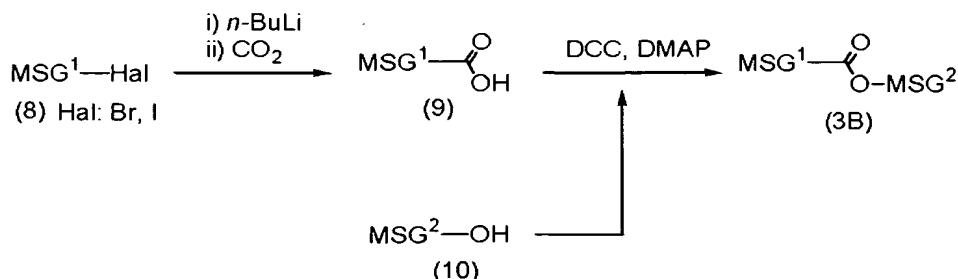
(I) 単結合の生成



ホウ酸誘導体(6)と公知の方法で合成されるハライド(7)とを、炭酸塩水溶液とテトラキス(トリフェニルホスフィン)パラジウムのような触媒の存在下で反応させて化合物(3A)を合成する。この化合物(3A)は、公知の方法で合成される化合物(8)にまずn-ブチルリチウムを反応させ、次いで塩化亜鉛を反応させて、それからジクロロビス(トリフェニルホスフィン)パラジウムのような触媒の存在下で、化合物(7)を反応させることによっても合成される。ホウ酸誘導体(6)は化合物(8)をグリニヤール試薬あるいはリチウム試薬に誘導し、これにトリアルキルホウ酸エステルを反応させることによって製造することができる。

【0082】

(II) $-\text{C}\text{O}\text{O}-$ と $-\text{O}\text{C}\text{O}-$ の生成

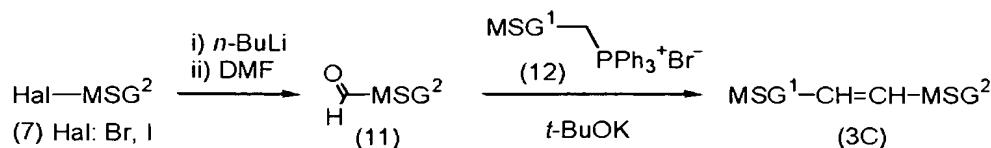


化合物(8)にn-ブチルリチウムを、続いて二酸化炭素を反応させてカルボン酸(9)を得る。カルボン酸(9)と、公知の方法で合成されるフェノール(10)とをDCC(1,3-ジシクロヘキシルカルボジイミド)とDMAP(4

ジメチルアミノピリジン) の存在下で脱水させて、-COO-を有する化合物 (3B) を合成する。この方法によって、-OCO-を有する化合物も合成することができる。

【0083】

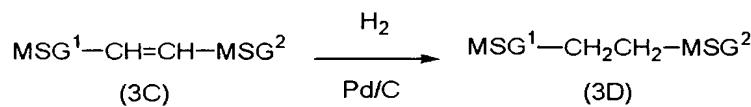
(III) $-\text{CH}=\text{CH}-$ の生成



化合物(7)をn-ブチルリチウムで処理した後、N,N-ジメチルホルムアミドなどのホルムアミドと反応させてアルデヒド(11)を得る。公知の方法で合成されるホスホニウム塩(12)をカリウムt-ブリトキシドのような塩基で処理してリンイリドを発生させ、これをアルデヒド(11)に反応させて化合物(3C)を合成する。反応条件によってはシス体が生成するので、必要に応じて公知の方法によりシス体をトランス体に異性化する。

[0 0 8 4]

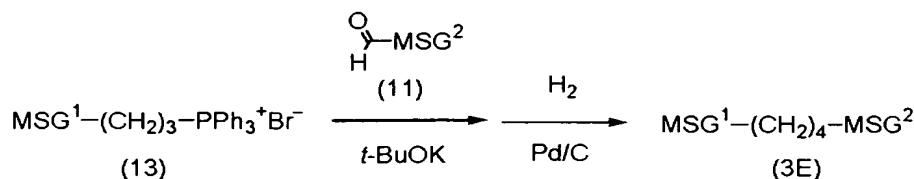
(IV) - (CH₂)₂ - の生成



化合物（3C）をパラジウム炭素のような触媒の存在下で水素化することにより、化合物（3D）を合成する。

[0 0 8 5]

(V) $-\text{CH}_2-$ の生成

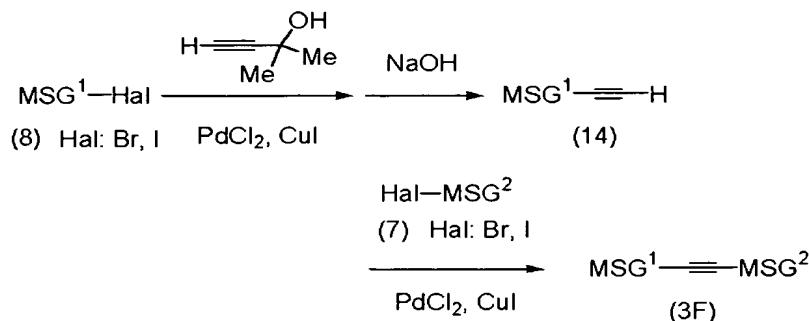


ホスホニウム塩（12）の代わりにホスホニウム塩（13）を用い、(III)

項の方法に従って $-\text{CH}_2-\text{CH}=\text{CH}-$ を有する化合物を得る。これを接触水素化して化合物(3E)を合成する。

【0086】

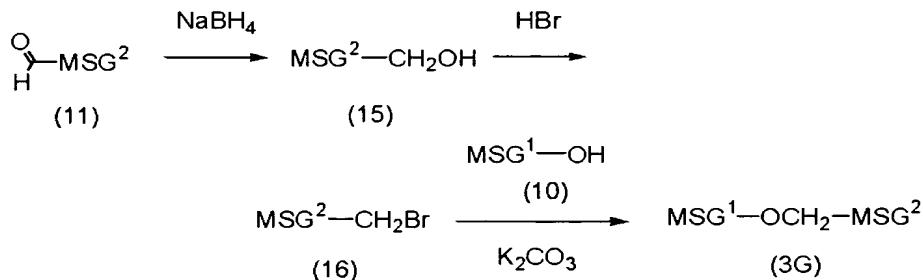
(VI) $-\text{C}\equiv\text{C}-$ の生成



ジクロロパラジウムとハロゲン化銅との触媒存在下で、化合物(8)に2-メチル-3-ブチン-2-オールを反応させたのち、塩基性条件下で脱保護して化合物(14)を得る。そして、ジクロロパラジウムとハロゲン化銅との触媒存在下、化合物(14)を化合物(7)と反応させて、化合物(3F)を合成する。

【0087】

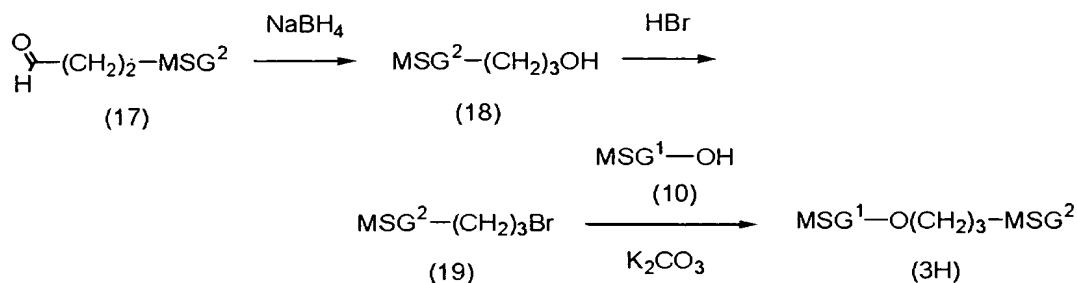
(VII) $-\text{CH}_2\text{O}-$ または $-\text{OCH}_2-$ の生成



化合物(11)を水素化ホウ素ナトリウムなどの還元剤で還元して化合物(15)を得る。これを臭化水素酸などでハロゲン化して化合物(16)を得る。炭酸カリウムなどの存在下で、化合物(16)を化合物(10)と反応させて化合物(3G)を合成する。

【0088】

(VIII) $-\text{(CH}_2)_3\text{O}-$ または $-\text{O}(\text{CH}_2)_3-$ の生成



化合物(11)の代わりに化合物(17)を用い、(VII)項の方法に従って化合物(3H)を合成する。

【0089】

上記の例の他、化合物(3)は、ホーベン-ワイル(Houben-Wyle, Methods of Organic Chemistry, Georg Thieme Verlag, Stuttgart)、オーガニック・シンセシズ(Organic Syntheses, John Wiley & Sons, Inc.)、オーガニック・リアクションズ(Organic Reactions, John Wiley & Sons, Inc.)、コンペリヘンシブ・オーガニック・シンセシス(Comprehensive Organic Synthesis, Pergamon Press)、新実験化学講座(丸善)などに記載された有機化学における合成方法を駆使することにより製造することができる。

【0090】

次に、本発明の重合体について説明する。

化合物(3)の1つのみを重合させると単独重合体が得られる。少なくとも2つの化合物(3)を含有する重合性組成物を重合させると、化合物(3)の共重合体が得られる。化合物(3)と他の重合性化合物とを含有する重合性組成物を重合させても共重合体が得られる。これらの単独重合体および共重合体は、いずれも式(1)で表される構成卖位とほぼ同じ構成卖位を有する。この構成卖位の共重合体における配列は、ランダム、ブロック、交互、グラフトなどのいずれであってもよい。

【0091】

化合物(3)を用いて重合体を得るには、化合物(3)またはこれを含有する重合性組成物を、付加重合させるかまたは縮重合させる。即ち、化合物(3)の官能基Y¹が付加重合性の基である場合は、熱または光により付加重合させる。

Y₁ が付加重合性の基でない場合は、Y₁ と反応することができる官能基を少なくとも 2 つ有する化合物と縮重合させる。化合物（3）を含有する重合性組成物は、付加重合性の組成物であるか、または縮重合性の組成物であることが好ましい。

【0092】

付加重合性組成物は、付加重合性の基を有する化合物（3）を含有し、更に他の付加重合性化合物を含有する組成物である。他の付加重合性化合物は、付加重合性の基を有する別の化合物（3）であってもよいし、化合物（3）ではない付加重合性化合物であってもよい。これらが共に配合されてもよい。以下の説明では、化合物（3）以外の付加重合性化合物を他の重合性化合物と称することがある。縮重合性組成物は、縮重合性の官能基を有する化合物（3）を含有し、この官能基と反応する基を少なくとも 2 つ有する他の縮重合性化合物を更に含有する組成物である。他の縮重合性化合物は、別の化合物（3）であってもよいし、化合物（3）以外の化合物であってもよい。これらが共に配合されてもよい。以下の説明では、化合物（3）以外の縮重合性化合物を他の反応性化合物と称することがある。

【0093】

付加重合性組成物を熱重合するときの反応温度は、0～300℃、反応時間は1～100時間であり、通常、ラジカル重合開始剤を用いる。ラジカル重合開始剤の例は、過酸化ベンゾイル、ジイソプロピルパーオキシジカーボネート、t-ブチルパーオキシ-2-エチルヘキサノエート、t-ブチルパーオキシピバレート、t-ブチルパーオキシジイソブチレート、過酸化ラウロイル、2, 2'-アゾビスイソ酪酸ジメチル（M A I B）、ジt-ブチルパーオキシド（D T B P O）、アゾビスイソブチロニトリル（A I B N）、アゾビスシクロヘキサンカルボニトリル（A C N）などである。

【0094】

付加重合性組成物を光または電子線などの照射によって重合するときは、光ラジカル重合開始剤を用いてもよい。光ラジカル重合開始剤の例は、チバ・スペシヤリティー・ケミカルズ（株）の製品のうちから、ダロキュアー1173（2-

ヒドロキシ-2-メチル-1-フェニルプロパン-1-オン)、イルガキュア-184(1-ヒドロキシクロヘキシルフェニルケトン)、イルガキュア-651(2,2-ジメトキシ-1,2-ジフェニルエタン-1-オン)、イルガキュア-500、イルガキュア-2959、イルガキュア-907、イルガキュア-369、イルガキュア-1300、イルガキュア-819、イルガキュア-1700、イルガキュア-1800、イルガキュア-1850、ダロキュア-4265、イルガキュア-784などを挙げることができる。

【0095】

光ラジカル重合開始剤のその他の例は、p-メトキシフェニル-2,4-ビス(トリクロロメチル)トリアジン、2-(p-ブトキシスチリル)-5-トリクロロメチル-1,3,4-オキサジアゾール、9-フェニルアクリジン、9,10-ベンズフェナジン、ベンゾフェノン/ミヒラーズケトン混合物、ヘキサアリールビイミダゾール/メルカプトベンズイミダゾール混合物、1-(4-イソプロピルフェニル)-2-ヒドロキシ-2-メチルプロパン-1-オン、ベンジルジメチルケタール、2-メチル-1-[4-(メチルチオ)フェニル]-2-モルホリノプロパン-1-オン、2,4-ジエチルキサントン/p-ジメチルアミノ安息香酸メチル混合物などである。

【0096】

縮重合反応には、2つ以上の化合物を混合して、もしくはそれらの融点以上の融液状態で反応させる方法、減圧下で加熱し気化させた状態で反応させる方法、光、超音波、プラズマなどのエネルギーを外部より与えて活性化して反応させる方法などが採用される。通常、重合反応を促進させる目的で、酸、アルカリ、金属化合物などの重合促進剤が用いられる。例えばポリエステルは、エステル化反応またはエステル交換反応により製造されるが、重合促進剤の例は、アルカリ金属、アルカリ土類金属、スズ、ゲルマニウム、アンチモン、亜鉛、コバルト、ニッケル、チタン、アルミニウムなどの単体、またはこれらの化合物である。化合物の例は、酸化物、水酸化物、ハロゲン化物、炭酸塩、炭酸水素塩、酢酸塩などである。これらのアルキル化物の無機酸塩類、有機酸塩類、錯塩類なども挙げることができる。

【0097】

ゲルマニウム化合物の例は、二酸化ゲルマニウム、ゲルマニウム・テトラエトキシド、ゲルマニウム・テトラ-*n*-ブトキシドなどである。チタン化合物の例は、テトラアルキルチタネート（テトラエチルチタネート、テトライソプロピルチタネート、テトラ-*n*-プロピルチタネート、テトラ-*n*-ブチルチタネートなど）およびそれらの部分加水分解物、蔥酸チタニル化合物（蔥酸チタニル、蔥酸チタニルアンモニウム、蔥酸チタニルナトリウム、蔥酸チタニルカリウム、蔥酸チタニルカルシウム、蔥酸チタニルストロンチウムなど）、トリメリット酸チタン、硫酸チタン、塩化チタンなどである。アンチモン化合物の例は、三酸化アンチモン、酢酸アンチモン、酒石酸アンチモン、酒石酸アンチモンカリ、オキシ塩化アンチモン、アンチモングリコレート、五酸化アンチモン、トリフェニルアンチモンなどである。アルミニウム化合物の例は、カルボン酸アルミニウム塩（蟻酸アルミニウム、酢酸アルミニウム、プロピオン酸アルミニウム、蔥酸アルミニウムなど）、酸化アルミニウム、水酸化アルミニウム、塩化アルミニウム、水酸化塩化アルミニウム、炭酸アルミニウム、アルミニウムアルコキサイド（アルミニウムメトキサイド、アルミニウムエトキサイドなど）、アルミニウムアセチルアセトネートまたはアルミニウムアセチルアセテートとのアルミニウムキレート化合物、有機アルミニウム化合物（トリメチルアルミニウム、トリエチルアルミニウムなど）およびこれらの部分加水分解物などである。

【0098】

重合促進剤の他に安定剤を用いることもできる。安定剤の例は、リン酸エステル類（トリメチルホスフェート、トリエチルホスフェート、トリ-*n*-ブチルホスフェート、トリオクチルホスフェート、トリフェニルホスフェート、メチルアシッドホスフェート、イソプロピルアシッドホスフェート、ブチルアシッドホスフェート、ジブチルホスフェート、モノブチルホスフェート、ジオクチルホスフェートなど）、亜リン酸エステル類（トリフェニルホスファイト、トリスドデシルホスファイト、トリスノニルフェニルホスファイトなど）、リン酸、ポリリン酸などである。

【0099】

そして、例えばポリイミドは、ジアミンとテトラカルボン酸二無水物を縮重合させてポリアミド酸にした後、熱イミド化法または化学イミド化法などにより脱水して製造することができる。通常、熱イミド化法の反応温度は50～300℃である。化学イミド化法には、加水分解能を有する脱水剤または塩基触媒を用いる。脱水剤の例は、N, N-ジアルキルカルボジイミド類、脂肪族カルボン酸無水物（無水酢酸、トリフルオロ酢酸無水物など）、リン酸誘導体（ポリリン酸、五酸化リンなど）、リン酸誘導体の酸無水物、酸塩化物（塩化メタンスルホン酸、五塩化リン、塩化チオニルなど）などである。塩基触媒には、有機塩基、三級アミン、無機塩基などがある。有機塩基の例は、N, N-ジメチルアセトアミド、N, N-ジエチルアセトアミド、N, N-ジメチルホルムアミド、N, N-ジエチルホルムアミド、N-メチル-2-ピロリドン、1, 3-ジメチル-2-イミダゾリジノン、イミダゾール、N-メチルカプロラクタム、イミダゾール、N, N-ジメチルアニリン、N, N-ジエチルアニリンなどである。三級アミンの例は、ピリジン、コリジン、ルチジン、トリエチルアミンなどである。無機塩基の例は、水酸化カリウム、水酸化ナトリウム、炭酸カリウム、炭酸ナトリウム、炭酸水素カリウム、炭酸水素ナトリウムなどである。

【0100】

重合体（1）は、アニオン重合法、配位重合法またはリビング重合法によっても製造することができる。これらの重合法で用いる好ましい触媒は、アルカリ金属アルキル（n-ブチルリチウム、sec-ブチルリチウム、t-ブチルリチウム、トリアルキルアルミニウムなど）、アルミニウム化合物、遷移金属化合物などである。

【0101】

重合反応には溶剤を用いてもよい。溶剤の例は、ベンゼン、トルエン、キシレン、メチレン、ペンタン、ヘキサン、ヘプタン、オクタン、ノナン、デカン、N, N-ジメチルアセトアミド、N, N-ジエチルアセトアミド、N, N-ジメチルホルムアミド、N, N-ジエチルホルムアミド、N-メチル-2-ピロリドン、1, 3-ジメチル-2-イミダゾリジノン、イミダゾール、N-メチルカプロラクタム、ジメチルスルホキシド、ジエチルスルホキシド、ジメチルスルホン

、ジエチルスルホン、ヘキサメチルスルホルアミド、クレゾール、フェノール、キシレノール、ジエチレングリコールジメチルエーテル（ジグライム）、トリエチレングリコールジメチルエーテル（トリグライム）、テトラグライム、ジオキサン、テトラヒドロフラン、 γ -ブチロラクトンなどである。これらの少なくとも2つを混合した溶剤を用いてもよい。

【0102】

次に、化合物（3）と共重合させるための、他の反応性化合物および他の重合性化合物について説明する。他の反応性化合物の好ましい例は、グリコール、ジカルボン酸、ジアミン、テトラカルボン酸二無水物などであるが、これらに限定されない。他の重合性化合物の好ましい例は、ビニル系单量体、フマル酸ジエステル、マレイミド誘導体などであるが、これらに限定されない。

【0103】

グリコールとしては、脂肪族、脂環式系、芳香族のいずれの群に属するものであってもよく、またこれらはシロキサン基を含むものであっても光学活性であってもよい。脂肪族グリコールの例は、エチレングリコール、トリメチレングリコール、1, 4-ブantanジオール、1, 5-ペンタンジオール、1, 6-ヘキサンジオール、ジエチレングリコール、プロピレングリコール、ネオペンチルグリコールなどの脂肪族ジオール、およびポリエチレングリコール、ポリプロピレングリコール、ポリブチレングリコールなどのポリエーテル化合物である。

【0104】

脂環式グリコールの例は、1, 3-シクロヘキサンジメタノール、1, 4-シクロヘキサンジメタノール、1, 2-デカヒドロナフタレンジメタノール、1, 3-デカヒドロナフタレンジメタノール、1, 4-デカヒドロナフタレンジメタノール、1, 5-デカヒドロナフタレンジメタノール、1, 6-デカヒドロナフタレンジメタノール、2, 7-デカヒドロナフタレンジメタノール、テトラリンジメタノール、ノルボルナンジメタノール、トリシクロデカンジメタノール、ペンタシクロドデカンジメタノールなどである。

【0105】

芳香族グリコールの例は、ビスフェノール類のアルキレンオキシド付加物、お

より芳香族ジヒドロキシ化合物のアルキレンオキシド付加物である。ビスフェノール類のアルキレンオキシド付加物の例は、4, 4'-(1-メチルエチリデン)ビスフェノール、メチレンビスフェノール(ビスフェノールF)、4, 4'-(シクロヘキシリデン)ビスフェノール(ビスフェノールZ)、4, 4'-(スルホニル)ビスフェノール(ビスフェノールS)などである。芳香族ジヒドロキシ化合物のアルキレンオキシド付加物の例は、ヒドロキノン、レゾルシン、4, 4'-(ジヒドロキシビフェニル)、4, 4'-(ジヒドロキシジフェニルエーテル)、4, 4'-(ジヒドロキシジフェニルベンゾフェノン)などである。

【0106】

上記のグリコールには異性体が存在するものもあるが、それらを含む混合物であってもよい。2つ以上のグリコールを併用してもよい。2つ以上のグリコールを用いるときには、上記の同じ種類から2つ以上を選択してもよいし、異なる種類からそれぞれ少なくとも1つを選択してもよい。なお、本発明に使用するグリコールは、上記の例示化合物に限定されない。

【0107】

ジカルボン酸またはその誘導体としては、脂肪族系、脂環式系、芳香族系、複素環を含むもののいずれの群に属するものであってもよい。これらはシロキサン基を含むものであっても光学活性であってもよい。脂肪族ジカルボン酸の例は、マロン酸、succinic acid、ジメチルマロン酸、コハク酸、フマル酸、グルタル酸、アジピン酸、ムコン酸、2-メチルアジピン酸、トリメチルアジピン酸、ピメリン酸、2, 2-ジメチルグルタル酸、3, 3-ジエチルコハク酸、アゼライイン酸、セバシン酸、スペリン酸などである。

【0108】

脂環式系のジカルボン酸の例は、1, 1-シクロプロパンジカルボン酸、1, 2-シクロプロパンジカルボン酸、1, 1-シクロブタンジカルボン酸、1, 2-シクロブタンジカルボン酸、1, 3-シクロブタンジカルボン酸、3, 4-ジフェニル-1, 2-シクロブタンジカルボン酸、2, 4-ジフェニル-1, 3-シクロブタンジカルボン酸、1-シクロブテン-1, 2-ジカルボン酸、1-シクロブテン-3, 4-ジカルボン酸、1, 1-シクロヘキサンジカルボン酸、1

， 2-シクロヘキサンジカルボン酸、1， 3-シクロヘキサンジカルボン酸、1
 ， 1-シクロヘキサンジカルボン酸、1， 2-シクロヘキサンジカルボン酸、1
 ， 3-シクロヘキサンジカルボン酸、1， 4-シクロヘキサンジカルボン酸、1
 ， 4-(2-ノルボルネン)ジカルボン酸、ノルボルネン-2， 3-ジカルボン
 酸、ビシクロ[2.2.2]オクタン-1， 4-ジカルボン酸、ビシクロ[2.
 2.2]オクタン-2， 3-ジカルボン酸、2， 5-ジオキソ-1， 4-ビシクロ
 [2.2.2]オクタンジカルボン酸、1， 3-アダマンタンジカルボン酸、
 4， 8-ジオキソ-1， 3-アダマンタンジカルボン酸、2， 6-スピロ[3.
 3]ヘプタンジカルボン酸、1， 3-アダマンタン二酢酸、カンファー酸など
 ある。

【0109】

芳香族ジカルボン酸の例は、o-フタル酸、イソフタル酸、テレフタル酸、5
 -メチルイソフタル酸、5-tert-ブチルイソフタル酸、5-アミノイソフ
 タル酸、5-ヒドロキシイソフタル酸、2， 5-ジメチルテレフタル酸、テトラ
 メチルテレフタル酸、1， 4-ナフタレンジカルボン酸、2， 5-ナフタレンジ
 カルボン酸、2， 6-ナフタレンジカルボン酸、2， 7-ナフタレンジカルボン
 酸、1， 4-アントラセンジカルボン酸、1， 4-アントラキノンジカルボン酸
 、2， 5-ビフェニルジカルボン酸、4， 4'-ビフェニルジカルボン酸、1，
 5-ビフェニレンジカルボン酸、4， 4"-ターフェニルジカルボン酸、4， 4
 '， -ジフェニルメタンジカルボン酸、4， 4'-ジフェニルエタンジカルボン酸
 、4， 4'-ジフェニルプロパンジカルボン酸、4， 4'-ジフェニルヘキサフ
 ルオロプロパンジカルボン酸、4， 4'-ジフェニルエーテルジカルボン酸、4
 ， 4'-ビベンジルジカルボン酸、4， 4'-スチルベンジカルボン酸、4， 4
 '， -トランジカルボン酸、4， 4'-カルボニル二安息香酸、4， 4'-スルホ
 ニル二安息香酸、4， 4'-ジチオ二安息香酸、p-フェニレン二酢酸、3， 3
 '， -p-フェニレンジプロピオン酸、4-カルボキシ桂皮酸、p-フェニレンジ
 アクリル酸、3， 3'-(4， 4'-(メチレンジ-p-フェニレン))ジプロ
 ピオン酸、4， 4'-(4， 4'-(オキシジ-p-フェニレン))ジプロピオ
 ン酸、4， 4'-(4， 4'-(オキシジ-p-フェニレン))二酷酸、(イソ

プロピリデンジ- p-フェニレンジオキシ) 二酷酸、ビス (p-カルボキシフェニル) ジメチルシランなどである。

【0110】

複素環を含むジカルボン酸の例は、1, 5- (9-オキソフルオレン) ジカルボン酸、3, 4-フランジカルボン酸、4, 5-チアゾールジカルボン酸、2-フェニル-4, 5-チアゾールジカルボン酸、1, 2, 5-チアジアゾール-3, 4-ジカルボン酸、1, 2, 5-オキサジアゾール-3, 4-ジカルボン酸、2, 3-ピリジンジカルボン酸、2, 4-ピリジンジカルボン酸、2, 5-ピリジンジカルボン酸、2, 6-ピリジンジカルボン酸、3, 4-ピリジンジカルボン酸、3, 5-ピリジンジカルボン酸などである。

【0111】

上記のジカルボン酸は、モノエステル、ジエステル、酸モノハライド、酸ジハライドまたは無水物であってもよい。2つのカルボキシル基の1つがエステル化され、もう1つが酸ハライドであるものでもよい。これらの化合物には異性体が存在するものもあるが、それらを含む混合物であってもよい。2つ以上のジカルボン酸を併用してもよい。2つ以上のジカルボン酸を用いるときには、上記の同じ種類から2つ以上を選択してもよいし、異なる種類からそれぞれ少なくとも1つを選択してもよい。なお、本発明に使用するジカルボン酸は、上記の例示化合物に限定されない。

【0112】

ジアミンとしては、脂肪族、脂環式系、芳香族のいずれの群に属するものであってもよく、またこれらはシロキサン基を含むものであっても光学活性であってもよい。脂肪族ジアミンの例は、エチレンジアミン、トリメチレンジアミン、テトラメチレンジアミン、ペンタメチレンジアミン、およびヘキサメチレンジアミンである。これらのアルキレンジアミンにおいて、任意の-CH₂-が-O-で置き換えられた構造のジアミンでもよい。

【0113】

脂環式系ジアミンの例は、1, 4-ジアミノジシクロヘキサン、1, 3-ビス(アミノメチル) シクロヘキサン、1, 4-ビス(アミノメチル) シクロヘキサ

ン、4, 4' -ジアミノジシクロヘキシルメタン、ビス(2-メチル-4-アミノシクロヘキシル)メタン、イソホロンジアミン、2, 5-ビス(アミノメチル)-ビシクロ[2.2.1]ヘプタン、2, 6-ビス(アミノメチル)-ビシクロ[2.2.1]ヘプタン、2, 3-ジアミノビシクロ[2.2.1]ヘプタン、2, 6-ジアミノビシクロ[2.2.1]ヘプタン、2, 5-ジアミノビシクロ[2.2.1]ヘプタン、2, 7-ジアミノビシクロ[2.2.1]ヘプタン、2, 3-ジアミノ-7-アザビシクロ[2.2.1]ヘプタン、2, 5-ジアミノ-7-アザビシクロ[2.2.1]ヘプタン、2, 6-ジアミノ-7-アザビシクロ[2.2.1]ヘプタン、2, 3-ジアミノ-7-チアビシクロ[2.2.1]ヘプタン、2, 5-ジアミノ-7-チアビシクロ[2.2.1]ヘプタン、2, 3-ジアミノビシクロ[2.2.2]オクタン、2, 5-ジアミノビシクロ[2.2.2]オクタン、2, 6-ジアミノビシクロ[2.2.2]オクタン-7-エン、2, 5-ジアミノ-7-アザビシクロ[2.2.2]オクタン、2, 5-ジアミノ-7-オキサビシクロ[2.2.2]オクタン、2, 5-ジアミノ-7-チアビシクロ[2.2.2]オクタン、2, 6-ジアミノビシクロ[3.2.1]オクタン、2, 6-ジアミノアザビシクロ[3.2.1]オクタン、2, 6-ジアミノオキサビシクロ[3.2.1]オクタン、2, 6-ジアミノチアビシクロ[3.2.1]オクタン、2, 6-ジアミノビシクロ[3.2.2]ノナン、2, 6-ジアミノビシクロ[3.2.2]ノナン-8-エン、2, 6-ジアミノ-8-アザビシクロ[3.2.2]ノナン、2, 6-ジアミノ-8-オキサビシクロ[3.2.2]ノナン、2, 6-ジアミノ-8-チアビシクロ[3.2.2]ノナンなどである。

【0114】

芳香族ジアミンの例は、2, 2-ビス(4-アミノフェニル)プロパン、2, 6-ジアミノピリジン、ビス-(4-アミノフェニル)ジエチルシラン、ビス-(4-アミノフェニル)ジフェニルシラン、ビス-(4-アミノフェニル)エチルホスフィンオキサイド、ビス-(4-アミノフェニル)-N-ブチルアミン、N, N-ビス-(4-アミノフェニル)-N-メチルアミン、N-(3-アミノ

フェニル) -4-アミノベンズアミド、3, 3' -ジアミノジフェニルメタン、3, 3' -ジアミノジフェニルエーテル、3, 3' -ジアミノジフェニルスルホン、2, 2-ビス(3-アミノフェニル)プロパン、1, 3-ビス(3-アミノフェニル)プロパン、3, 3' -ジアミノジフェニルスルフイド、2, 3, 5, 6-テトラメチル-p-フェニレンジアミン、2, 5-ジメチル-p-フェニレンジアミン、p-キシレンジアミン、m-キシレンジアミン、p-キシリレンジアミン、m-キシリレンジアミン、2, 4-ジアミノトルエン、2, 6-ジアミノトルエン、1, 2-ビス(3-ジアミノフェニル)エタン、1, 1-ビス(3-ジアミノフェニル)エタン、4, 4' -ジアミノジフェニルヘキサフルオロプロパン、2, 2-ビス(4-アミノフェニル)ヘキサフルオロプロパン、4, 4' -ジアミノベンゾフェノン、4, 4' -ジアミノジフェニルスルフイド、4, 4' -ジアミノジフェニルスルホン、4, 4' -ジアミノジフェニルエーテル、3, 4' -ジアミノジフェニルエーテル、1, 5-ジアミノナフタレン、2, 6-ジアミノナフタレン、ビス(4-(4-アミノフェノキシ)フェニル)メタン、1, 1-ビス(4-(4-アミノフェノキシ)フェニル)エタン、1, 2-ビス(4-(4-アミノフェノキシ)フェニル)エタン、1, 1-ビス[4-(4-アミノフェノキシ)フェニル]プロパン、2, 2-ビス[4-(4-アミノフェノキシ)フェニル]プロパン、2, 2-ビス(4-(4-アミノフェノキシ)フェニル)ブタン、4, 4' -ビス(4-アミノフェノキシ)ジフェニルケトン、ビス(4-(4-アミノフェノキシ)フェニル)スルホン、ビス(4-(4-アミノフェノキシ)フェニル)スルフイド、1, 3-ビス(4-(4-アミノフェノキシ)フェニル)ベンゼン、1, 4-ビス(4-(4-アミノフェノキシ)フェニル)ベンゼン、4, 4' -ビス(4-(4-アミノフェノキシ)フェニル)ベンゼン、4, 4' -ビス(4-(4-アミノフェノキシ)フェニル)ビフェニル、1, 2-ビス(4-(4-アミノフェノキシ)フェニル)シクロヘキサン、1, 3-ビス(4-(4-アミノフェノキシ)フェニル)シクロヘキサン、1, 4-ビス(4-(4-アミノフェノキシ)フェニル)シクロヘキサン、ビス(4-(4-アミノフェノキシ)フェニル)ヘキサフルオロプロパン、2, 2-ビス(4-(2-アミノフェノキシ)フェニル)ヘキサフルオロプロパン、2, 2-ビス(4-(3-アミノフェノキシ)フェニル)ヘキサフルオロプロ

ニルメチル) フェニル) エタン、 ビス- ((4-(3-アミノフェニルメチル) フェニル) メタン、 ビス- ((4-(3-アミノフェニルメチル) フェニル) エタン、 2, 2-ビス- ((4-(4-アミノフェニルメチル) フェニル) プロパンおよび2, 2-ビス- ((4-(3-アミノフェニルメチル) フェニル) プロパンなどである。

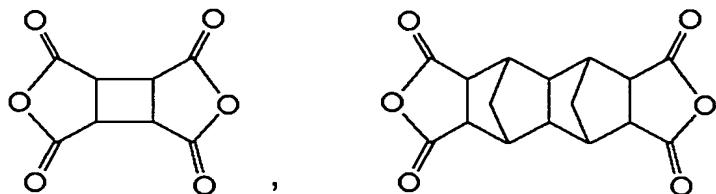
【0115】

上記のジアミンには異性体が存在するものもあるが、 それらを含む混合物であってもよい。 2つ以上のジアミンを併用してもよい。 2つ以上のジアミンを用いるときには、 上記の同じ種類から2つ以上を選択してもよいし、 異なる種類からそれぞれ少なくとも1つを選択してもよい。 なお、 本発明に使用するジアミンは、 上記の例示化合物に限定されない。

【0116】

テトラカルボン酸二無水物は、 脂肪族系、 脂環式系、 芳香族系のいずれの群に属するものであってもよい。 これらはシロキサン基を含むものであっても光学活性であってもよい。 このうち脂肪族テトラカルボン酸二無水物の例は、 エタンテトラカルボン酸二無水物、 ブタンテトラカルボン酸二無水物などである。 脂環式系テトラカルボン酸二無水物の例は、 シクロブタンテトラカルボン酸二無水物、 シクロペンタンテトラカルボン酸二無水物、 ビシクロヘプタンテトラカルボン酸二無水物、 ビシクロオクタンテトラカルボン酸二無水物、 ビシクロ [2. 2. 2] -オクト-7-エン-2, 3, 5, 6-テトラカルボン酸二無水物、 シクロヘキサン-1, 2, 5, 6-テトラカルボン酸二無水物、 3, 4-ジカルボキシ-1, 2, 3, 4-テトラヒドロナフタレン-1-琥珀酸二無水物、 3, 3' -ビシクロヘキシル-1, 1', 2, 2' -テトラカルボン酸二無水物、 2, 3, 5-トリカルボキシシクロペンチル酢酸二無水物、 5-(2, 5-ジオキソテトラヒドロフラル)-3-メチル-3-シクロヘキセン-1, 2-ジカルボン酸二無水物、 1, 3, 3a, 4, 5, 9b-ヘキサヒドロ-5-テトラヒドロ-2, 5-ジオキソ-3-フラニル)-ナフト [1, 2-c] -フラン-1, 3-ジオン、 3, 5, 6-トリカルボキシノルボルナン-2-酢酸二無水物、 2, 3, 4, 5-テトラヒドロフランテトラカルボン酸二無水物、 テトラシクロ [6. 2. 1

1, 3, 02, 7] ドデカン-4, 5, 9, 10-テトラカルボン酸二無水物などである。更に、下記の構造式で示される酸二無水物を挙げることができる。これらの化合物においては、任意の水素がメチル、エチルなどの低級アルキルで置き換えられてもよい。



【0117】

芳香族テトラカルボン酸二無水物の例は、ピロメリット酸二無水物、3, 3', 4, 4' -ベンゾフェノンテトラカルボン酸二無水物、ナフタレン酸二無水物(2, 3, 6, 7-ナフタレン酸無水物等)、3, 3' - 4, 4' -ジフェニルメタンテトラカルボン酸二無水物、3, 3' - 4, 4' -ジフェニルエタンテトラカルボン酸二無水物、3, 3' - 4, 4' -ジフェニルプロパンテトラカルボン酸二無水物、3, 3' - 4, 4' -ジフェニルスルホンテトラカルボン酸二無水物、3, 3', 4, 4' -ジフェニルエーテルテトラカルボン酸二無水物、3, 3', 4, 4' -ジメチルジフェニルシランテトラカルボン酸二無水物、4, 4' -ビス(3, 4-ジカルボキシフェノキシ)ジフェニルスルフィド二無水物、4, 4' -ビス(3, 4-ジカルボキシフェノキシ)ジフェニルスルホン二無水物、4, 4' -ビス(3, 4-ジカルボキシフェニルメチル)ジフェニルメタン二無水物、4, 4' -ビス(3, 4-ジカルボキシフェニルメチル)ジフェニルエタン二無水物、4, 4' -ビス(3, 4-ジカルボキシフェニルメチル)ジフェニルプロパン二無水物、4, 4' -ビス(3, 4-ジカルボキシフェノキシ)ジフェニルメタン二無水物、4, 4' -ビス(3, 4-ジカルボキシフェノキシ)ジフェニルエタン二無水物、4, 4' -ビス(3, 4-ジカルボキシフェノキシ)ジフェニルプロパン二無水物、3, 3', 4, 4' -パーフルオロプロピリデンジフタル酸二無水物、3, 3', 4, 4' -ビフェニルテトラカルボン酸二無水物、ビス(フタル酸)フェニルスルフィンオキサイド二無水物、p-フェ

ニレンービス（トリフェニルフタル酸）二無水物、m-フェニレンービス（トリフェニルフタル酸）二無水物、ビス（トリフェニルフタル酸）-4, 4'-ジフェニルエーテル二無水物およびビス（トリフェニルフタル酸）-4, 4'-ジフェニルメタン二無水物などである。

【0118】

上記の各種テトラカルボン酸二無水物には異性体が存在するものもあるが、それらを含む混合物であってもよい。2つ以上のテトラカルボン酸二無水物を併用してもよい。2つ以上のテトラカルボン酸二無水物を用いるときには、上記の同じ種類から2つ以上を選択してもよいし、異なる種類からそれぞれ少なくとも1つを選択してもよい。なお、本発明に使用するテトラカルボン酸二無水物は、上記の例示化合物に限定されるものではない。

【0119】

トリカルボン酸は、脂肪族系、脂環式系、芳香族系のいずれの群に属するものであってもよく、またこれらはシロキサン基を含むものであっても光学活性であってもよい。トリカルボン酸の例は、トリメリット酸、トリメシン酸、ヘミメリット酸、プロパントリカルボン酸、シクロヘキサントリカルボン酸などである。これらのトリカルボン酸は、モノエステル、ジエステル、トリエステル、酸モノハライド、酸ジハライド、酸トリハライド、または2つのカルボキシル基が酸無水物化されたものであってもよい。モノエステル酸ジハライド、ジエステル酸モノハライド、または2つのカルボキシル基が酸無水物化され、残りのカルボキシル基がエステル化されるかもしくは酸ハライドである構造の化合物でもよい。これらの化合物には異性体が存在するものもあるが、それらを含む混合物であってもよい。2つ以上のトリカルボン酸を併用してもよい。2つ以上のトリカルボン酸を用いるときには、上記の同じ種類から2つ以上を選択してもよいし、異なる種類からそれぞれ少なくとも1つを選択してもよい。なお、本発明に使用するトリカルボン酸類は、上記の例示化合物に限定されない。

【0120】

なお、上記のジカルボン酸、トリカルボン酸およびテトラカルボン酸は、これらの2種または3種を組み合わせて用いてもよい。即ち、このような組み合わせ

の例は、ジカルボン酸およびトリカルボン酸のそれぞれ少なくとも1つからなる組み合わせ、ジカルボン酸およびテトラカルボン酸のそれぞれ少なくとも1つからなる組み合わせ、トリカルボン酸およびテトラカルボン酸のそれぞれ少なくとも1つからなる組み合わせ、並びにジカルボン酸、トリカルボン酸およびテトラカルボン酸のそれぞれ少なくとも1つからなる組み合わせである。

【0121】

ビニル系単量体としては、オレフィン、ハロゲン化ビニル、ビニルエステル、芳香族ビニル系単量体、スチレン誘導体、ビニルエーテル、アルキルビニルケトン、ジエン、(メタ)アクリレート、イタコネート、 α 、 β -ビニルナフタレン、N-ビニルアセトアミドなどを挙げることができる。これらはシロキサン基を含むものであっても光学活性であってもよい。

【0122】

オレフィンの例は、エチレン、プロピレン、イソブテンなどである。ハロゲン化ビニルの例は、塩化ビニル、フッ化ビニルなどである。ビニルエステルの例は、酢酸ビニル、ピバリン酸ビニル、2,2-ジメチルブタン酸ビニル、2,2-ジメチルペンタン酸ビニル、2-メチル-2-ブタン酸ビニル、プロピオン酸ビニル、ステアリン酸ビニル、2-エチル-2-メチルブタン酸ビニルなどである。芳香族ビニル系単量体の例は、p-t-ブチル安息香酸ビニル、N,N-ジメチルアミノ安息香酸ビニル、安息香酸ビニルなどである。スチレン誘導体の例は、スチレン、o-クロロスチレン、m-クロロスチレン、p-クロロスチレン、o-クロロメチルスチレン、m-クロロメチルスチレン、p-クロロメチルスチレン、 α -メチルスチレンなどである。

【0123】

ビニルエーテルの例は、エチルビニルエーテル、ヒドロキシブチルビニルエーテル、t-アミルビニルエーテル、シクロヘキサンジメタノールメチルビニルエーテルなどである。アルキルビニルケトンの例は、メチルビニルケトン、イソブチルビニルケトンなどである。ジエンの例は、ブタジエン、イソプレンなどである。(メタ)アクリレートの例は、メチル(メタ)アクリレート、エチル(メタ)アクリレート、ブチル(メタ)アクリレート、2-エチルヘキシル(メタ)ア

クリレート、フェニル（メタ）アクリレートなどである。イタコネートの例は、ジメチルイタコネート、ジエチルイタコネート、ジブチルイタコネート、ジイソプロピルイタコネートなどである。なお、（メタ）アクリレートはアクリレートおよびメタクリレートの総称である。

【0124】

上記の各種ビニル系单量体には異性体が存在するものもあるが、それらを含む混合物であってもよい。また、2種以上の化合物を併用してもよい。なお、本発明に使用するビニル系单量体は、上記の例示化合物に限定されるものではない。

【0125】

フマル酸ジエステルは、シロキサン基を含むものであっても光学活性であってもよい。フマル酸ジエステルの例は、フマル酸ジエチル、フマル酸ジイソプロピル、フマル酸ジブチル、フマル酸ジシクロヘキシル、フマル酸ジ（1-フェニル-2-プロピル）、フマル酸ジsec-ブチル、フマル酸ジt-ブチル、フマル酸ジ2-エチルヘキシル、フマル酸（イソプロピル）（エチル）、フマル酸（イソプロピル）（プロピル）、フマル酸（イソプロピル）（ブチル）、フマル酸（イソプロピル）（sec-ブチル）、フマル酸（イソプロピル）（t-ブチル）、フマル酸（イソプロピル）（イソアミル）、フマル酸（イソプロピル）（sec-アミル）、フマル酸（イソプロピル）（sec-ヘキシル）、フマル酸（イソプロピル）（4-メチル-2-ペンチル）、フマル酸（イソプロピル）（2-エチルヘキシル）、フマル酸（イソプロピル）（オクチル）、フマル酸（イソプロピル）（シクロヘキシル）、フマル酸（イソプロピル）（ノニル）、フマル酸（t-ブチル）（sec-ブチル）、フマル酸（t-ブチル）（シクロヘキシル）、フマル酸（t-ブチル）（4-メチル-2-ペンチル）、フマル酸（t-ブチル）（2-エチルヘキシル）、フマル酸（イソプロピル）（シクロヘキシル）、フマル酸（イソプロピル）（シクロペンチル）、フマル酸（イソプロピル）（2-フェニル-1-エチル）、フマル酸（イソプロピル）（3-フェニルプロピル）、フマル酸（イソプロピル）（1-フェニル-2-プロピル）、フマル酸（イソプロピル）（1-フェニル-1-プロピル）、フマル酸（イソプロピル）（トリメチルシリルプロピル）、フマル酸（t-ブチル）（トリメチルシリルプロピル）、フマル酸（シクロヘキシル）（トリメチルシリル）

プロピル)、フマル酸(イソプロピル)(3-トリス(トリメチルシロキシ)シリルプロピル)、フマル酸(イソプロピル)(3-(ペンタメチルジシロキサニル)プロピル)、フマル酸(N、N-ジメチルアミノエチル)(イソプロピル)、フマル酸(t-ブチル)(1-ブトキシ-2-プロピル)、フマル酸(2-シアノエチル)(イソプロピル)、フマル酸(2-ヒドロキシエチル)(イソプロピル)、フマル酸(グリシジル)(イソプロピル)、フマル酸(イソプロピル)(ジエチルホスフオメチル)、フマル酸(2-メチルチオエチル)(イソプロピル)、フマル酸(イソプロピル)(2-(ヒドロキシエチルチオエチル)イソプロピル)、フマル酸(パーカルオロオクチルエチル)(イソプロピル)、フマル酸(トリカルオロメチル)(イソプロピル)、フマル酸(ペンタカルオロエチル)(イソプロピル)、フマル酸(ヘキサカルオロイソプロピル)(イソプロピル)などである。

【0126】

上記のフマル酸ジエステルには異性体が存在するものもあるが、それらを含む混合物であってもよい。また、2種以上の化合物を併用してもよい。なお、本発明に使用するフマル酸ジエステルは、上記の例示化合物に限定されない。

【0127】

重合体(1)の被膜形成能をより高めるために、多官能アクリレートを添加することもできる。多官能アクリレートは、シロキサン基を含むものであっても光学活性であってもよい。多官能アクリレートの好ましい例は、1,4-ブタジオールジアクリレート、1,6-ヘキサンジオールジアクリレート、1,9-ノナンジオールジアクリレート、ネオペンチルグリコールジアクリレート、トリエチレングリコールジアクリレート、ジプロピレングリコールジアクリレート、トリプロピレングリコールジアクリレート、テトラエチレングリコールジアクリレート、トリメチロールプロパントリアクリレート、トリメチロールEO付加トリアクリレート、ペンタエリストールトリアクリレート、トリスアクリロイルオキシエチルフェスフェート、ビスフェノールAEO付加ジアクリレート、ビスフェノールAグリジジルエーテルジアクリレート、ポリエチレングリコールジアクリレートなどである。ビスフェノールAグリジジルエーテルジアクリレートは、大阪有機化学(株)からビスコート700として市販されている。

【0128】

上記の多官能アクリレートには異性体が存在するものもあるが、それらを含む混合物であってもよい。また、2種以上の化合物を併用してもよい。なお、本発明に使用する多官能アクリレートは、上記の例示化合物に限定されない。

【0129】

マレイミド誘導体は、シロキサン基を含むものであっても光学活性であってもよい。マレイミド誘導体の例は、N-メチルマレイミド、N-エチルマレイミド、N-プロピルマレイミド、N-ブチルマレイミド、N-ペンチルマレイミド、N-ヘキシルマレイミド、N-ヘプチルマレイミド、N-オクチルマレイミド、N-ノニルマレイミド、N-デシルマレイミド、N-ウンデシルマレイミド、N-ドデシルマレイミド、N-オクタデシルマレイミド、N-イソプロピルマレイミド、N-(sec-ブチル)マレイミド、N-(t-ブチル)マレイミド、N-(1-メチルブチル)マレイミド、N-(2-メチルブチル)マレイミド、N-(3-メチルブチル)マレイミド、N-(sec-ヘキシル)マレイミド、N-(4-メチル-2-ペンチル)マレイミド、N-(sec-ヘプチル)マレイミド、N-(sec-オクチル)マレイミド、N-シクロプロピルマレイミド、N-シクロブチルマレイミド、N-シクロペンチルマレイミド、N-シクロヘキシルマレイミド、N-フェニルマレイミド、N-(2-メチルフェニル)マレイミド、N-(2-エチルフェニル)マレイミド、N-(2-イソプロピルフェニル)マレイミド、N-(2, 6-ジメチルフェニル)マレイミド、N-(2, 6-ジエチルフェニル)マレイミド、N-(2, 6-ジイソプロピルフェニル)マレイミド、N-(2, 4, 6-トリメチルフェニル)マレイミド、N-(2-クロロフェニル)マレイミド、N-(3-メチルフェニル)マレイミド、N-(3-エチルフェニル)マレイミド、N-(3-トリフルオロメチルフェニル)マレイミド、N-(3, 5-ジメチルフェニル)マレイミド、N-ベンジルマレイミド、N-(4-メチルフェニル)マレイミド、N-(4-エチルフェニル)マレイミド、N-(4-ブチルフェニル)マレイミド、N-(4-イソプロピルフェニル)マレイミド、N-(4-プロピルフェニル)マレイミド、N-(4-ペンチルフェニル)マレイミド、N-トリフルオロメチルマレイミド、N-[1-(

トリフルオロメチル) エチル] マレイミド、N-(3,3,3-トリフルオロプロピル) マレイミド、N-ヘキサフルオロイソプロピルマレイミド、N-パーフルオロイソプロピルマレイミド、N-パーフルオロブチルエチルマレイミド、N-パーフルオロオクチルエチルマレイミド、N-(2-クロロエチル) マレイミド、N-(1-ブトキシ-2-プロピル) マレイミド、N-(メトキシエチル) マレイミド、N-(トリメチルシリル) マレイミド、N-(t-ブチルジメチルシリル) マレイミド、N-(ジメチルトキシシリル) マレイミド、N-(2-シアノエチル) マレイミド、N-(2-ヒドロキシエチル) マレイミド、N-(3-ヒドロキシプロピル) マレイミド、N-(4-ヒドロキシブチル) マレイミド、N-(5-ヒドロキシペンチル) マレイミド、N-(6-ヒドロキシヘキシル) マレイミド、N-(7-ヒドロキシヘプチル) マレイミド、N-(8-ヒドロキシオクチル) マレイミド、N-(9-ヒドロキシノニル) マレイミド、N-(10-ヒドロキシデシル) マレイミドなどである。

【0130】

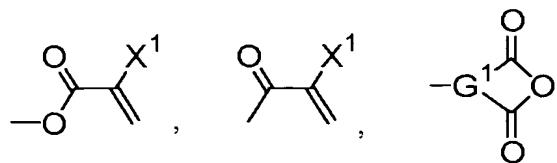
上記のマレイミド誘導体には異性体が存在するものもあるが、それらを含む混合物であってもよい。また、2種以上の化合物を併用してもよい。なお、本発明に使用するマレイミド誘導体は、上記の例示化合物に限定されない。

【0131】

付加重合性組成物に他の重合性化合物を2つ以上用いるときには、上記の付加重合性化合物の同じ種類から2つ以上を選択してもよいし、異なる種類からそれぞれ少なくとも1つを選択してもよい。

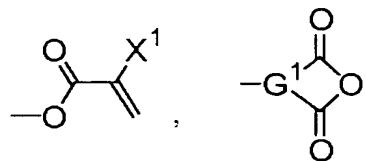
【0132】

上記の化合物(3)、付加重合性組成物または縮重合性組成物を重合させることにより、重合体(1)を得ることができる。そして、化合物(3)を用いて得られる重合体の好ましい例は、-OM¹、-CHO、-COOR⁶、-NHR⁷、-COX²、-OCOX²、-N=C=O、-CR⁴=CH₂、オキシラニル、オキセタニル、3,4-エポキシシクロヘキシルまたは下記に示される基のいずれかを有する化合物(3)を用いて得られる重合体である。



【0133】

化合物(3)を用いて得られる重合体のより好ましい例は、 $-OM^1$ 、 $-CO$
 OR^6 、 $-NHR^7$ 、 $-COX^2$ 、 $-N=C=O$ 、 $-CR^4=CH_2$ 、オキシラ
ニル、オキセタニルまたは下記に示される基のいずれかを有する化合物(3)を
用いて得られる重合体である。



【0134】

そして、化合物(3)を用いて得られる重合体の代表例は、ポリイミド、ポリ
アミド酸、ポリエステル、ポリアクリレートおよびポリメタクリレートである。
ポリアミド酸は、ジアミンである化合物(3)とテトラカルボン酸二無水物との
反応により得られる。このテトラカルボン酸二無水物は、化合物(3)であって
もよく、化合物(3)以外のテトラカルボン酸二無水物であってもよく、これら
のテトラカルボン酸二無水物の混合物であってもよい。ジアミンである化合物(3)
に、化合物(3)以外のジアミンを加えてもよい。ポリアミド酸のもう1つ
の例は、テトラカルボン酸二無水物である化合物(3)とジアミンとの反応によ
り得られる。このジアミンは、化合物(3)であってもよく、化合物(3)以外
のジアミンであってもよく、これらのジアミンの混合物であってもよい。テトラ
カルボン酸二無水物である化合物(3)に、化合物(3)以外のテトラカルボン
酸二無水物を加えてもよい。そしてポリイミドは、これらのポリアミド酸を脱水
閉環させることによって得られる。

【0135】

ポリエステルは、ジオールである化合物(3)と少なくとも2つのカルボキシ
ル、酸ハライド基、酸無水物基またはエステル基を有するカルボン酸誘導体との

反応により得られる。このカルボン酸誘導体は、化合物（3）であってもよく、化合物（3）以外のカルボン酸誘導体であってもよく、これらのカルボン酸誘導体の混合物であってもよい。ジオールである化合物（3）に、化合物（3）以外のジオールを加えてよい。ポリエステルのもう1つの例は、少なくとも2つのカルボキシル、酸ハライド基またはエステル基を有するカルボン酸誘導体である化合物（3）とジオールとの反応により得られる。このジオールは、化合物（3）であってもよく、化合物（3）以外のジオールであってもよく、これらのジオールの混合物であってもよい。カルボン酸誘導体である化合物（3）に、化合物（3）以外のカルボン酸誘導体を加えてよい。

【0136】

ポリアクリレートの例は、アクリレート基を有する化合物（3）の単独重合体、この化合物（3）の少なくとも2つから得られる共重合体、この化合物（3）の少なくとも1つとメタクリレート基を有する化合物（3）の少なくとも1つとの共重合体、この化合物（3）の少なくとも1つとアクリレート基もしくはメタクリレート基を有する化合物（3）以外の化合物の少なくとも1つとの共重合体、並びにこの化合物（3）の少なくとも1つ、メタクリレート基を有する化合物（3）の少なくとも1つおよびアクリレート基もしくはメタクリレート基を有する化合物（3）以外の化合物の少なくとも1つの共重合体である。ポリメタクリレートの例は、メタクリレート基を有する化合物（3）の単独重合体、この化合物（3）の少なくとも2つから得られる共重合体、この化合物（3）の少なくとも1つとアクリレート基を有する化合物（3）の少なくとも1つとの共重合体、この化合物（3）の少なくとも1つとアクリレート基もしくはメタクリレート基を有する化合物（3）以外の化合物の少なくとも1つとの共重合体、並びにこの化合物（3）の少なくとも1つ、アクリレート基を有する化合物（3）の少なくとも1つおよびアクリレート基もしくはメタクリレート基を有する化合物（3）以外の化合物の少なくとも1つの共重合体である。

【0137】

重合体（1）および化合物（3）は、通常使用される条件下において物理的および化学的に極めて安定であり、他の重合体および化合物との相溶性がよいこと

を特徴とする。化合物（3）を構成する環、結合基または側鎖を適当に選ぶことによって重合体（1）の構造を適切に選択することができるので、最適な透明性、屈折率、機械的強度、塗布性、溶解度、結晶化度、収縮性、透水度、吸水度、気体透過性、融点、ガラス転移点、耐熱性、熱膨張係数、撥水性、電気絶縁性、相溶性、耐薬品性を持つ重合体を製造することができる。

【0138】

重合体（1）、化合物（3）またはこれらを含む組成物は、通常、一般的な高分子材料の成形体製造に用いる方法により、薄膜、多層膜、フィルム、繊維、粉末、ペースト、その他成形体に成形することができる。このとき、安定剤（紫外線安定剤、熱安定剤、酸化防止剤など）、充填剤、滑剤、可塑剤、着色剤、難燃剤、発泡剤、耐電防止剤、顔料などを混合することもできる。

【0139】

例えば、本発明の重合体（1）を溶剤に均一に溶解して基板上にキャストし、加熱して溶剤を蒸散させることで1～100μmの均一なフィルムを得ることができる。このようなキャスティング法でフィルムを形成する場合に用いる基板としては、高分子フィルム、ガラス板、シリコンゴム板、金属板などを挙げることができる。また、所定の厚みの基板を得るときは、キャストを繰り返して目的の膜厚になるように積層した後、加熱して溶剤を蒸散させればよく、これにより目的の膜厚の基板を作成することができる。この時、必要に応じて加熱加圧プレスすることもできる。

【0140】

さらに、フィルム間および／または最外層に金、銅、アルミニウムなどの金属導体層を積層することで多層基板を得ることができる。この場合も金属導体フィルムと重ね合わせ、上記と同様に加熱して溶剤を蒸散させることで金属導体フィルムとの密着性が良好なものが得られる。金属導体層はエッチングにより回路形成することにより得られる。また、真空蒸着法、スクリーン印刷法などによって形成することもできる。

【0141】

キャスティング法において使用することのできる溶剤としては、ベンゼン、ト

ルエンなどの芳香族炭化水素系溶剤、メチルエチルケトン、メチルイソブチルケトン、シクロヘキサンなどのケトン系溶剤、テトラヒドロフラン、クロロホルム、N-メチル-2-ピロリドン、N, N-ジメチルホルムアミド、N, N-ジメチルアセトアミド、N, N-ジメチルアセトアミドジメチルアセタール、ジメチルスルホキシド、1, 4-ジオキサン、酢酸エチル、2-n-ブトキシエタノール、 γ -ブチロラクトン、トリフルオロ酢酸、トリフルオロ酢酸エチル、ヘキサフルオロー-2-プロパノールなどを挙げることができる。これらの溶剤のうち2種以上の溶剤を併用してもよい。なお、本発明に使用可能な溶剤は上記の例に限定されるものではない。

【0142】

【実施例】

以下、実施例により本発明をより詳細に説明するが、本発明はこれらの実施例には制限されない。化合物の構造は核磁気共鳴（NMR）スペクトル、質量（M S）スペクトル、赤外吸収（I R）スペクトルなどで確認した。実施例において物性測定に用いた機器および方法は下記の通りである。

＜重量平均分子量（M_w）および数平均分子量（M_n）＞

島津製作所製の島津LC-9A型ゲル浸透クロマトグラフ（G P C）、および昭和電工製のカラムShodex GF-7M HQ（展開溶媒はDMFあるいはT H F、標準物質は分子量既知のポリスチレン）を用いた。

＜鉛筆硬度＞

ガラス板上に形成させた重合体薄膜について、J I S規格「J I S-K-5 6 0 0-5-4 引っかき硬度（鉛筆法）」に準拠し、鉛筆硬度計YOSHIMI TSU SEIKI C-221を用いて測定した。

＜屈折率＞

クロム蒸着したガラス板上に形成させた重合体薄膜について測定した。アッベ屈折計ATAGO DR-M2を使用し、中間液に硫酸ヨウ化メチレン溶液を用い、測定波長589.3 nm、25°Cにおいて、反射式測定法で測定した。

＜光線透過率＞

ガラス板上に形成させた重合体薄膜について、マイクロ・カラー・アナライザ

—TC—1800M（東京電色技術センター製）を用いて測定した。

＜表面自由エネルギー＞

接触角計CA-A（協和界面化学株式会社製）を使用し、重合体薄膜上に滴下した純水（比抵抗 $18\text{ M}\Omega\cdot\text{cm}$ ）およびエチレングリコールの接触角を、25°Cにおいて測定し、算出した。

＜熱分解開始温度、5%重量減少温度および10%重量減少温度＞

ガラス板上に形成させた重合体薄膜を削り取って試料とした。SEIKO S SC5000 TG/DTA 300を使用し、空気雰囲気中で、10°C/分で30°Cから800°Cに昇温して重量変化を測定し、得られた変曲点から求めた。なお、実施例で用いる記号の意味は次の通りである。

Ph：フェニル

Me：メチル

TMS：トリメチルシリル基

HMD S：ヘキサメチルジシラザン

THF：テトラヒドロフラン

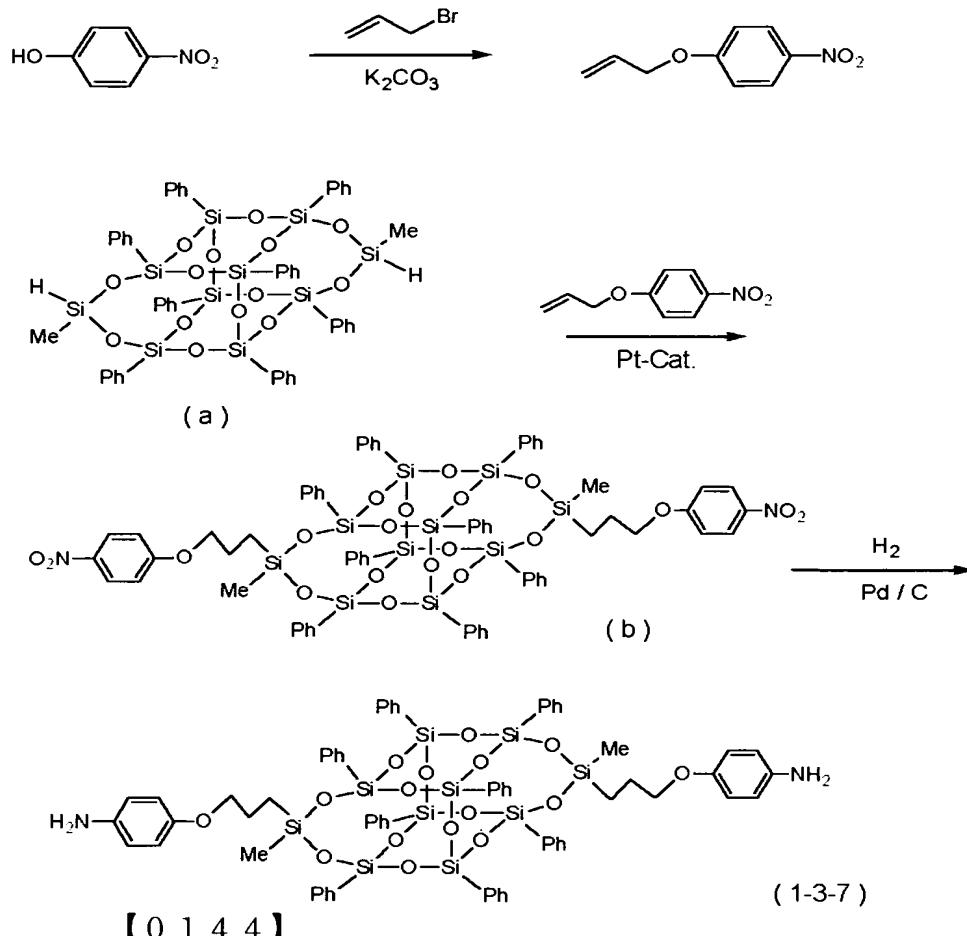
NMP：N-メチル-2-ピロリドン

【0143】

実施例1

＜化合物（1-3-7）の製造＞

下記の経路により化合物（1-3-7）を製造した。



【0144】

第1段：アリル-p-ニトロフェニルエーテルの製造

窒素雰囲気下、p-ニトロフェノール（25.0 g、0.18 mol）のN, N-ジメチルホルムアミド（250 ml）溶液に炭酸カリウム（49.7 g、0.36 mol）を加えて懸濁し、3-ブロモプロペングリセリン（21.7 g、0.18 mol）を滴下した。滴下終了後、室温で5時間攪拌した後、水を加えてジエチルエーテルで抽出した。有機層を水洗した後、無水硫酸マグネシウムで乾燥した。減圧下で溶媒を溜去して得られた残渣を、シリカゲルカラムクロマトグラフィー（溶出溶媒：トルエン）で精製した。減圧下でトルエンを溜去した後、エタノールから再結晶してアリル-p-ニトロフェノール（25.7 g）を得た。

【0145】

第2段：化合物（b）の製造

窒素雰囲気下、化合物（a）（50.0 g、43.3 mmol）にトルエン（500 ml）を加えて懸濁し、白金-ジビニルシロキサン錯体（3 wt % トルエン

溶液、 $25\mu\text{l}$ ）を加えて 90°C に加熱した。これにアリル-*p*-ニトロフェニルエーテル（16.3 g、91 mmol）を5分かけて滴下し、還流状態で2時間加熱した。放冷後、トルエン（100 ml）を加えて抽出した。有機層を水洗した後、無水硫酸マグネシウムで乾燥した。減圧下でトルエンを溜去して、得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（溶出溶媒：トルエン）で精製した。減圧下でトルエンを溜去した後、エタノール／酢酸エチルから再結晶して化合物（b）18.7 gを得た。

$^1\text{H-NMR}$ （溶媒：CDCl₃）： δ (ppm)；0.34 (s, 6 H)、0.85-0.88 (t, 4 H)、1.92-1.95 (m, 4 H)、3.85-3.88 (t, 4 H)、6.60-6.63 (d, 4 H)、7.15-7.52 (m, 40 H)、7.94-7.97 (d, 4 H)。

$^{29}\text{Si-NMR}$ （溶媒：CDCl₃）： δ (ppm)；-17.8 (d, 2 Si)、-78.5 (s, 4 Si)、-79.4 (t, 4 Si)。

【0146】

第3段：化合物（1-3-7）の製造

化合物（b）（10.0 g、6.61 mmol）、Pd/C（1 g）、およびTHF（100 ml）の混合物を水素雰囲気下、室温で120時間攪拌した。Pd/Cをろ別後、減圧下でTHFを溜去した。得られた残渣をシリカゲルカラムクロマトグラフィー（溶出溶媒：酢酸エチル）で精製した。減圧下で酢酸エチルを溜去して化合物（1-3-7）6.3 gを得た。

$^1\text{H-NMR}$ （溶媒：CDCl₃）： δ (ppm)；0.31 (s, 6 H)、0.83-0.87 (t, 4 H)、1.82-1.87 (m, 4 H)、3.71-3.74 (t, 4 H)、6.51-6.57 (d, 8 H)、7.14-7.95 (m, 40 H)。

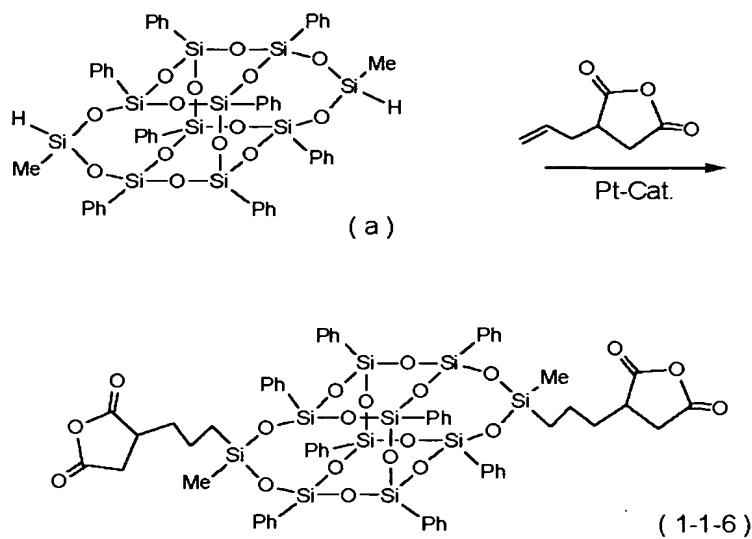
$^{29}\text{Si-NMR}$ （溶媒：CDCl₃）： δ (ppm)；-17.5 (d, 2 Si)、-78.6 (s, 4 Si)、-79.6 (t, 4 Si)。

【0147】

実施例2

＜化合物（1-1-6）の製造＞

下記の経路により化合物（1-1-6）を製造した。



【0148】

窒素雰囲気下、化合物（a）（50.0 g、43.3 mmol）にTHF（150 ml）を加えて懸濁し、白金－ジビニルシロキサン錯体（3 wt % トルエン溶液、320 μ l）を加えて90℃に加熱した。これにアリルコハク酸無水物（14.5 g、103.5 mmol）を5分かけて滴下し、還流状態で7時間加熱した。放冷後、減圧下で溶媒を溜去してから、得られた残渣にメタノール（150 ml）を加えて、室温で2時間攪拌した。固体をろ取してTHF（150 ml）に溶解し、活性炭（6 g）を加えて室温で2時間攪拌した。活性炭をろ別後、減圧下でTHFを溜去して、化合物（1-1-6）55.9 gを得た。

¹H-NMR（溶媒：CDCl₃）： δ (ppm)；0.32 (s, 6 H)、0.70-0.79 (t, 4 H)、1.32-1.42 (m, 6 H)、1.74-1.80 (m, 2 H)、1.89-1.99 (m, 2 H)、2.24-2.37 (m, 2 H)、2.51-2.60 (m, 2 H)、7.15-7.56 (m, 40 H)。

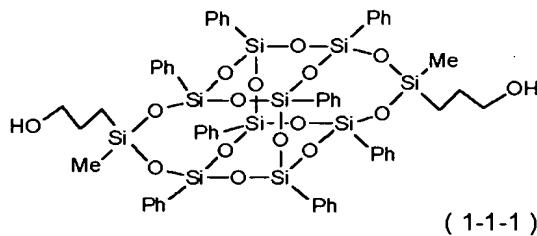
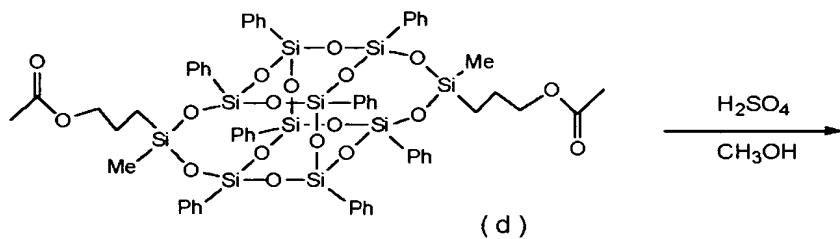
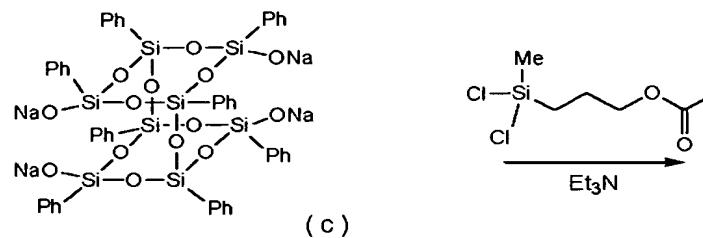
²⁹Si-NMR（溶媒：CDCl₃）： δ (ppm)；-18.1 (d, 2 Si)、-78.5 (s, 4 Si)、-79.4--79.8 (t, 4 Si)。

【0149】

実施例3

<化合物 (1-1-1) の製造>

下記の経路により化合物 (1-1-1) を製造した。



【0150】

第1段：化合物 (d) の製造

窒素雰囲気下、化合物 (c) (11.6 g、10 mmol)、トリエチルアミン (2.5 g、25 mmol)、およびTHF (200 mL) の混合物に、3-アセトキシプロピルメチルジクロロシラン (5.4 g、25 mmol) を加えて室温で3時間攪拌した。トルエン (200 mL)、および水 (100 mL) を加えて攪拌し、有機層を水洗した後、無水硫酸マグネシウムで乾燥した。トルエンを減圧溜去して得られた残渣をメタノールで洗浄し、エタノール／酢酸エチル (100 mL) から再結晶して化合物 (d) 6.51 gを得た。

¹H-NMR (溶媒: CDCl₃) : δ (ppm) ; 0.31 (s, 6 H)、0.72-0.75 (t, 4 H)、1.70-1.74 (m, 4 H)、1.88 (s, 6 H)、3.91-3.94 (t, 4 H)、7.18-7.52 (m, 40

H) .

^{29}Si -NMR (溶媒: CDCl_3) : δ (ppm) ; -17.8 (d, 2S i)、-78.4 (s, 4Si)、-79.3 (t, 4Si) .

【0151】

第2段：化合物（1-1-1）の製造

窒素雰囲気下、化合物（d）（9.0g、6.85mmol）、およびメタノール（1,500ml）の混合物に濃硫酸（3ml）を加えて、還流状態で3時間加熱した。放冷後、メタノールを減圧溜去して、得られた残渣にクロロホルム（200ml）および水（100ml）を加えて攪拌し、有機層を水洗した。無水硫酸マグネシウムで乾燥後、クロロホルムを減圧溜去した。得られた残渣をメタノールで洗浄して化合物（1-1-1）5.00gを得た。

^1H -NMR (溶媒: CDCl_3) : δ (ppm) ; 0.31 (s, 6H)、0.71-0.75 (t, 4H)、1.60-1.66 (m, 4H)、3.45-3.48 (t, 4H)、7.18-7.54 (m, 40H) .

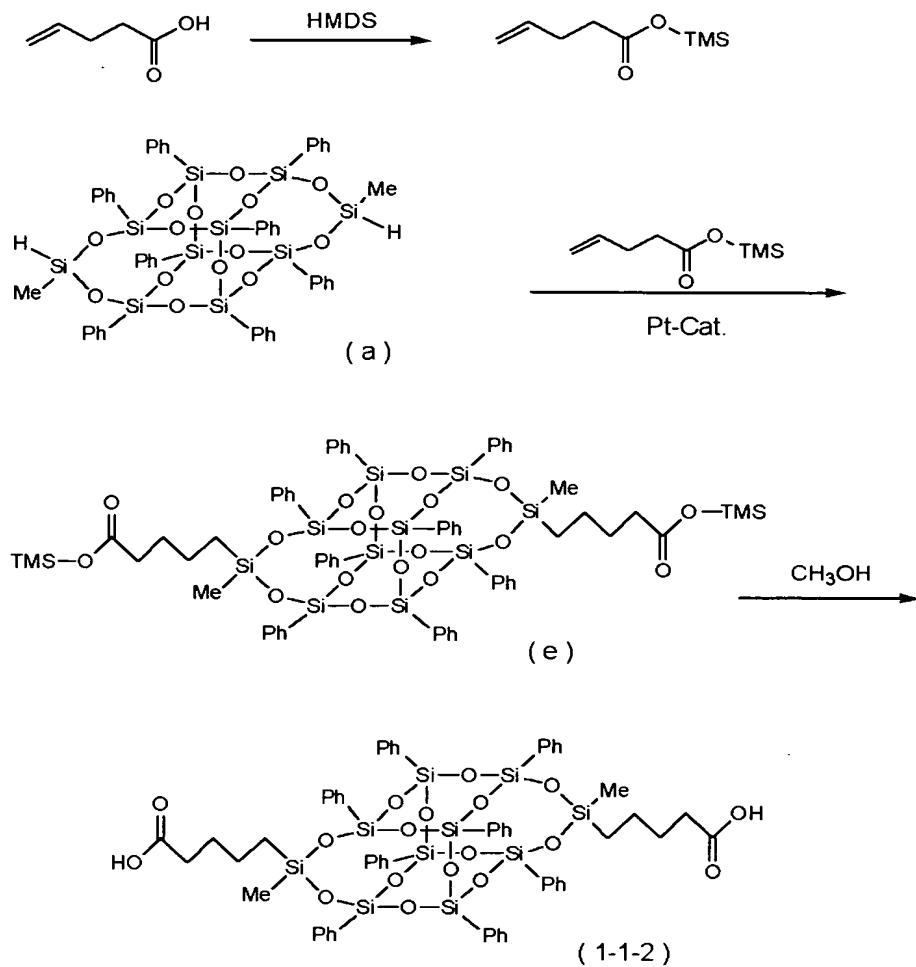
^{29}Si -NMR (溶媒: CDCl_3) : δ (ppm) ; -17.4 (d, 2S i)、-78.5 (s, 4Si)、-79.5 (t, 4Si) .

【0152】

実施例4

＜化合物（1-1-2）の製造＞

下記の経路により化合物（1-1-2）を製造した。



【0153】

第1段：4-ペントン酸トリメチルシリルの製造

窒素雰囲気下、HMDS (88.6 g, 0.55 mol) およびTHF (21.5 g) の混合物を80°Cに加熱し、4-ペントン酸 (100 g, 1 mol) のトルエン (50 g) 溶液を滴下した。滴下後、100°Cで2時間攪拌し、減圧蒸留して4-ペントン酸トリメチルシリル (130.2 g) を得た。この化合物の沸点は83~84°C/77.1 hPaであった。

【0154】

第2段：化合物 (e) の製造

窒素雰囲気下、化合物 (a) (100.0 g, 86.7 mmol) にトルエン (1,000 ml) を加えて懸濁させ、白金-ジビニルシロキサン錯体 (3 wt % トルエン溶液、50 μl) を加えて90°Cに加熱した。4-ペントン酸トリメチルシリル (31.4 g, 182 mmol) を滴下し、還流状態で5時間加熱し

た。放冷後、減圧下でトルエンを溜去し、粗製の化合物（e）（92.9 g）を得た。

【0155】

第3段：化合物（1-1-2）の製造

粗製の化合物（e）（92.9 g、61.8 mmol）にメタノール（1, 000 ml）を加えて懸濁させ、室温で3時間攪拌した。この懸濁物からろ取した固体をメタノール／トルエンに溶解し、活性炭（2.7 g）を加えて室温で2時間攪拌した。活性炭をろ別後、減圧下で溶媒を溜去した。残渣をエタノール／酢酸エチルから再結晶して、化合物（1-1-2）75.0 gを得た。

¹H-NMR（溶媒：CDCl₃）：δ（ppm）；0.28（s, 6H）、0.72-0.75（t, 4H）、1.40-1.43（m, 4H）、1.53-1.56（m, 4H）、2.08-2.11（t, 4H）、7.18-7.53（m, 40H）。

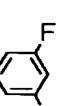
²⁹Si-NMR（溶媒：CDCl₃）：δ（ppm）；-17.7（d, 2Si）、-78.6（s, 4Si）、-79.6（t, 4Si）。

【0156】

実施例1～4の方法に準じて、下記の表1～表19に示す化合物を製造する。表中のR1、Q1、Q3およびY1の意味は前記の通りである。

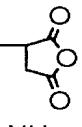
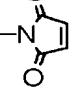
【0157】

＜表1＞

化合物番号	R ¹	Q ¹	Q ³	Y ¹
1-1-1		—CH ₃	Q ³ -1-1	—OH
1-1-2		—CH ₃	Q ³ -1-2	—COOH
1-1-3		—CH ₃	Q ³ -1-1	—OCOCH=CH ₂
1-1-4		—CH ₃	Q ³ -1-3	
1-1-5			Q ³ -1-4	—Br
1-1-6		—CH ₃	Q ³ -1-1	
1-1-7		—CH ₃	Q ³ -1-5	—NH ₂
1-2-1			Q ³ -2-1	—COOH
1-2-2		—CH ₃	Q ³ -2-2	—OH
1-2-3		—C ₂ H ₅	Q ³ -2-3	—Cl
1-2-4		—C ₂ H ₅	Q ³ -2-4	—OH
1-2-5			Q ³ -2-5 —CH=CHCOOCH(CH ₃) ₂	
1-2-6		—OCH ₃	Q ³ -2-6	—OCOC(CF ₃)=CH ₂
1-2-7		—CH ₂ CH=CH ₂	Q ³ -2-7	—CHO
1-2-8		—C ₂ H ₅	Q ³ -2-8	—COOH
1-2-9		—OCH ₃	Q ³ -2-9	—COCl
1-2-10		—CH(CH ₃) ₂	Q ³ -2-10	

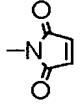
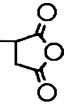
【0158】

<表2>

化合物番号	R ¹	Q ¹	Q ³	Y ¹
1-3-1		-CH ₃	Q ³ -3-1	-OH
1-3-2			Q ³ -3-2	-NH ₂
1-3-3		-CH ₃	Q ³ -3-1	-COOH
1-3-4		-CH(CH ₃) ₂	Q ³ -3-2	-OCOC(CH)=CH ₂
1-3-5			Q ³ -3-4	-Br
1-3-6		-CH ₃	Q ³ -3-5	
1-3-7		-CH ₃	Q ³ -3-2	-NH ₂
1-3-8			Q ³ -3-6	-COOH
1-3-9		-CH ₃	Q ³ -3-7	-OH
1-3-10		-C ₂ H ₅	Q ³ -3-8	
1-3-11		-C ₃ H ₇	Q ³ -3-8	-OCOCH=CH ₂
1-3-12		-CH(CH ₃) ₂	Q ³ -3-9	-OCOC(F)=CH ₂
1-3-13			Q ³ -3-9	-OCH=CH ₂
1-3-14		-OCH ₃	Q ³ -3-10	-Cl
1-4-1		-CH ₂ CH=CH ₂	Q ³ -4-1	-CHO
1-4-2		-C ₂ H ₅	Q ³ -4-1	-OH
1-4-3		-OCH ₃	Q ³ -4-1	-COOCH ₃

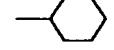
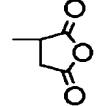
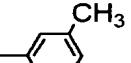
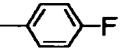
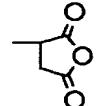
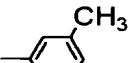
【0159】

<表3>

化合物番号	R ¹	Q ¹	Q ³	Y ¹
1-4-4		—CH ₃	Q ³ -4-2	—OH
1-4-5			Q ³ -4-3	—COCH=CH ₂
1-4-6		—CH ₃	Q ³ -4-4	—OH
1-4-7		—CH(CH ₃) ₂	Q ³ -4-5	—Br
1-5-1			Q ³ -5-1	—OH
1-5-2		—CH ₃	Q ³ -5-1	—COOH
1-5-3		—CH ₃	Q ³ -5-1	—NH ₂
1-5-4			Q ³ -5-2	
1-5-5		—CH ₃	Q ³ -5-3	
1-5-6		—C ₂ H ₅	Q ³ -5-4	—COOCH ₃
1-5-7			Q ³ -5-5	
1-5-8		—CH(CH ₃) ₂	Q ³ -5-6	—OCOC(F)=CH ₂
1-5-9		—OCH ₃	Q ³ -5-6	OH
1-5-10		—CH ₂ CH=CH ₂	Q ³ -5-7	—OCH=CH ₂
1-5-11		—C ₂ H ₅	Q ³ -5-8	—COOH
1-5-12		—OCH ₃	Q ³ -5-9	—OH
1-5-13		—C ₄ H ₉	Q ³ -5-10	

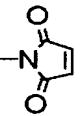
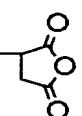
【0160】

<表4>

化合物番号	R ¹	Q ¹	Q ³	Y ¹
1-6-1		-CH(CH ₃) ₂	Q ³ -6-1	-OH
1-6-2			Q ³ -6-2	-COOH
1-6-3		-CH ₃	Q ³ -6-3	-OH
1-6-4		-OCH ₃	Q ³ -6-4	-Cl
1-6-5			Q ³ -6-5	-SH
1-7-1		-CH ₃	Q ³ -7-1	-COOH
1-7-2			Q ³ -7-1	-NH ₂
1-7-3			Q ³ -7-2	-OCOC(CH)=CH ₂
1-7-4		-CH ₃	Q ³ -7-3	
1-7-5		-C ₂ H ₅	Q ³ -7-4	-COCl
1-7-6			Q ³ -7-5	-OH
1-8-1		-OCH ₃	Q ³ -8-1	-OH
1-8-2		-CH ₂ CH=CH ₂	Q ³ -8-2	
1-8-3		-C ₂ H ₅	Q ³ -8-3	-OH
1-8-4		-C ₂ H ₅	Q ³ -8-4	-Br

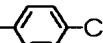
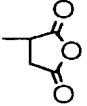
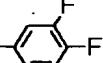
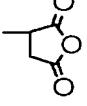
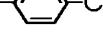
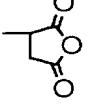
【0161】

<表5>

化合物番号	R ¹	Q ¹	Q ³	Y ¹
1-8-5		-C ₂ H ₅	Q ³ -8-5	-OH
1-9-1			Q ³ -9-1	-OH
1-9-2		-CH ₃	Q ³ -9-1	-COOH
1-9-3		-CH(CH ₃) ₂	Q ³ -9-2	-NH ₂
1-9-4			Q ³ -9-3	-OH
1-9-5		-CH ₃	Q ³ -9-4	
1-9-6			Q ³ -9-4	
1-9-7			Q ³ -9-5	-COOH
1-10-1		-CH ₃	Q ³ -10-1	-COOH
1-10-2		-C ₂ H ₅	Q ³ -10-1	-OH
1-10-3			Q ³ -10-2	-Br
1-10-4		-OCH ₃	Q ³ -10-3	-OH
1-10-5			Q ³ -10-4	-COOCH ₃
1-10-6		-C ₂ H ₅	Q ³ -10-5	-COCH=CH ₂
1-11-1		-C ₂ H ₅	Q ³ -11-1	-NH ₂

【0162】

<表6>

化合物番号	R ¹	Q ¹	Q ³	Y ¹
1-11-2		-CH ₃	Q ³ -11-1	-OH
1-11-3			Q ³ -11-1	-COOH
1-11-4		-C ₂ H ₅	Q ³ -11-2	
1-11-5		-Cl	Q ³ -11-3	-COCl
1-11-6			Q ³ -11-4	
1-11-7		-CH ₃	Q ³ -11-5	-OCOCH=CH ₂
1-11-8			Q ³ -11-5	-OH
1-12-1		-CH(CH ₃) ₂	Q ³ -12-1	-COOH
1-12-2			Q ³ -12-2	-OH
1-12-3			Q ³ -12-3	-COCl
1-12-4		-CH ₃	Q ³ -12-4	-OH
1-12-5		-CH=CH ₂	Q ³ -12-5	-COOH
1-13-1		-C ₃ H ₇	Q ³ -13-1	
1-13-2		-C ₂ H ₅	Q ³ -13-2	-OCH=CH ₂
1-13-3			Q ⁴ -13-3	-NH ₂

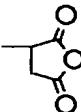
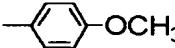
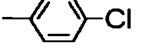
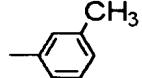
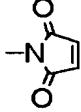
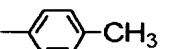
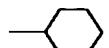
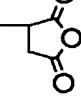
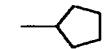
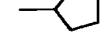
【0163】

<表7>

化合物番号	R ¹	Q ¹	Q ³	Y ¹
1-13-4		-CH ₃	Q ³ -13-4	-Br
1-13-5		-CH ₃	Q ³ -13-5	
1-14-1		-C ₃ H ₇	Q ³ -14-1	-OH
1-14-2		-H	Q ³ -14-2	-COOH
1-14-3			Q ³ -14-3	-OH
1-14-4		-CH ₃	Q ³ -14-4	-COOH
1-14-5			Q ³ -14-5	-Cl
1-15-1		-C ₂ H ₅	Q ³ -15-1	
1-15-2			Q ³ -15-2	-OCOCH=CH ₂
1-15-3		-CH(CH ₃) ₂	Q ³ -15-3	-NH ₂
1-15-4		-CH ₃	Q ³ -15-3	-COOH
1-15-5		-C ₄ H ₉	Q ³ -15-4	-OH
1-15-6			Q ³ -15-5	-OH
1-16-1		-C ₂ H ₅	Q ³ -16-1	-NH ₂
1-16-2		-CH ₃	Q ³ -16-2	-CN

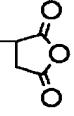
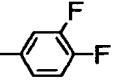
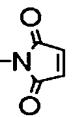
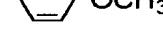
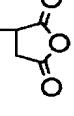
【0164】

<表8>

化合物番号	R ¹	Q ¹	Q ³	Y ¹
1-16-3		-C ₂ H ₅	Q ³ -16-3	-OH
1-16-4		-CH ₃	Q ³ -16-4	
1-16-5		-CH ₃	Q ³ -16-5	-COCl
1-17-1			Q ³ -17-1	-OH
1-17-2			Q ³ -17-1	-NH ₂
1-17-3		-C ₃ H ₇	Q ³ -17-2	-CH=CHCH=CH ₂
1-17-4			Q ³ -17-3	
1-17-5		-CH(CH ₃) ₂	Q ³ -17-4	OH
1-17-6			Q ³ -17-5	-OCOCH=CH ₂
1-18-1		-CH(CH ₃) ₂	Q ³ -18-1	-NH ₂
1-18-2			Q ³ -18-2	
1-18-3			Q ³ -18-3	-OH
1-18-4		-CH ₃	Q ³ -18-4	-COOH
1-18-5		-CH ₃	Q ³ -18-5	-CH=CH ₂
1-19-1			Q ³ -19-1	-NH ₂

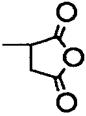
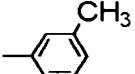
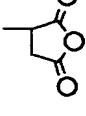
【0165】

<表9>

化合物番号	R ¹	Q ¹	Q ³	Y ¹
1-19-2			Q ³ -19-1	-OH
1-19-3		-CH=CH ₂	Q ³ -19-2	
1-19-4		-CH ₃	Q ³ -19-3	
1-19-5			Q ³ -19-4	-CHO
1-19-6		-C ₃ H ₇	Q ³ -19-5	-OH
1-20-1		-C ₃ H ₇	Q ³ -20-1	-COOH
1-20-2			Q ³ -20-2	-OH
1-20-3		-C ₂ H ₅	Q ³ -20-3	-Br
1-20-4			Q ³ -20-4	
1-20-5		-CH ₃	Q ³ -20-5	-OCOCH=CH ₂
1-21-1			Q ³ -21-1	-COOH
1-21-2		-OCH ₃	Q ³ -21-2	-OCOC(CF ₃)=CH ₂
1-21-3			Q ³ -21-3	-COOH
1-21-4		-CH ₃	Q ³ -21-4	-OH
1-21-5		-CH(CH ₃) ₂	Q ³ -21-5	-NH ₂

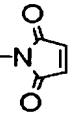
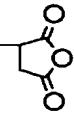
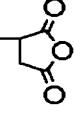
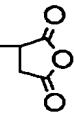
【0166】

<表10>

化合物番号	R ¹	Q ¹	Q ³	Y ¹
1-22-1			Q ³ -22-1	
1-22-2		-CH ₃	Q ³ -22-2	-COOH
1-22-3		-CH ₃	Q ³ -22-3	-OCH=CH ₂
1-22-4			Q ³ -22-4	-OH
1-22-5		-CH ₃	Q ³ -22-4	-NH ₂
1-22-6			Q ³ -22-4	-COOH
1-22-7		-C ₂ H ₅	Q ³ -22-4	
1-22-8		-CH(CH ₃) ₂	Q ³ -22-5	-OCOCH=CH ₂
1-23-1			Q ³ -23-1	-COOH
1-23-2		-CH ₃	Q ³ -23-2	-NH ₂
1-23-3		-OCH ₃	Q ³ -23-2	-COOH
1-23-4		-C ₃ H ₇	Q ³ -23-3	-OCOC(CH)=CH ₂
1-23-5		-CH(CH ₃) ₂	Q ³ -23-4	-COOH
1-23-6		-CH ₃	Q ⁴ -323-4	-NH ₂
1-23-7		-OCH ₃	Q ³ -23-5	-OH

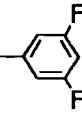
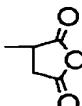
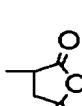
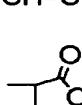
【0167】

<表11>

化合物番号	R ¹	Q ¹	—	Q ³	Y ¹
1-24-1			—	Q ³ -24-1	—COOH
1-24-2		—CH ₃	—	Q ³ -24-2	
1-24-3		—CH ₃	—	Q ³ -24-2	—OH
1-24-4			—	Q ³ -24-3	—OH
1-24-5		—C ₃ H ₇	—	Q ³ -24-4	—COOH
1-24-6			—	Q ³ -24-5	—COOH
1-25-1		—C ₄ H ₉	—	Q ³ -25-1	
1-25-2		—CH ₃	—	Q ³ -25-2	—OCOC(CH)=CH ₂
1-25-3			—	Q ³ -25-3	—COOH
1-25-4		—CH ₃	—	Q ³ -25-3	—NH ₂
1-25-5		—C ₂ H ₅	—	Q ³ -25-4	
1-25-6		—CH ₃	—	Q ³ -25-4	—OH
1-25-7			—	Q ³ -25-4	—COOH
1-26-1		—OCH ₃	—	Q ³ -26-1	—OH
1-26-2			—	Q ³ -26-2	

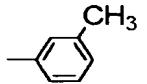
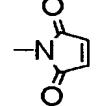
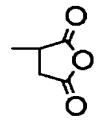
【0168】

<表12>

化合物番号	R ¹	Q ¹	Q ³	Y ¹
1-26-3		—OCH ₃	Q ³ -26-3	—OCOC(CF ₃)=CH ₂
1-26-4		—CH ₃	Q ³ -26-4	—OH
1-26-5			Q ³ -26-4	—COOH
1-26-6			Q ³ -26-4	—NH ₂
1-26-7		—CH(CH ₃) ₂	Q ³ -26-4	
1-26-9		—C ₂ H ₅	Q ³ -26-5	—OH
1-26-10		—CH ₃	Q ³ -26-5	—OCOCH=CH ₂
1-27-1			Q ³ -27-1	—COCl
1-27-2			Q ³ -27-2	
1-27-3		—CH ₃	Q ³ -27-3	—COOH
1-27-4		—CH ₃	Q ³ -27-3	—OH
1-27-5			Q ³ -27-4	—OH
1-27-6			Q ³ -27-5	—COOH
1-27-7		—OCH ₃	Q ³ -27-5	—OCH=CH ₂
1-28-1			Q ³ -28-1	

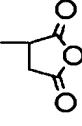
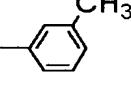
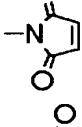
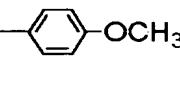
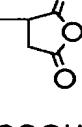
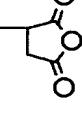
【0169】

<表13>

化合物番号	R ¹	Q ¹	Q ³	Y ¹
1-28-2		—C ₃ H ₇	Q ³ -28-2	—OCH=CH ₂
1-28-3		—Cyclopentyl	Q ³ -28-3	—COOH
1-28-4			Q ³ -28-4	—OH
1-28-5			Q ³ -28-4	—NH ₂
1-28-6		—C ₂ H ₅	Q ³ -28-5	—OCOCH=CH ₂
1-29-1			Q ³ -29-1	—CN
1-29-2		—CH ₃	Q ³ -29-2	—COOH
1-29-3		—CH(CH ₃) ₂	Q ³ -29-2	
1-29-4			Q ³ -29-3	—OCOC(CH)=CH ₂
1-29-5		—CH ₃	Q ³ -29-4	—COOH
1-29-6			Q ³ -29-4	—OH
1-29-7			Q ³ -29-4	—NH ₂
1-29-8		—CH ₃	Q ³ -29-4	
1-29-9		—OCH ₃	Q ³ -29-5	—C≡CH
1-29-10			Q ³ -29-5	—OH

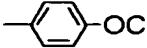
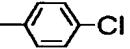
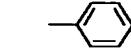
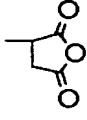
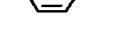
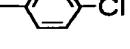
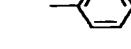
【0170】

<表14>

化合物番号	R ¹	Q ¹	Q ³	Y ¹
1-30-1			Q ³ -30-1	
1-30-2			Q ³ -30-2	-COOH
1-30-3		-CH ₃	Q ³ -30-2	-OH
1-30-4			Q ³ -30-2	-NH ₂
1-30-5		-CH(CH ₃) ₂	Q ³ -30-3	-OH
1-30-6			Q ³ -30-4	-CH=CHCH=CH ₂
1-30-7		-C ₃ H ₇	Q ³ -30-5	-CN
1-30-8		-C ₂ H ₅	Q ³ -30-5	
1-31-1			Q ³ -31-1	
1-31-2		-CH ₃	Q ³ -31-2	-COOH
1-31-3		-OC ₂ H ₅	Q ³ -31-3	-OCOCH=CH ₂
1-31-4			Q ³ -31-3	-OH
1-31-5			Q ³ -31-4	-CHO
1-31-6		-OCH ₃	Q ³ -31-4	
1-31-7			Q ³ -31-5	-OH

【0171】

<表15>

化合物番号	R ¹	Q ¹	Q ³	Y ¹
1-32-1			Q ³ -32-1	NH ₂
1-32-2			Q ³ -32-2	-OCOCH=CH ₂
1-32-3		-C ₃ H ₇	Q ³ -32-3	-OCH=CH ₂
1-32-4			Q ³ -32-4	-OH
1-32-5		-CH ₃	Q ³ -32-4	-COCl
1-32-6			Q ³ -32-4	
1-32-7		-CH(CH ₃) ₂	Q ³ -32-5	-OH
1-33-1		-CH ₃	Q ³ -33-1	
1-33-2			Q ³ -33-1	
1-33-3			Q ³ -33-2	-COOH
1-33-4		-OCH ₃	Q ³ -33-2	-NH ₂
1-33-5			Q ³ -33-3	-OH
1-33-6		-CH(CH ₃) ₂	Q ³ -33-3	-OCCH=CH ₂
1-33-7		-C ₂ H ₅	Q ³ -33-4	-OH
1-33-8			Q ³ -33-5	-COOH

【0172】

<表16>

化合物番号	R ¹	Q ¹	Q ³	Y ¹
1-34-1		-CH ₃	Q ³ -34-1	-COOH
1-34-2			Q ³ -34-2	-COOH
1-34-3		-OC ₂ H ₅	Q ³ -34-2	-NH ₂
1-34-4			Q ³ -34-2	
1-34-5		-C ₄ H ₉	Q ³ -34-3	-OH
1-35-1			Q ³ -35-1	-OCOC(CH)=CH ₂
1-35-2		-CH(CH ₃) ₂	Q ³ -35-2	-OH
1-35-3		-CH ₃	Q ³ -35-3	-COOH
1-36-1			Q ³ -36-1	-NH ₂
1-36-2			Q ³ -36-2	-OH
1-36-3		-C ₂ H ₅	Q ³ -36-3	
1-37-1			Q ³ -37-1	-CH=CH ₂
1-37-2		-CH(CH ₃) ₂	Q ³ -37-2	-COOH
1-37-3		-CH ₃	Q ³ -37-3	-COOH
1-38-1			Q ³ -38-1	



【0173】

<表17>

化合物番号	R ¹	Q ¹	Q ³	Y ¹
1-38-2	—	—	Q ³ -38-1	—COOH
1-38-3	—	—CH ₃	Q ³ -38-1	—NH ₂
1-38-4	—	—CH(CH ₃) ₂	Q ³ -38-2	—OH
1-38-5	—-Cl	—OCH ₃	Q ³ -38-3	
1-38-6	—	—C ₃ H ₇	Q ³ -38-3	—COOH
1-39-1	—	—-CH ₃	Q ³ -39-1	
1-39-2	—-OCH ₃	—CH=CH ₂	Q ³ -39-1	—NH ₂
1-39-3	—	—CH ₃	Q ³ -39-2	—COOH
1-39-4	—-F	—	Q ³ -39-2	—NH ₂
1-39-5	—	—-OC ₂ H ₅	Q ³ -39-3	—OH
1-40-1	—	—CH ₃	Q ³ -40-1	—OH
1-40-2	—	—-OC ₂ H ₅	Q ³ -40-1	—COCl
1-40-3	—	—C ₃ H ₇	Q ³ -40-1	—CN
1-40-4	—-F	—	Q ³ -40-2	—OCOC(CF ₃)=CH ₂
1-40-5	—	—-F	Q ³ -40-3	

【0174】

<表18>

化合物番号	R ¹	Q ¹	Q ³	Y ¹
1-41-1			Q ³ -41-1	-OH
1-41-2		-C ₄ H ₉	Q ³ -41-2	-COOH
1-41-3			Q ³ -41-3	
1-42-1		-OCH(CH ₃) ₂	Q ³ -42-1	-OH
1-42-2		-CH ₃	Q ³ -42-1	-OCH=CH ₂
1-42-3			Q ³ -42-2	-COOH
1-42-4		-CH ₃	Q ³ -42-3	-NH ₂
1-43-1		-CH ₃	Q ³ -43-1	-COOH
1-43-2			Q ³ -43-1	-OH
1-43-3			Q ³ -43-2	-OCOCH=CH ₂
1-43-4		-CH(CH ₃) ₂	Q ³ -43-3	-OH
1-44-1			Q ³ -44-1	-COCl
1-44-2		-C ₃ H ₇	Q ³ -44-2	-COOH
1-44-3			Q ³ -44-3	
1-45-1			Q ³ -45-1	

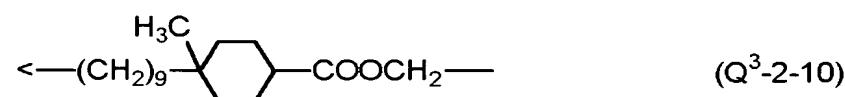
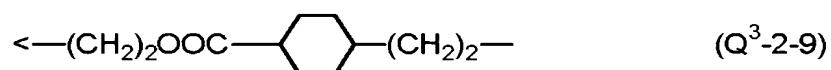
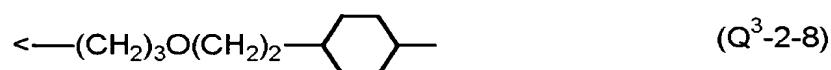
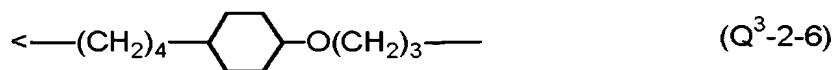
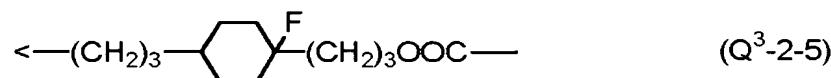
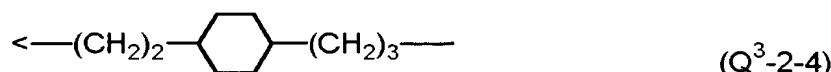
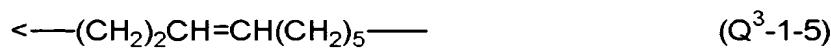
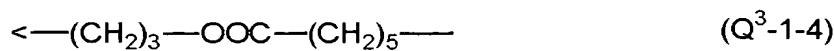
【0175】

<表19>

化合物番号	R ¹	Q ¹	Q ³	Y ¹
1-45-2			Q ³ -45-2	-COOH
1-46-1		-CH(CH ₃) ₂	Q ³ -46-1	-OH
1-46-2			Q ³ -46-2	
1-47-1			Q ³ -47-1	-NH ₂
1-47-2		-C ₂ H ₅	Q ³ -47-2	-OCOCH=CH ₂

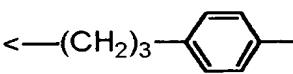
【0176】

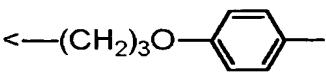
上記の表で、Q³の欄に記載のQ³-1-1～Q³-47-2の意味は、次に示す式（Q³-1-1）～式（Q³-47-2）の通りである。なお、これらの式における左端の記号「<」は、S i 原子との結合点を示す。

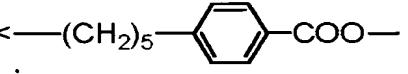




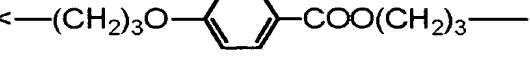
【0177】

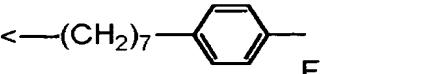
 (Q³-1)

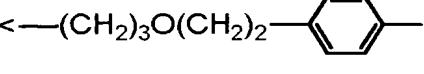
 (Q³-2)

 (Q³-3)

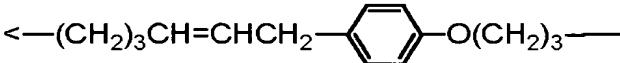
 (Q³-4)

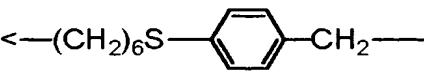
 (Q³-5)

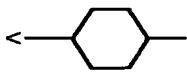
 (Q³-6)

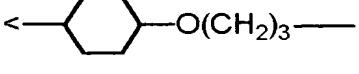
 (Q³-7)

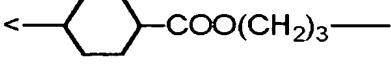
 (Q³-8)

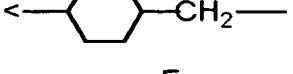
 (Q³-9)

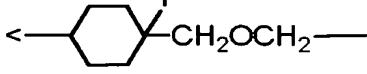
 (Q³-10)

 (Q³-4)

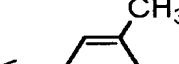
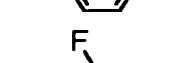
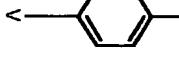
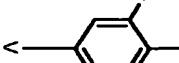
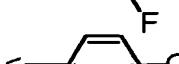
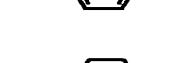
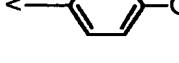
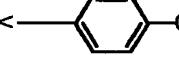
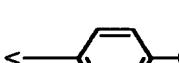
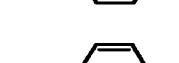
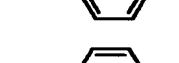
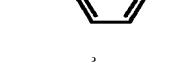
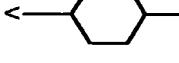
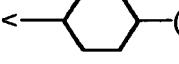
 (Q³-4)

 (Q³-4)

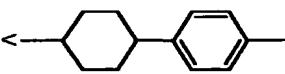
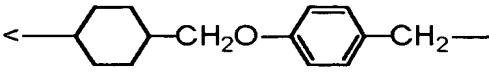
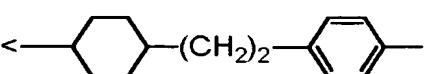
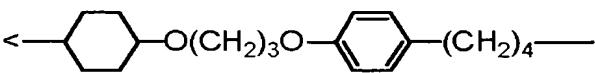
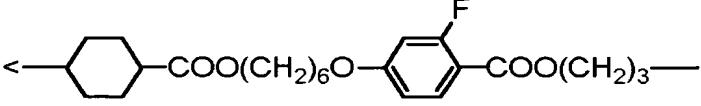
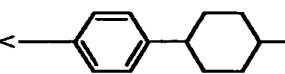
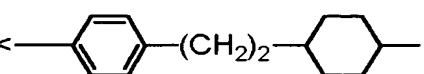
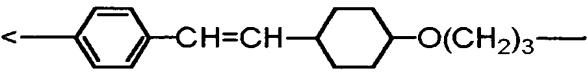
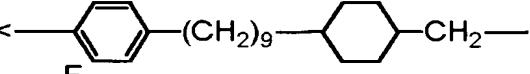
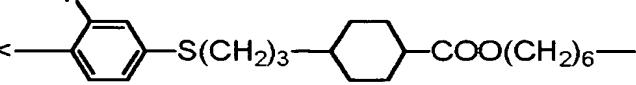
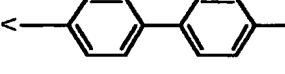
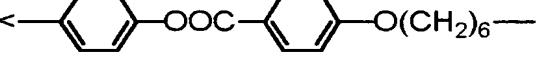
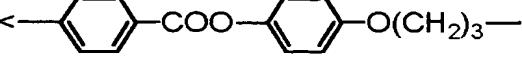
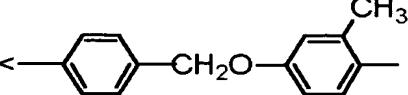
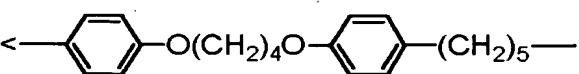
 (Q³-4)

 (Q³-4)

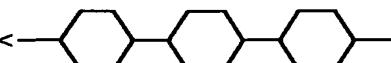
【0178】

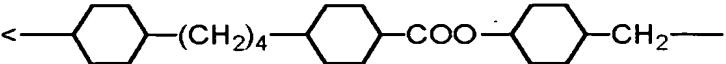
	(Q ³ -5-1)
	(Q ³ -5-2)
	(Q ³ -5-3)
	(Q ³ -5-4)
	(Q ³ -5-5)
	(Q ³ -5-6)
	(Q ³ -5-7)
	(Q ³ -5-8)
	(Q ³ -5-9)
	(Q ³ -5-10)
	(Q ³ -6-1)
	(Q ³ -6-2)
	(Q ³ -6-3)
	(Q ³ -6-4)
	(Q ³ -6-5)

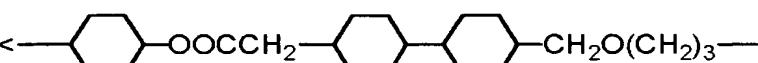
【0179】

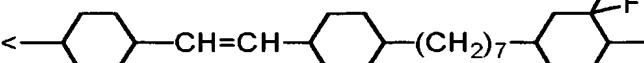
	(Q ³ -7-1)
	(Q ³ -7-2)
	(Q ³ -7-3)
	(Q ³ -7-4)
	(Q ³ -7-5)
	(Q ³ -8-1)
	(Q ³ -8-2)
	(Q ³ -8-3)
	(Q ³ -8-4)
	(Q ³ -8-5)
	(Q ³ -9-1)
	(Q ³ -9-2)
	(Q ³ -9-3)
	(Q ³ -9-4)
	(Q ³ -9-5)

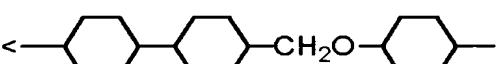
【0180】

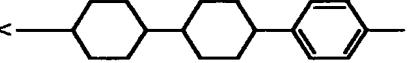
 (Q³-10-1)

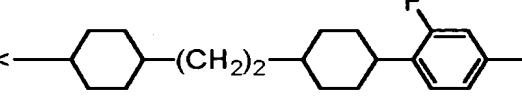
 (Q³-10-2)

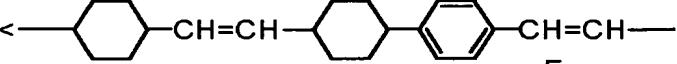
 (Q³-10-3)

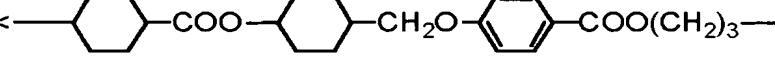
 (Q³-10-4)

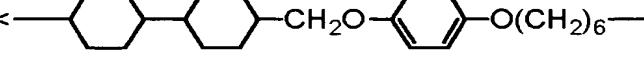
 (Q³-10-5)

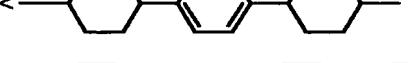
 (Q³-11-1)

 (Q³-11-2)

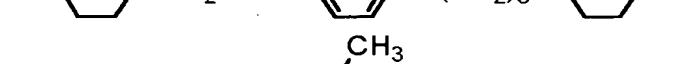
 (Q³-11-3)

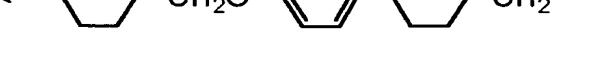
 (Q³-11-4)

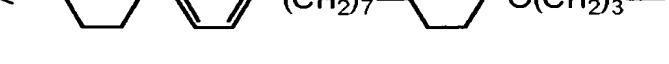
 (Q³-11-5)

 (Q³-12-1)

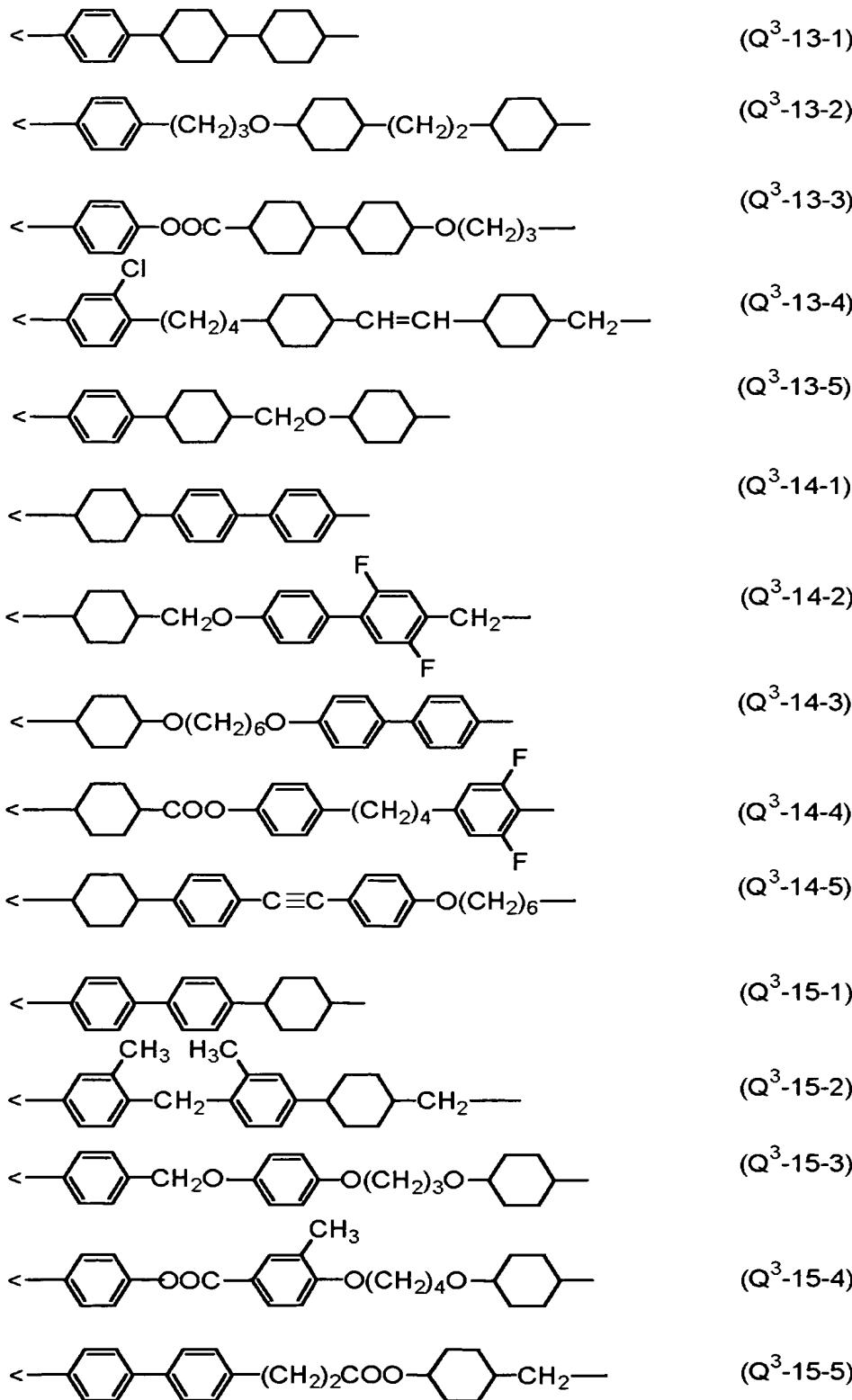
 (Q³-12-2)

 (Q³-12-3)

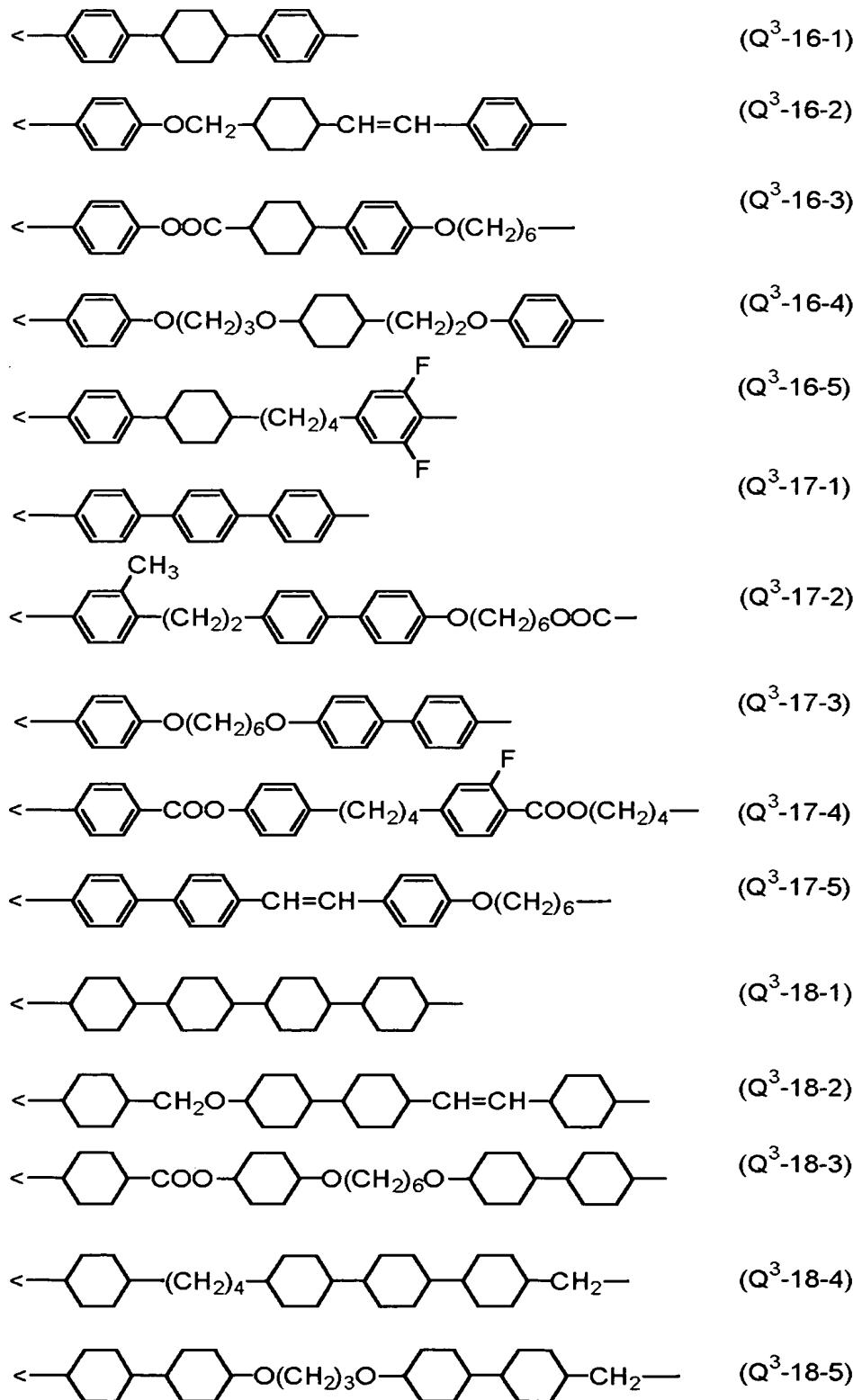
 (Q³-12-4)

 (Q³-12-5)

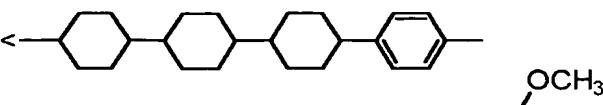
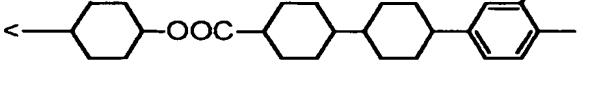
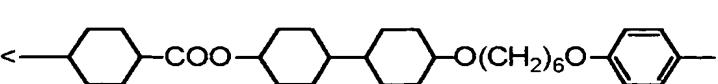
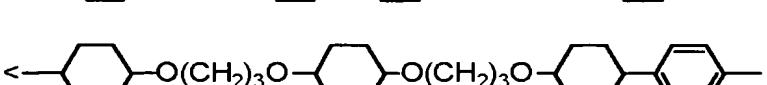
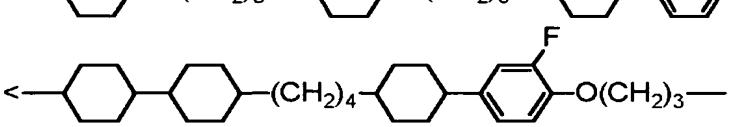
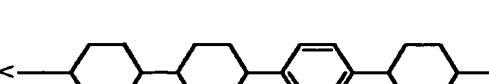
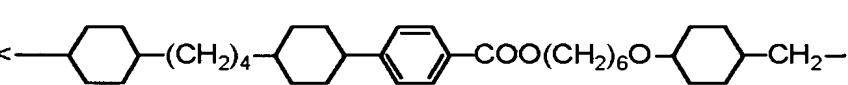
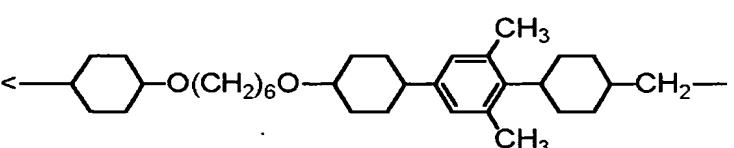
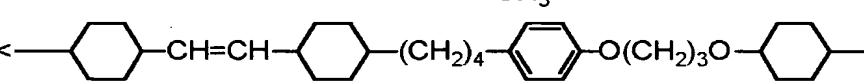
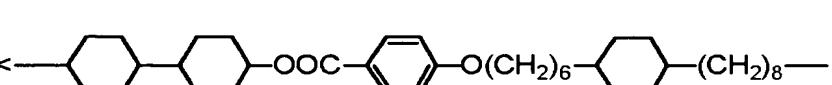
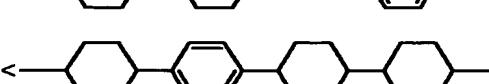
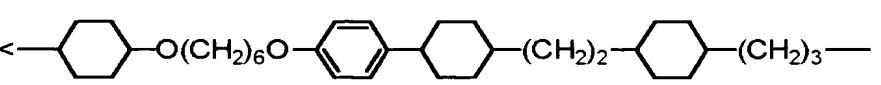
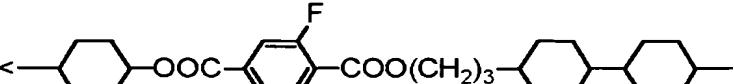
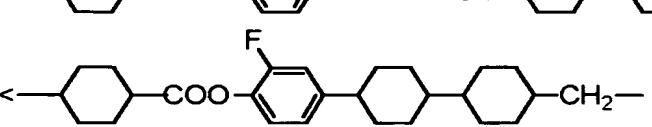
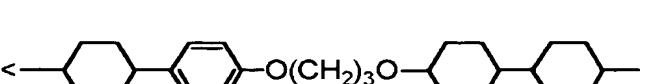
【0181】



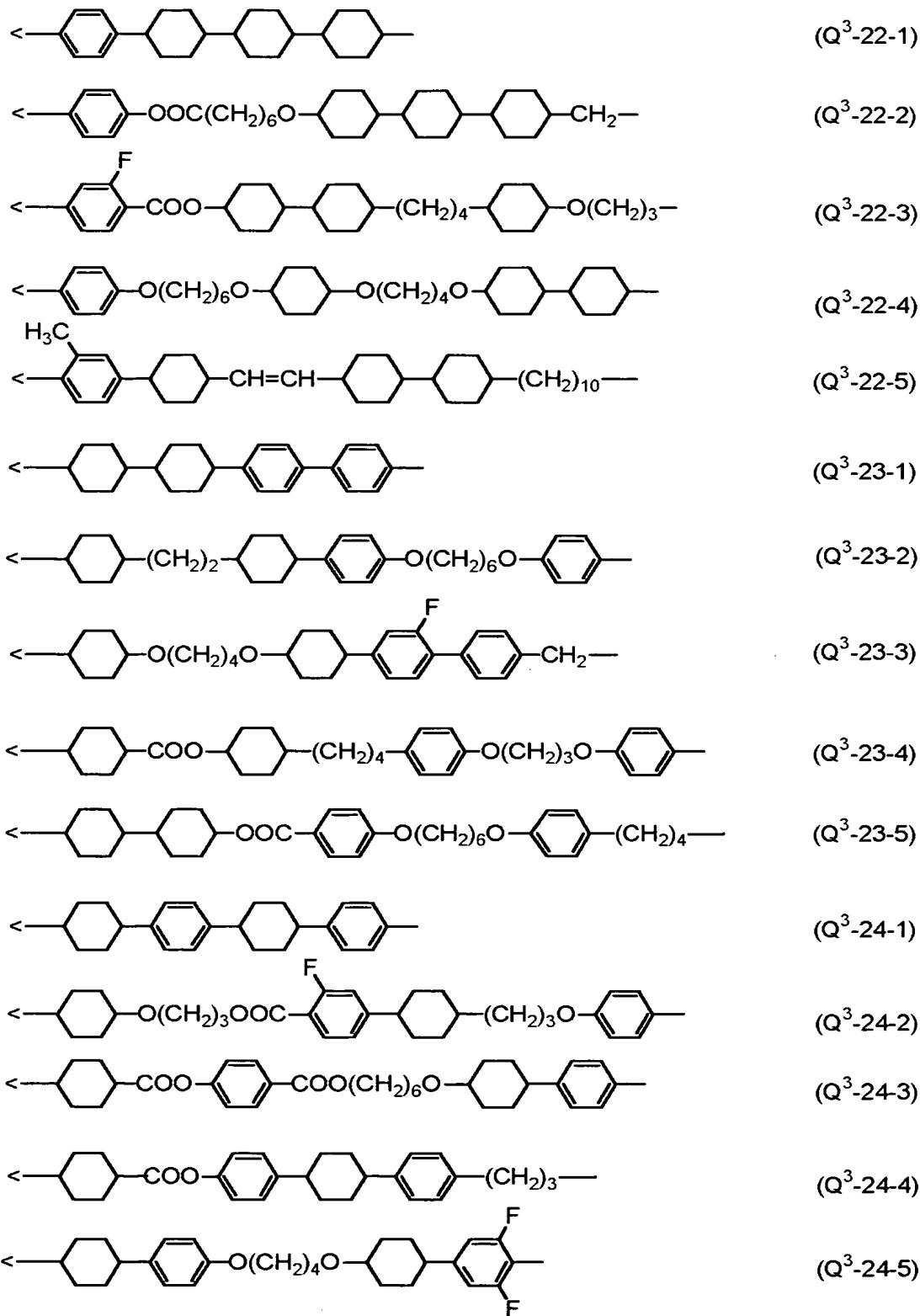
【0182】



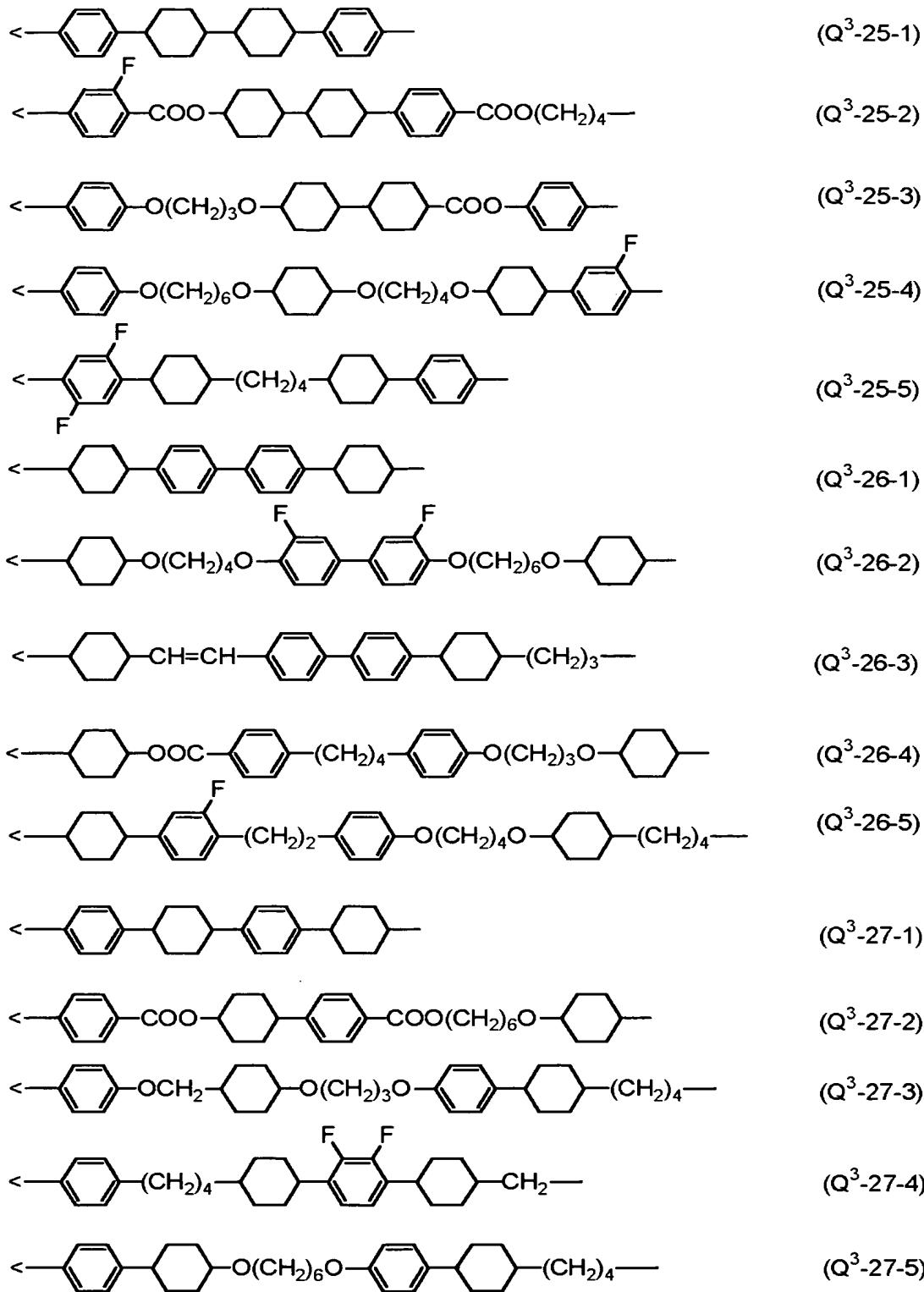
【0183】

	(Q ³ -19-1)
	(Q ³ -19-2)
	(Q ³ -19-3)
	(Q ³ -19-4)
	(Q ³ -19-5)
	(Q ³ -20-1)
	(Q ³ -20-2)
	(Q ³ -20-3)
	(Q ³ -20-4)
	(Q ³ -20-5)
	(Q ³ -21-1)
	(Q ³ -21-2)
	(Q ³ -21-3)
	(Q ³ -21-4)
	(Q ³ -21-5)

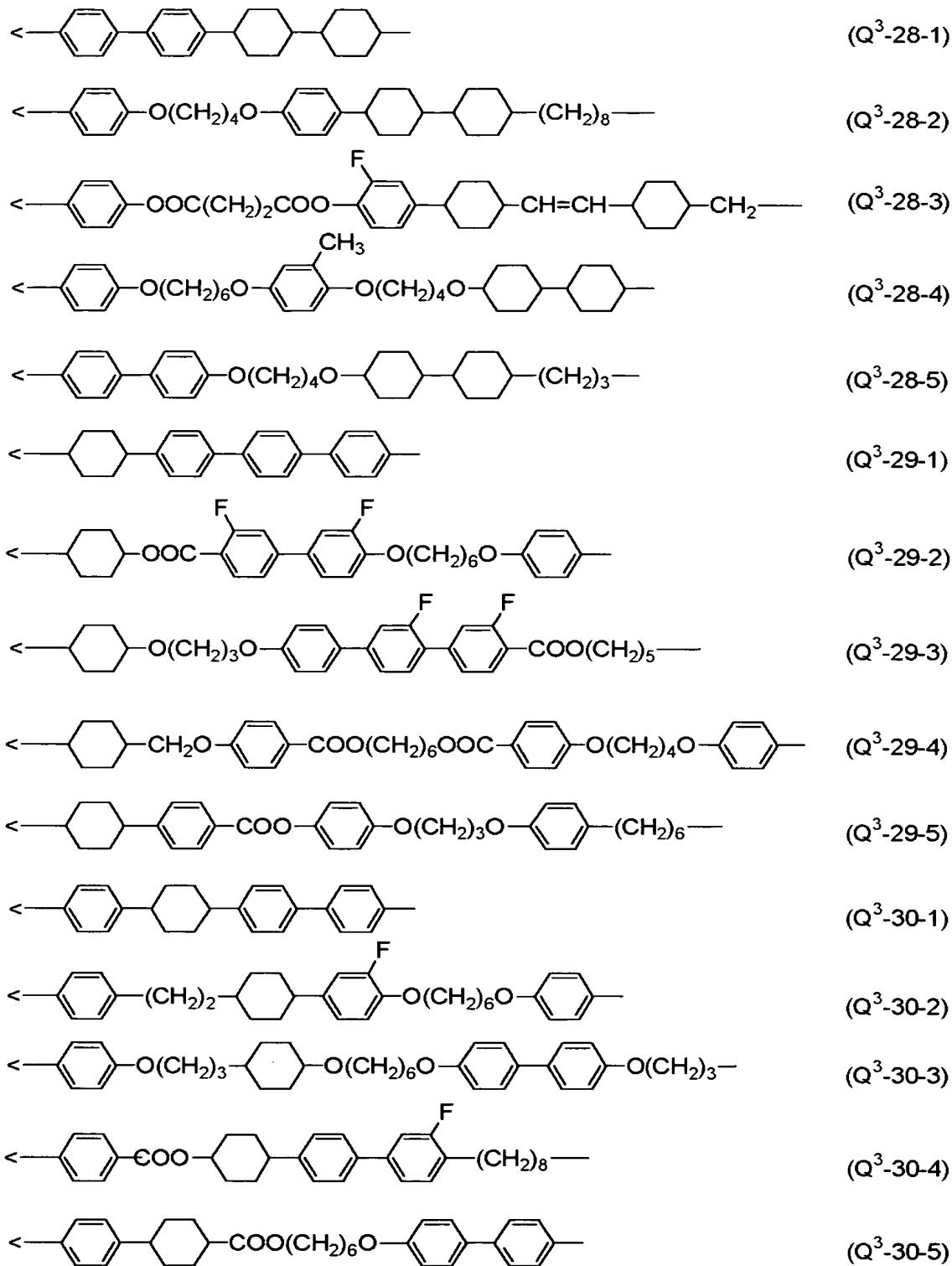
【0184】



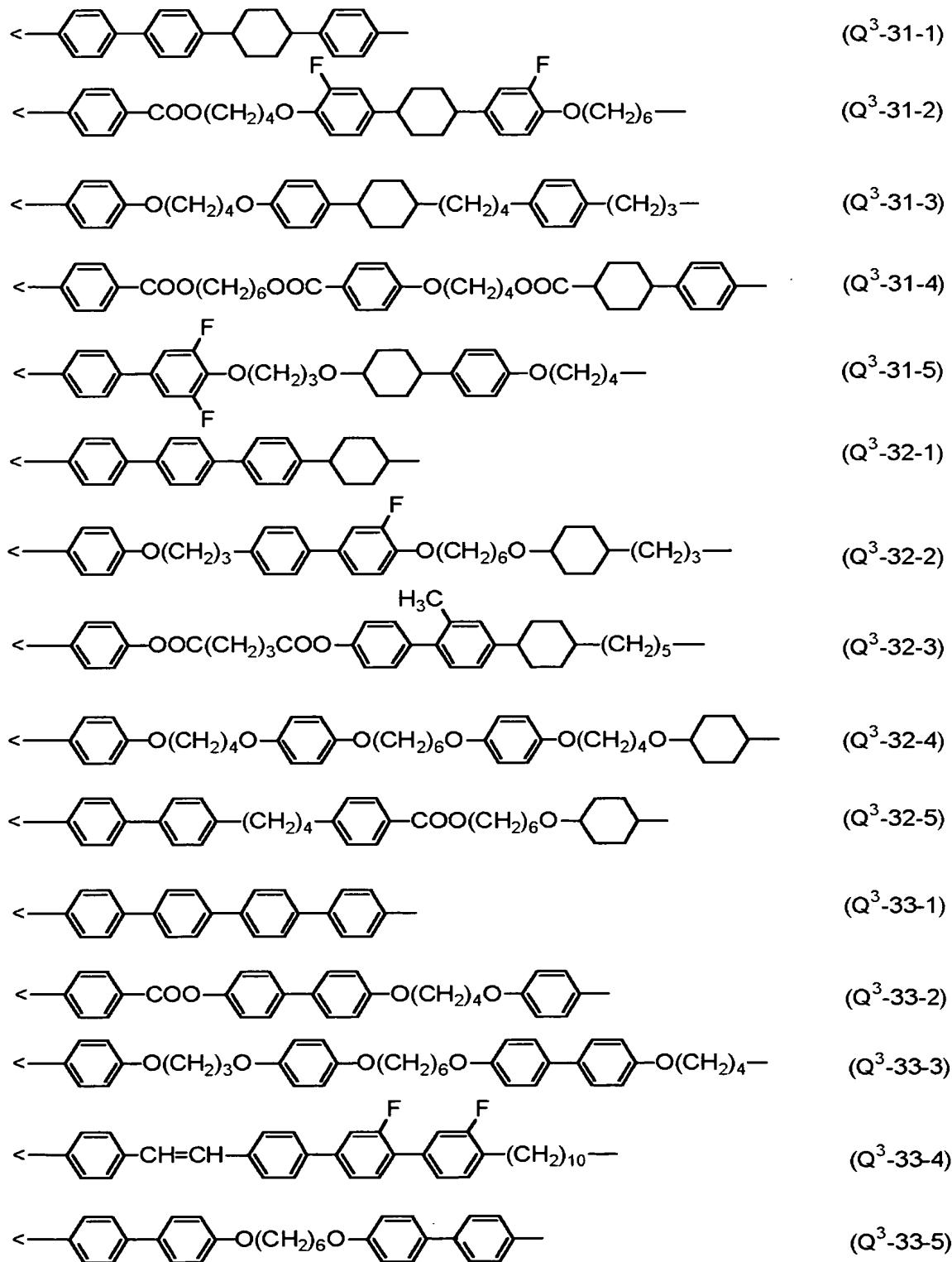
【0185】



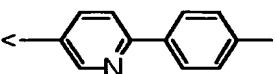
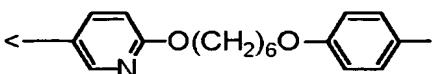
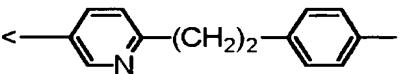
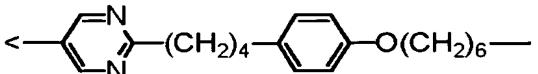
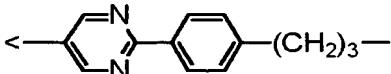
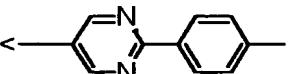
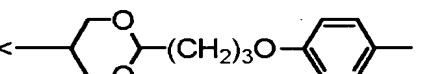
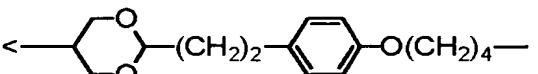
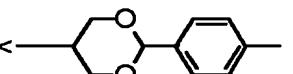
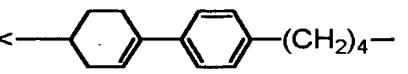
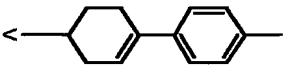
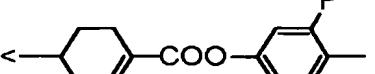
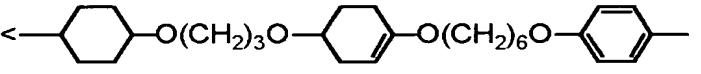
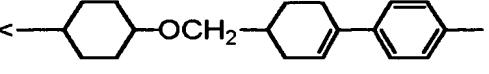
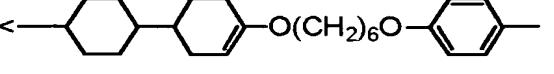
【0186】



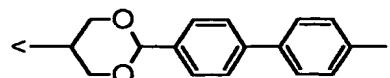
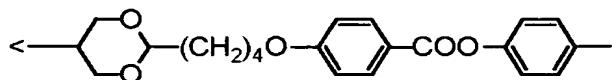
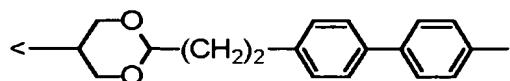
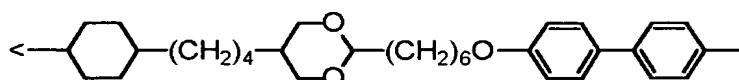
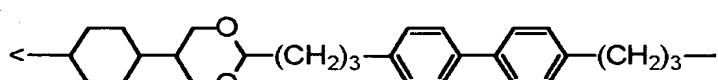
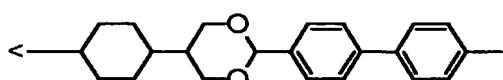
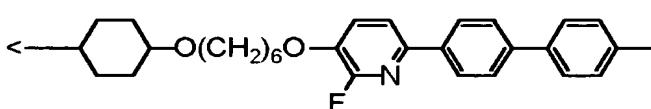
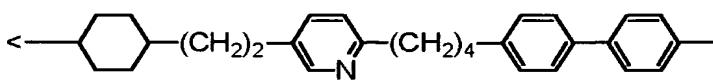
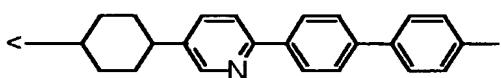
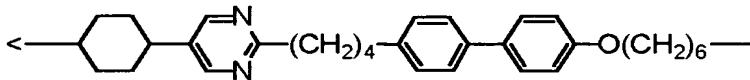
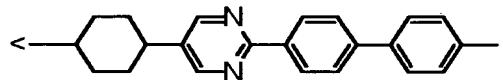
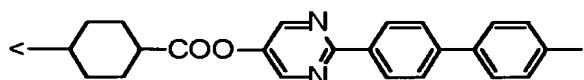
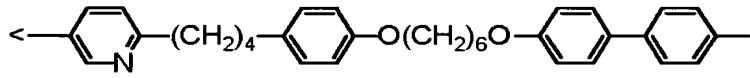
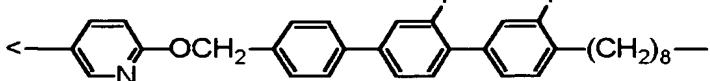
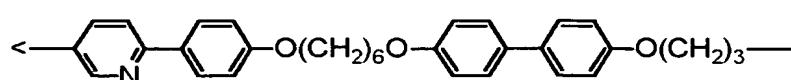
【0187】



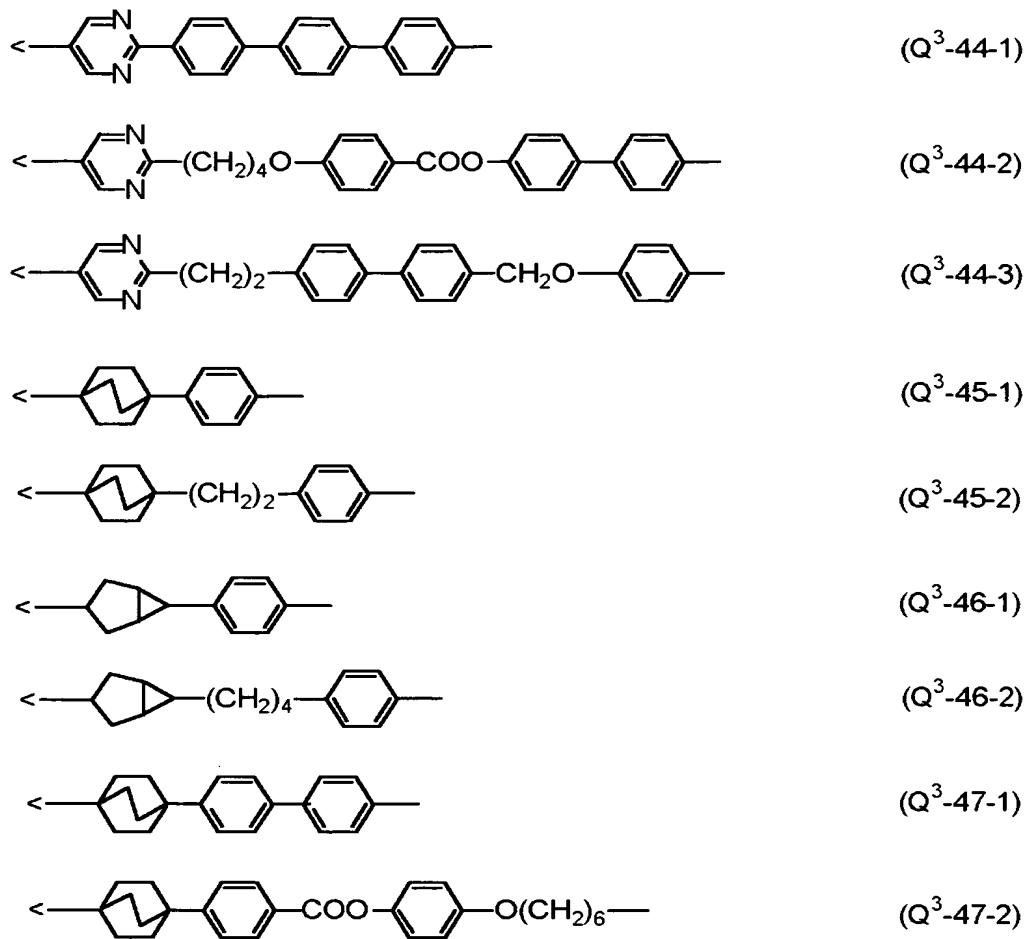
【0188】

	(Q ³ -34-1)
	(Q ³ -34-2)
	(Q ³ -34-3)
	(Q ³ -35-1)
	(Q ³ -35-2)
	(Q ³ -35-3)
	(Q ³ -36-1)
	(Q ³ -36-2)
	(Q ³ -36-3)
	(Q ³ -37-1)
	(Q ³ -37-2)
	(Q ³ -37-3)
	(Q ³ -38-1)
	(Q ³ -38-2)
	(Q ³ -38-3)

【0189】

(Q³-39-1)(Q³-39-2)(Q³-39-3)(Q³-40-1)(Q³-40-2)(Q³-40-3)(Q³-41-1)(Q³-41-2)(Q³-41-3)(Q³-42-1)(Q³-42-2)(Q³-42-3)(Q³-43-1)(Q³-43-2)(Q³-43-3)

【0190】



【0191】

比較例 1

<ポリアミド酸の製造 1>

窒素雰囲気下で、4, 4' -ジアミノジフェニルエーテル (2. 39 g) のNMP (4.5 g) 溶液を冷却した。反応系の温度を5~70℃の範囲内に保ちながら、この溶液にピロメリット酸二無水物 (2. 61 g) を添加した。次いで20時間攪拌して、重合体濃度が10重量%であるポリアミド酸ワニス (5.0 g)を得た。このワニスに含まれるポリアミド酸の名称をPA酸1とする。

【0192】

実施例 5

<ポリアミド酸の製造 2>

ピロメリット酸二無水物を化合物（1-1-6）（1.49g）に替え、4,4'–ジアミノジフェニルエーテルを化合物（1-3-7）（1.51g）に替え、そしてNMPの使用量を12gにした以外は比較例1と同様にして、重合体濃度が20重量%であるポリアミド酸ワニス（15g）を得た。このワニスに含まれるポリアミド酸の名称をPA酸2とする。

【0193】

実施例6

<ポリアミド酸の製造3>

化合物（1-1-6）をピロメリット酸二無水物（0.39g）に替え、化合物（1-3-7）の使用量を2.61gにした以外は実施例5と同様にして、重合体濃度が20重量%であるポリアミド酸ワニス（15g）を得た。このワニスに含まれるポリアミド酸の名称をPA酸3とする。

【0194】

実施例7

<ポリアミド酸の製造4>

化合物（1-1-6）の使用量を2.63gに替え、化合物（1-3-7）を4,4'–ジアミノジフェニルエーテル（0.38g）に替え、そしてNMPの使用量を7gに変えた以外は実施例5と同様にして、重合体濃度が30重量%であるポリアミド酸ワニス（10g）を得た。このワニスに含まれるポリアミド酸の名称をPA酸4とする。

【0195】

実施例8

PA酸1～PA酸4のそれぞれのワニスをブチルセロソルブで適当な濃度に希釈し、ガラス基板上にスピナーにて塗布した。80℃にて約5分間予備焼成し、それから220℃にて30分間、次いで300℃にて60分間加熱処理を行って、それぞれのポリイミド薄膜を形成させた。これらのポリイミド薄膜をPI-1、PI-2、PI-3およびPI-4とする。PI-1～PI-4について物性を測定した結果を表20に示す。

【0196】

実施例10

<ポリエステルの製造>

窒素雰囲気下で、化合物（1-1-2）（3.12 g、2.25 mmol）および1,4-ブタンジオール（0.40 g、4.44 mmol）の混合物にチタントリイソプロポキシド2滴を加え、220°Cで1時間加熱攪拌した。冷却後、内容物を取り出し、ポリエステル1.91 gを得た。

【0197】

実施例11

実施例10で得られたポリエステルの一部をNMP（9 g）に完全に溶解させ、この溶液をブチルセルソルブで適当な濃度に希釈して、ガラス基板上にスピナーを用いて塗布した。80°Cにて5分間予備乾燥した後、100°Cで1時間、220°Cで3時間加熱処理を行い、ポリエステル薄膜PE-1を得た。PE-1について物性を測定した結果を表20に示す。

【0198】

<表20>

	PI-1	PI-2	PI-3	PI-4	PE-1
鉛筆硬度	3H	2H	2H	2H	HB
屈折率	>1.710	1.599	1.601	1.556	1.58
光線透過率 (%)	49.0	91.2	87.5	95.8	99.6
表面自由エネルギー	40.4	31.7	31.9	29.8	31.6
熱分解開始温度 (°C)	182	375	360	377	366
5%重量減少温度 (°C)	199	438	460	448	387
10%重量減少温度 (°C)	231	502	518	496	413

(注1) 光線透過率は400 nmにおける測定値である。

(注2) 表面自由エネルギーの単位は erg/cm²である。

【0199】

実施例12

実施例10で得られたポリエステル（0.26 g）を用い、プレス機（上面、下面温度：260°C、プレス圧19.6 MPa）でプレスして、平均厚さ244 μmのポリエステル基板を得た。

【0200】

【発明の効果】

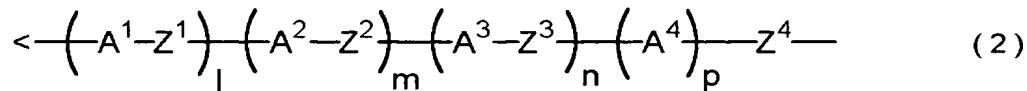
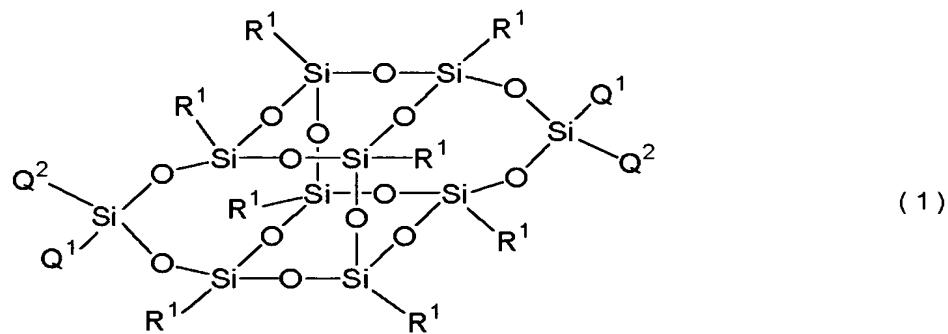
本発明の化合物は他の化合物や重合体との良好な相溶性を有し、単独重合または共重合により容易に主鎖および／または側鎖にシルセスキオキサン骨格を有する高分子量の重合体を得ることができる。この重合体は機械的強度、塗布性、相溶性、透明性、耐熱性、撥水性、電気絶縁性などの特性に優れる。そして、この重合体はコーティング材、プラスチック基板、光学材料などに使用できる。

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 耐熱性、電気絶縁性などに優れたポリオルガノシロキサンを、有機ポリマーの骨格に導入する試みがなされているが、期待される特性を十分に付与されたポリマーは未だ提供されていない。本発明の目的は、この問題点を解決するために有用なポリシリセスキオキサン誘導体を提供することであり、この誘導体を用いて得られる新規な重合体を提供することである。

【解決手段】 式（1）で示される構成単位を有する重合体。R¹は置換又は非置換のフェニルである。Q¹は水素、ハロゲン、アルキル、シクロアルキル、シクロヘキセニル又は置換もしくは非置換のフェニルである。Q²は式（2）で表される基である。<はケイ素との結合点を示す。l、m、n及びpは0～3の整数である。A¹～A⁴は単結合、シクロヘキシレン、シクロヘキセニレン、縮合環基又はフェニレンである。Z¹～Z³は環同士の結合基である。Z⁴は重合体の構造単位を連結する基である。



【選択図】 なし

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2003-067768
受付番号	50300411142
書類名	特許願
担当官	第六担当上席 0095
作成日	平成15年 3月24日

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】	申請人
【識別番号】	000002071
【住所又は居所】	大阪府大阪市北区中之島3丁目6番32号
【氏名又は名称】	チッソ株式会社
【特許出願人】	
【識別番号】	596032100
【住所又は居所】	東京都中央区勝どき三丁目13番1号
【氏名又は名称】	チッソ石油化学株式会社

次頁無



特願 2003-067768

出願人履歴情報

識別番号 [000002071]

1. 変更年月日 1990年 8月23日

[変更理由] 新規登録

住所 大阪府大阪市北区中之島3丁目6番32号
氏名 チツソ株式会社

特願 2003-067768

出願人履歴情報

識別番号 [596032100]

1. 変更年月日 2002年 7月 1日

[変更理由] 住所変更

住 所 東京都中央区勝どき三丁目13番1号
氏 名 チッソ石油化学株式会社